

東関東自動車道(木更津・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 3

—木更津市大門口遺跡・大門口古墳群—

平成17年 3月

日 本 道 路 公 団
財団法人 千葉県文化財センター

東関東自動車道(木更津・富津線) 埋蔵文化財調査報告書 3

きさらづしだいもんぐら いせき だいもんぐらこはんぐん
—木更津市大門口遺跡・大門口古墳群—



序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第519集として、日本道路公団の東関東自動車道（木更津・富津線）建設事業に伴って実施した木更津市大門口遺跡・大門口古墳群の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代の遺物・遺構や、古墳時代の竪穴住居跡が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行にあたり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年3月

財団法人千葉県文化財センター
理事長 清水新次

凡 例

- 1 本書は、日本道路公団による東関東自動車道（木更津・富津線）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は下記の通りである。

大門口遺跡	木更津市中烏田字鹿道150ほか	（遺跡コード 206-020）
大門口古墳群	木更津市中烏田字鹿道150ほか	（遺跡コード 206-021）

である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、日本道路公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は、第1章に記載したとおりである。
- 5 本報告書の執筆・編集は、主席研究員相京邦彦が担当し、上席研究員伊藤智樹の協力を得た。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、木更津市教育委員会の御指導・御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図	国土地理院発行	1/50,000	地形図「木更津」	(NI-54-25-4)
第2図	国土地理院発行	1/25,000	地形図「木更津」	(NI-54-25-4-2)
	国土地理院発行	1/25,000	地形図「鹿野山」	(NI-54-26-1-1)
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年に撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北であり、日本測地系に基づいている。
- 10 本書で使用した遺構番号は基本的には調査時のものを使用した。遺構を示す略称を使用して記載した。
- 11 遺物の色調については、農林水産省・（財）日本色彩研究所監修、日本色研事業株式会社発行「新版標準土色帖」1988年 掲載の用語を使用した。
- 12 本書で使用した遺構の略称は以下のとおりである。

SI	: 竪穴住居跡	SK	: 土坑	SM	: 古墳（方形墳）	SH	: ビット
----	---------	----	------	----	-----------	----	-------
- 13 本書で使用した遺物出土状況の凡例は以下のとおりである。

●	: 礫	○	: 土器	▲	: 石器	■	: 黒曜石	□	: 鉄器
---	-----	---	------	---	------	---	-------	---	------

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
1	調査の経緯	1
2	調査の方法	1
第2節	遺跡の位置と環境	3
1	遺跡周辺の地形	3
2	周辺の遺跡	3
第3節	基本層序	7
第2章	旧石器時代	14
1	調査の概要と方法	14
2	検出された遺物	14
第3章	縄文時代の遺構と遺物	16
第1節	炉穴・土坑・ピット群	16
1	調査の概要	16
2	検出された遺構・遺物	16
	SK-006~013・SK-015・SH-001~016	
第2節	集石土坑	19
	SX-001	
第3節	遺構外出土遺物	20
1	調査の概要	20
2	土器	20
3	土坑出土の土器	26
4	石器	26
第4節	礫群	27
第4章	古墳時代の遺構と遺物	48
第1節	古墳	48
	SM-001	48
	SM-002	48
	SM-003	52
	SM-004	52
第2節	竪穴住居跡	56

SI-001	56
SI-002	56
SI-003	59
SI-004	59
SI-005	60
SI-006	61
第3節 その他の遺構と遺物	65
1 遺構	66
SK-001~005	66
SK-014	66
SH-017	66
2 遺物	66
第5章 まとめ	74
報告書抄録	巻末

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置図	2	第19図 出土石器実測図(1)	29
第2図 周辺の遺跡分布図	4	第20図 出土石器実測図(2)	30
第3図 調査範囲と周辺地形(1/2500)	8	第21図 出土石器実測図(3)	31
第4図 上層確認調査と本調査範囲(1/2000)	9	第22図 出土石器実測図(4)	32
第5図 下層確認調査とブロック位置(1/2000)	10	第23図 出土石器実測図(5)	33
第6図 遺構分布図(1)	11	第24図 出土石器実測図(6)	34
第7図 遺構分布図(2)	12	第25図 礫群位置図	35
第8図 標準土層図・下層遺物出土状況図	14	第26図 001(2P・3P), 003(4L・4M)礫出土状況	36
第9図 旧石器時代石器	15	第27図 002(4L・5L), 004(5N)礫出土状況	37
第10図 SK-006~013・SK-015	17	第28図 005(14C・14D), 006(12G)礫出土状況	38
第11図 SH-001~016	18	第29図 遺構外出土礫集計(1) 礫破損率	39
第12図 SX-001集石土坑	19	第30図 遺構外出土礫集計(2) 破損礫赤化率	40
第13図 遺構外出土の縄文土器(1)	21	第31図 遺構外出土礫集計(3) 礫赤化率	41
第14図 遺構外出土の縄文土器(2)	22	第32図 遺構外出土礫集計(4) 礫重量分布	42
第15図 遺構外出土の縄文土器(3)	23	第33図 SM-001測量図・墳丘断面図	49
第16図 遺構外出土の縄文土器(4)	24	第34図 SM-002測量図・墳丘断面図	50
第17図 遺構外出土の縄文土器(5)	25	第35図 SM-003測量図・墳丘断面図	51
第18図 遺構内出土の縄文土器	26	第36図 SM-004測量図・墳丘断面図	53

第37図	SM-004埋葬施設	54	第44図	SI-005出土遺物	64
第38図	SM-002~004出土遺物	55	第45図	出土石製品実測図	64
第39図	SI-001実測図・出土遺物	57	第46図	SI-006実測図・出土遺物	65
第40図	SI-002実測図・出土遺物	58	第47図	SK-001~004実測図	67
第41図	SI-003実測図・出土遺物	60	第48図	SK-001~003出土遺物	68
第42図	SI-004・SK-005実測図・出土遺物	62	第49図	SK-014・SH-017実測図・出土遺物	69
第43図	SI-005実測図	63	第50図	遺構外出土の遺物	70

表 目 次

第1表	周辺の遺跡	4	第5表	出土礫集計表	47
第2表	遺構一覽	13	第6表	出土遺物観察表	72
第3表	石製品観察表	28	第7表	「仏」・「佛」墨書土器出土地名表	76
第4表	出土礫組成表	43			

図 版 目 次

図版 1	遺跡航空写真		図版 8	1 SM-003	
図版 2	1 古墳群 手前から4号墳			2 SM-003 (遺物出土状況)	
	2 古墳群 手前から1号墳			3 SM-003 (遺物出土状況)	
図版 3	1 14D-95			4 SM-004 (調査前)	
	2 15E-00-17		図版 9	1 SM-004	
	3 2P周辺			2 SM-004 (主体部検出状況)	
	4 4M-00周辺			3 SI-001	
図版 4	1 4L-52付近		図版10	1 SI-002	
	2 SK-006			2 SI-002 (遺物出土状況)	
	3 SK-007~009			3 SI-003	
図版 5	1 SK-010~013		図版11	1 SI-004	
	2 SK-015			2 SI-004 (遺物出土状況)	
	3 SX-001 (集石出土状況)			3 SI-005	
	4 SX-001 (掘り形)		図版12	1 SI-006	
図版 6	1 SM-001 (調査前)			2 SK-001	
	2 SM-001 (調査後)			3 SK-002	
	3 SM-002 (調査前)			4 SK-003	
図版 7	1 SM-002 (調査後)			5 SK-004	
	2 SM-002 (周溝遺物出土状況)		図版13	1 SK-005	
	3 SM-003 (調査前)			2 SK-014	

- | | | | |
|------|------------------|------|------------|
| 図版14 | 旧石器時代石器 (上段1~ 5) | 図版19 | 縄文土器 (4) |
| | 縄文時代石器 (下段1~18) | 図版20 | 縄文土器 (5) |
| 図版15 | 縄文時代石器 | 図版21 | 縄文土器 (6) |
| 図版16 | 1 縄文時代石器・砥石 | 図版22 | 土師器・刀子 |
| | 2 縄文土器 (1) | 図版23 | 土師器・白玉 |
| 図版17 | 縄文土器 (2) | 図版24 | 土師器 |
| 図版18 | 縄文土器 (3) | 図版25 | 土師器・須恵器・鏡貨 |

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

1 調査の経緯

日本道路公団では、千葉市から富津市に至る高速自動車道である館山自動車道（路線名「東関東自動車道 千葉・富津線」）を計画し、千葉・木更津間はすでに工事が完成し供用されている。引き続き、木更津市・富津市間の21.6kmについても事業化され、木更津・富津線として建設が進められている。

建設用地内には多くの遺跡が所在しており、その取扱いについて千葉県教育委員会と日本道路公団とで慎重な協議が進められた。その結果、現状保存が困難な部分については、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、平成12年度に実施し、これらの成果をもとに平成16年度に整理作業を行い報告書の刊行となった。

発掘調査及び整理作業の担当者と事業内容は以下のとおりである。

平成12年度 発掘調査

調査期間 平成12年6月1日～平成12年10月13日

調査場所 木更津市中島田字鹿道150ほか

調査の対象 確認調査 上層 1,800㎡/17,700㎡

検出遺構 古墳4基（円墳3基，方形墳1基）

組織 南部調査事務所 所長 高田 博 担当職員 上席研究員鈴木良征 研究員城田義友

調査期間 平成12年10月14日～平成13年3月31日

調査場所 木更津市中島田字鹿道150ほか

調査の対象 確認調査 下層 708㎡/17,700㎡

本調査 上層 6,850㎡/17,700㎡

古墳4基

検出遺構 炉穴8基，礫集中地点6か所，ピット17基，土坑8基，堅穴住居跡6軒

組織 南部調査事務所 所長 高田 博 担当職員 研究員行川 永

平成16年度 整理作業

調査期間 平成16年4月1日～平成16年9月30日

組織 南部調査事務所 所長 高田 博 担当職員 主席研究員相京邦彦

2 調査の方法（第3・4・5・25図）

調査に先立ち本事業対象範囲全体にグリッドを設定した。大グリッドは20m×20mで北側から南側に向かって1・2・3区，西側から東側に向かってアルファベットでA・B・C区の大グリッドを設定した。西北隅の大グリッドを「1A」区と呼称し，次を2Aとし，さらに，この大グリッド内に一辺2m×2m



第1図 遺跡の位置図

の小グリッドを、西端を00とし00～99までの小グリッドを100個設定し、遺構の図化および出土遺物の記録に使用した。従って小グリッドは14D-95、15E-00の様に呼称した。

発掘調査は、すでに確認されていた4基の古墳状の高まりを避けて、調査対象面積の約10%について、トレンチ・グリッドを設定して、遺構の種類やその時期そしてその広がりを知るために確認調査を行った。その結果、縄文時代早期から縄文時代中期の遺物包含層と礫群、古墳時代前期の集落と古墳時代の墓、奈良・平安時代の墓域であることが明らかとなり、遺構の確認されなかった部分を除いた範囲を本調査範囲とした。

礫群の調査については、礫の出土密度を考慮して礫の出土した範囲全体の調査は避け、密度の高い範囲の調査に限定した。礫の出土に関しては出土レベル及び出土層がほぼ一定であったので、個々の礫について出土層を記録することはしなかった。

上層の遺構調査の終了後に、下層の確認調査を実施した。下層の確認調査は、まず対象面積の2%に2m×2mの小グリッドを設定し、クラムシェルを併用して実施した。その結果、15E-00と14D-95の2グリッドから遺物の出土が確認されたため、この15E-00グリッドの周囲の拡張と、さらに全域へ2%の小グリッドを設定し、都合4%の確認調査を実施した。しかし、遺物の出土した2グリッドの外からの遺物の出土はなかった。また、遺物の出土したグリッドについても拡張区の15E-01から遺物が2点出土したのみで、確認調査が終了した。

4基の古墳状の高まりは、古墳時代の古墳3基と、奈良・平安時代と推定される方形墳1基であったことが判明した。

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡周辺の地形(第1・2・3・25図)

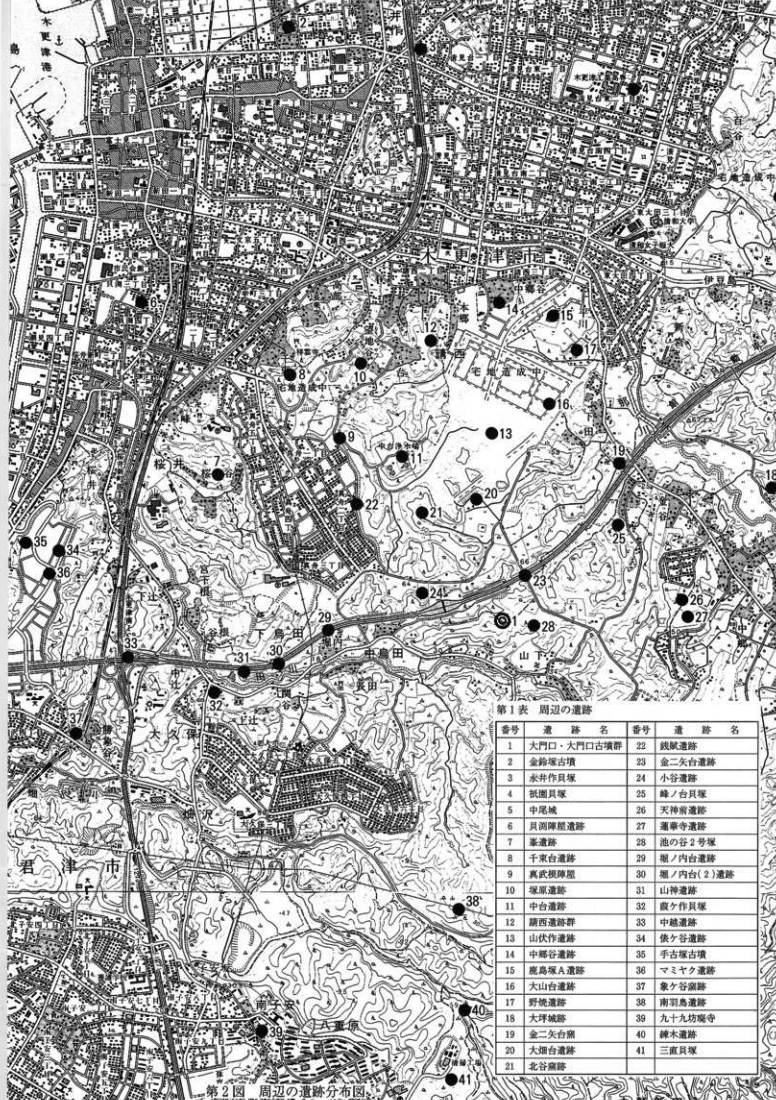
大門口遺跡・大門口古墳群の位置は、東から北は小櫃川、南は小糸川という清澄山系を源流とし東京湾へ注ぐ河川に挟まれた木更津台地の南部に当たる。木更津台地は、更に小河川によって樹枝状に開析されており、大門口遺跡・大門口古墳群は、北東側を矢那川により、南側を烏田川により開析された樹枝状谷に面し、標高60mほどの台地上に位置する。

2 周辺の遺跡(第2図)

大門口遺跡・大門口古墳群(1)の周辺は、古くは明治時代末期から昭和40年代にかけて葎ヶ作貝塚(32)、祇園貝塚(4)、永井作貝塚(3)などの縄文時代の貝塚や金鈴塚古墳(2)などの学術調査が若干行われてきた¹⁾が、昭和50年代から大規模な区画整理事業が進められており、主に財団法人津津都市文化財センターによって発掘調査が実施されている。よって、以下、既調査遺跡の成果を中心に周辺の歴史的状況を概観することとした。

旧石器時代は、東関東自動車道建設に伴って当センターが調査した金二矢台遺跡(23)^{2,30)}・堀ノ内台(2)遺跡(30)³¹⁾・中越遺跡(33)³¹⁾のほか、マミヤク遺跡(36)³¹⁾・大畑台遺跡(20)^{6,7)}・天神前遺跡(26)⁸⁾・蓮華寺遺跡(27)⁹⁾などで石器ブロックが検出されている。

縄文時代は、金二矢台遺跡(23)・南羽鳥遺跡(38)³⁰⁾のほか、堀ノ内台遺跡(29)・請西遺跡群の野焼B遺跡(17)³⁰⁾・塚原遺跡(10)¹¹⁾・千束台遺跡(8)¹²⁾・大畑台遺跡群の小谷遺跡(24)^{13,14)}・銭賦遺跡(22)¹⁵⁾・大畑台



第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	大門口・大門口古墳群	22	銭賦遺跡
2	金鈴塚古墳	23	金二欠台遺跡
3	永井作貝塚	24	小谷遺跡
4	紙園貝塚	25	崎ノ台貝塚
5	中尾城	26	天神前遺跡
6	貝淵陣屋遺跡	27	蓮華寺遺跡
7	基遺跡	28	池の谷2号塚
8	千束台遺跡	29	堀ノ内台遺跡
9	真武根陣屋	30	堀ノ内台(2)遺跡
10	塚原遺跡	31	山神遺跡
11	中台遺跡	32	霞ヶ作貝塚
12	講西遺跡群	33	中越遺跡
13	山伏作遺跡	34	依ヶ谷遺跡
14	中野谷遺跡	35	手古塚古墳
15	鹿島塚A遺跡	36	マミヤク遺跡
16	大山台遺跡	37	象ヶ谷遺跡
17	野地遺跡	38	南羽鳥遺跡
18	大坪城跡	39	九十九坊庵寺
19	金二欠台跡	40	榊木遺跡
20	大畑台遺跡	41	三直貝塚
21	北谷遺跡		

第2図 周辺の遺跡分布図

遺跡(20)で早期の礎群が検出されている。また、早期の炉穴は野焼B遺跡・天神前遺跡で、陥穴は天神前遺跡(26)、中越遺跡(33)で、前期の堅穴住居跡は大畑台遺跡(20)で検出されている。中期以降については、練木遺跡(40)³⁰で中期の集落が検出されている。さらに、三直貝塚(41)では縄文後期に作られた環状土盛遺構をはじめ大形の堅穴住居跡、土坑、貝層などが発見されている。また、マミヤク遺跡(36)では、草創期から後期の土器が、永井作貝塚(3)、霞ヶ作貝塚(32)では堀之内式、加曾利B式、安行式などの後期の土器が、祇園貝塚(4)、峰ノ台貝塚(25)では阿玉台式、棚板式、加曾利E式、称名寺式、加曾利B式、安行式など中・後期の土器が採集されている。

弥生時代は、中期に請西遺跡群(12)の鹿島塚A遺跡(15)³¹、大山台遺跡(16)³¹、山伏作遺跡(13)³¹、野焼遺跡(17)^{31,32}、千束台遺跡(8)に集落が出現し、その内、環濠集落は鹿島塚A遺跡(15)、千束台遺跡(8)に検出されている。なお、小櫃川流域の沖積地である菅生遺跡では水田が検出されている。後期には請西遺跡群の中郷谷遺跡(14)³¹、大山台遺跡(16)、野焼遺跡(17)、千束台遺跡群(8)、天神前遺跡(26)、塚原遺跡(10)、小浜遺跡群のマミヤク遺跡(36)、俵ヶ谷遺跡(34)で集落を形成する。なお、方形周溝墓は野焼遺跡(17)、大畑台遺跡(20)に見られる。

古墳時代は、請西をはじめとする台地上の縁辺部では集落が、内部では古墳群が形成される傾向が見られる。また、沖積地の砂丘列上においても金鈴塚古墳(2)をはじめとする現木更津市街地や君津市南子安地域で見られる。また、百谷地域と畑沢地域の丘陵斜面には横穴墓群が形成されている。前期には、大畑台遺跡群の中台遺跡(11)³¹、大畑台遺跡(20)、請西遺跡群の野焼遺跡(17)、千束台遺跡群(8)、蓮華寺遺跡(27)、中越遺跡(33)、マミヤク遺跡(36)、俵ヶ谷遺跡(34)で集落が検出され、中越遺跡(33)の住居跡からは小銅鐸が出土している。前期古墳は大畑台遺跡(20)、請西遺跡群の野焼古墳群(17)、小浜遺跡群の手古塚古墳(35)³¹で検出されている。中期には大畑台遺跡群の大畑台遺跡(20)、千束台遺跡群(8)、塚原遺跡(10)³¹、天神前遺跡(26)、小浜遺跡群のマミヤク遺跡(36)、俵ヶ谷遺跡(34)に集落が営まれる。後期には、集落は大畑台遺跡群の小谷遺跡(24)、銭賦遺跡(22)、中台遺跡(11)、大畑台遺跡(20)、請西遺跡群の中郷谷遺跡(14)、山神遺跡(31)^{31,32}、中越遺跡(33)、峯遺跡(7)³¹、マミヤク遺跡(36)、俵ヶ谷遺跡(34)と主に烏田川沿いに展開する。後期古墳は、集落が消えた請西遺跡群の鹿島塚古墳群(15)³¹、千束台遺跡群(8)、小浜古墳群の関田塚古墳に造営される。

奈良・平安時代は、当地域は『和名抄』記載の周准郡域に、北側の小櫃川流域の沖積地は望佐郡域に推定されている。集落は烏田川に面した台地縁辺に多く分布する。大畑台遺跡群の大畑台遺跡(20)で8世紀後半～9世紀前半集落と堀立柱建物跡、銭賦遺跡(22)で8世紀以降の火葬墓、方形墳墓、小谷遺跡(24)で8世紀～9世紀の集落、基壇建物、火葬墓、方形墳墓、中台遺跡(11)で8世紀後半～9世紀前半の集落が検出されている。また、請西遺跡群の鹿島塚遺跡(15)で集落が、野焼遺跡(17)で集落と円形周溝状遺構が検出されている。ほかに、天神前遺跡(26)で方形周溝状遺構が、中越遺跡(33)と山神遺跡(31)で集落が検出されている。また、小谷遺跡(24)は瓦葺基壇建物跡が検出され、瓦塔、瓦堂などの仏教関連遺物が出土していることから、周辺遺跡から多く検出されている火葬墓など墓地と寺院、集落の有機的な関係が窺われる。なお、石櫃については、現在までに千葉県内でも多く検出されており、そのほとんどが軟質砂岩や凝灰岩質砂岩製が多い。これらの多くは市原市武士遺跡の9基を筆頭に上総国西部地域に集中する傾向にあり、当地域では、南羽鳥遺跡(38)の1基のほか金二矢台遺跡(23)³¹、堀ノ内台遺跡(29)³¹、大畑台遺跡(20)で3基、マミヤク遺跡(36)で1基、さらに東関東自動車道(木更津・富津線)建設に伴う調査で練木

遺跡(40)、踊ヶ作遺跡などでも1基検出されている²⁴⁾。また、古代寺院としては、小櫃川流域の川原寺系軒丸瓦の上総大寺、小安地域の山田寺系軒丸瓦の九十九坊廃寺(39)が調査され、後者は周准郡の郡寺に推定されている。また、瓦窯には象ヶ谷窯(37)・大鷲窯、須惠器窯では北谷窯(21)、金二矢台窯(19)が確認されている。

中世は、当地域は周東郡域に推測される。当地域の中世前期については不明な点が多いが、政治的には、北側の小櫃川流域の沖積地では12世紀から14世紀にかけて菅生荘が藤原家や近衛家によって継承されており、菅生遺跡の発掘調査でも当該期の遺物を伴う館跡の堀が検出されている。生産の面では、矢那川流域の大野五郎右衛門遺跡は平安末期以来の鋳物師として文書を伝え、屋敷周辺で鉄滓が採集される。また、交通面では、堀ノ内台遺跡(29)の北約150mの三叉路(大字中島田・下島田・請西・真舟の境界)に江戸初期と伝えられる「北ハかまくらみち・右ハからす田道・左ハ高くら道」の石製道標が存在し、西方へ伸びる道路は鎌倉街道にも推定されており²⁵⁾、中・近世の主要道路であった。中世後期(戦国時代)には、15世紀後半から真里谷城を本拠とした真里谷武田氏が領域化し、16世紀中頃に降同氏は衰亡し、後北条氏と里見氏の領域紛争の地域となる。中世城館跡としては、中尾城跡(5)、請西城跡(12?)、大坪城跡(18)が台地上に存在する。

近世には、貝淵藩の貝淵陣屋(6)、それを継承した請西藩の真武根陣屋(9)が造られた。また、塚は、矢那川・島田川沿いに多く点在することから、中世以降は、谷津を生産基盤とした集落が営まれたようである。

中・近世の調査された遺跡としては、天神前遺跡(26)の14世紀後半～15世紀前半の墓域、小浜遺跡群の西谷塚(近世)²⁶⁾、池ノ谷2号墳(近世)(28)²⁷⁾などがある。

注1 木更津市 1972 『木更津市史』

2 角川書店 1984 『角川日本地名大辞典 12 千葉県』

3 井上哲朗・豊田秀治・小笠原永隆 2000 『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書6-木更津市金二矢台遺跡・堀之内台遺跡-』 財団法人千葉県文化財センター

4 麻生正信 1994 『木更津市中越遺跡出土の小銅鑄について』『研究連絡誌』42 財団法人千葉県文化財センター

5 小沢 洋 1989 『小浜遺跡群Ⅱ マミヤク遺跡』 財団法人君津郡市文化財センター

6 井上賢他 1996 『大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ-大畑台遺跡-』 木更津市教育委員会

7 當眞嗣史 1997 『大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ-大畑台遺跡-』 木更津市教育委員会

8 小高幸男 1992 『天神前遺跡発掘調査報告書』 財団法人君津郡市文化財センター

9 松本 勝 1994 『蓮華寺遺跡Ⅱ』 財団法人君津郡市文化財センター

10 稲葉昭智・當眞嗣史・豊池幸正 1991 『請西遺跡群発掘調査報告書Ⅲ-野焼B遺跡・野焼古墳群第2号墳・鹿島B遺跡・中郷谷遺跡-』 木更津市教育委員会

11 財団法人君津郡市文化財センター 1996 『千束台遺跡』『塚原遺跡』『年報No.13』

12 財団法人君津郡市文化財センター 1995 『千束台遺跡』『年報No.12』

13 今泉 深・笹生 衛 1994 『大畑台遺跡群遺跡発掘事前総合調査報告書-鏡賦遺跡・小谷遺跡-』 木更津市教育委員会

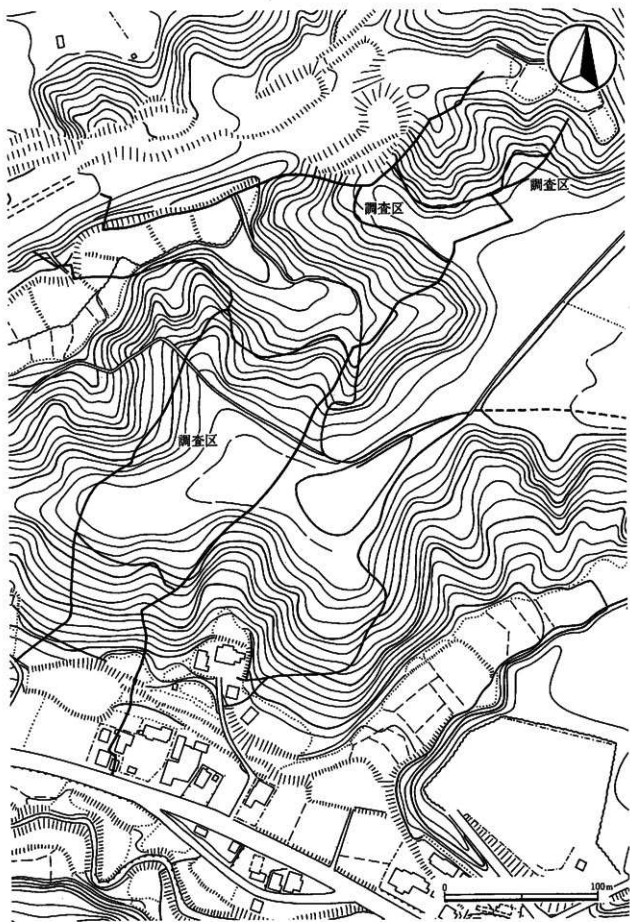
14 甲斐博幸 1998 『大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅲ-小谷遺跡-』 木更津市教育委員会

- 15 岡野祐二 1994 「諸西遺跡群Ⅲ-鹿島塚A遺跡-」 財団法人君津都市文化財センター
- 16 豊巻幸正 1990 「諸西遺跡群発掘調査報告書Ⅱ-大山台遺跡-」 木更津市教育委員会
- 17 山形美智子 1994 「諸西遺跡群発掘調査報告書V-山伏作遺跡-」 木更津市教育委員会
- 18 酒巻忠史・山形美智子 1995 「諸西遺跡群発掘調査報告書VI-野焼A遺跡-」 木更津市教育委員会
- 19 小石 誠 1983 「中台遺跡発掘調査報告書」 中台遺跡発掘調査委員会
- 20 財団法人千葉県文化財センター 1993 「山神遺跡」【千葉県文化財センター年報No18】
- 21 財団法人千葉県文化財センター 1994 「山神遺跡」【千葉県文化財センター年報No19】
- 22 浅野雅則 1983 「峯遺跡発掘調査報告書」 峯遺跡発掘調査団
- 23 富真嗣史他 1995 「千葉県-上総・安房-」【東日本における奈良・平安時代の墓制-墓制をめぐる諸問題-】
第Ⅱ分冊 東日本埋蔵文化財研究会
- 24 笹生 衛 1993 「第6章 古代の信仰」【房総考古学ライブラリー7 歴史時代(1)】 財団法人千葉県文化財センター
- 25 小熊吉蔵 1993 「鎌倉街道」【史蹟名勝天然記念物調査】第十輯 千葉県
- 26 小沢 洋他 1990 「小浜遺跡群Ⅲ-浜ヶ谷古墳・西谷塚・浜清水遺跡・二十歩古墳・丸山塚・関田塚古墳群-」
財団法人君津都市文化財センター
- 27 松本明子 1997 「池ノ谷2号塚」 財団法人君津都市文化財センター
- 28 田島 新 2003 「東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書1-君津市練木遺跡-」 財団法人千葉県文化財センター
- 29 杉山晋作 1973 「千葉県木更津市手古塚古墳の調査速報」【古代】 早稲田大学考古学研究会
市毛 勲 1998 「朱の考古学」 雄山閣出版
加藤修司 2000 「手古塚古墳」【研究紀要21 房総地方における前期古墳の展開】 財団法人千葉県文化財センター
- 30 伊藤智樹 2004 「東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書2-木更津市金二矢台遺跡・南羽鳥遺跡-」 財団法人千葉県文化財センター

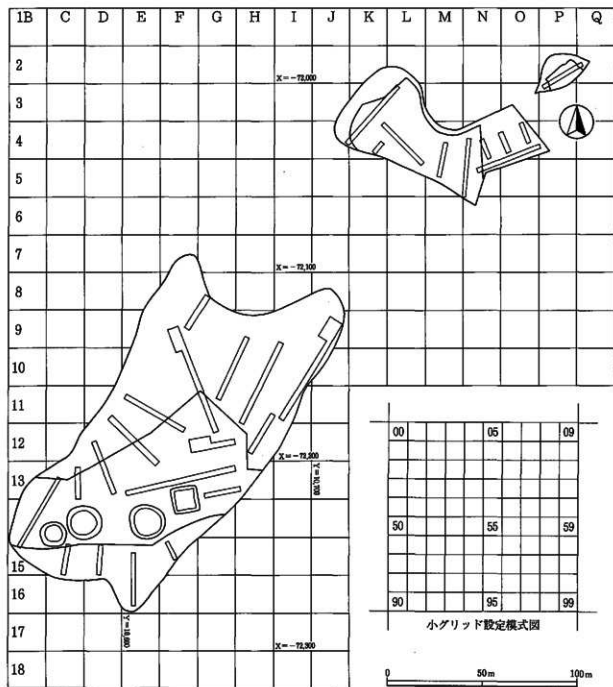
第3節 基本層序(第5・8図)

上層及び下層の確認調査の結果から判明した調査区内の基本層序は以下の通りで、4N-48グリッドの土層断面を図化した。

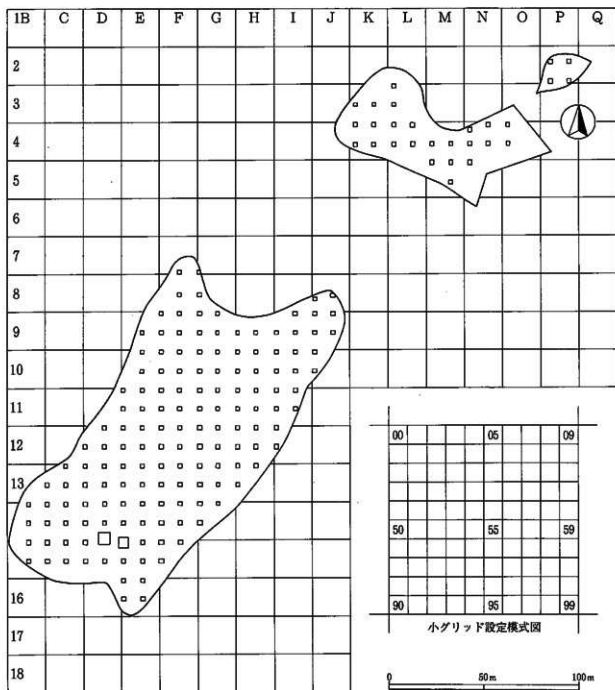
- | | |
|--|---------------------|
| 0層 : 表土 黒褐色土で表土層である。 | 点が見られるのに対して、4層で |
| 1層 : 褐色土 柔らかく、少ししまりがある。 | は見られない。 |
| 2層 : 黒褐色土 霜降り状に褐色土が混在する。 | IV層 : 暗褐色土 |
| Ⅲ層 : 3層 : 明黄褐色土 明灰色の斑点が見られる。 | V層 : 暗褐色土 IV層より暗い。 |
| Ⅲ層 : 4層 : 明黄褐色土 立川ローム層最上層に該当する。いわゆる「ソフトローム層」である。本遺跡においては、Ⅲ層は上位(3層)と下位(4層)に分けられた。3層は明灰色の斑 | VI層 : A T層 相対的に明るい。 |
| | IXa層 : 暗赤褐色土 |
| | IXb層 : 褐色土 |
| | IXc層 : 暗褐色土 |
| | X層 : 明褐色土 |



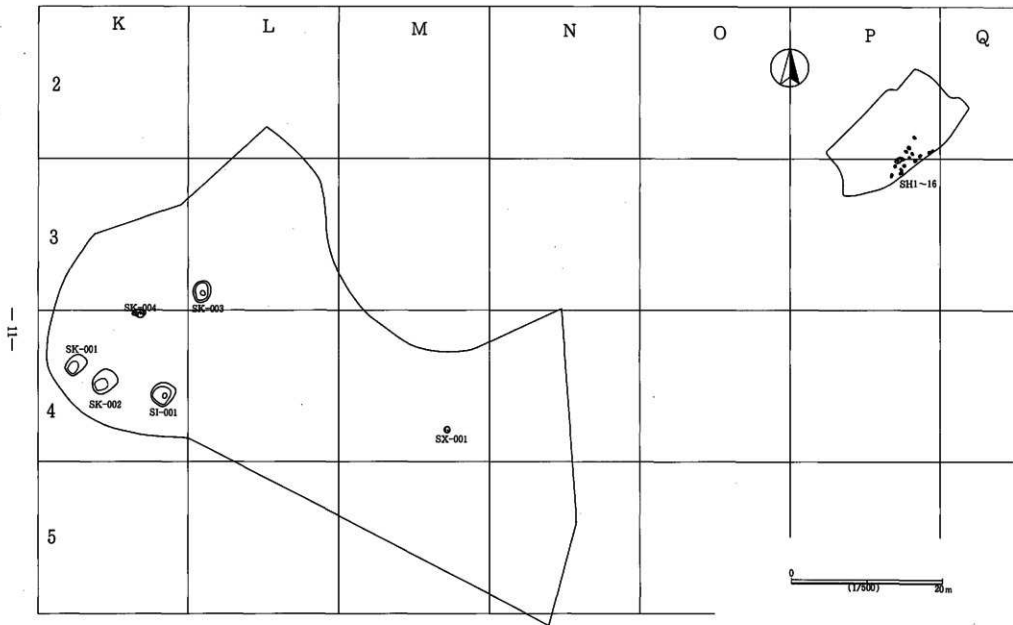
第3図 調査範囲と周辺地形



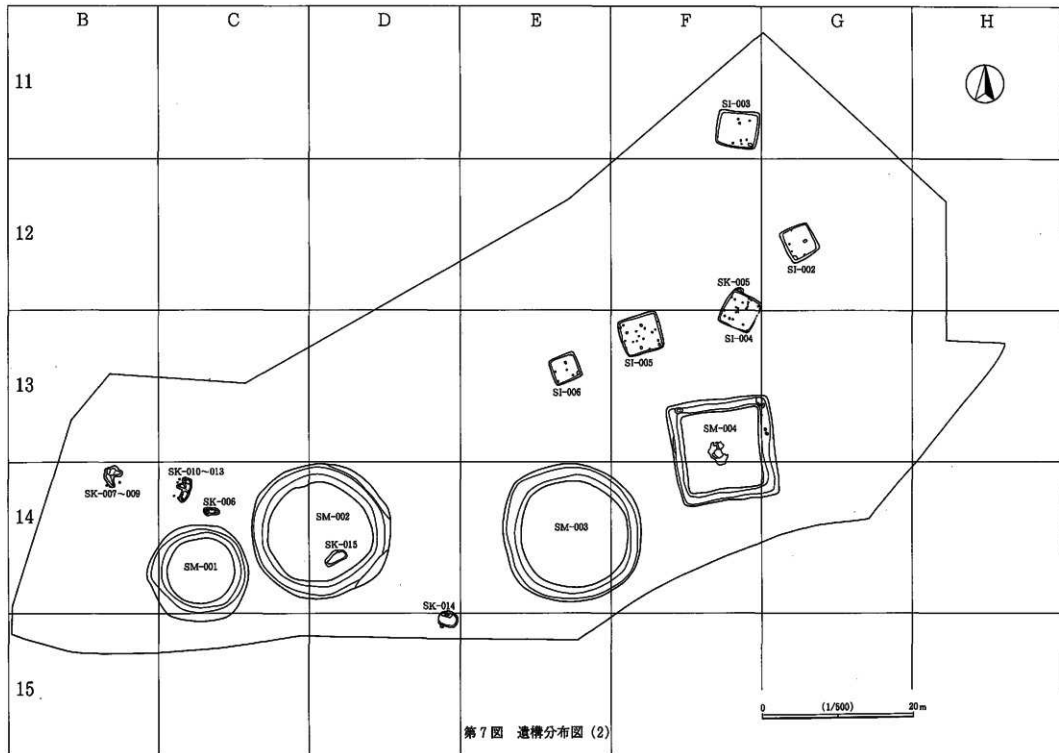
第4図 上層確認調査と本調査範囲



第5図 下層確認調査とブロック位置



第6図 遺構分布図(1)



第7図 遺構分布図(2)

第2表 遺構一覧

No.	棟号	遺構番号	種類	時代	グリッド	その他	主軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	柱穴	貯蔵穴
1	10	SK-006	土坑・FP	縄文時代	14C-23		2.25	1.00	0.21		
2	10	SK-007	土坑・FP	縄文時代	14B-06		2.25	0.90	0.13		
3	10	SK-008	土坑・FP	縄文時代	14B-06		2.35	0.75	0.19		
4	10	SK-009	土坑・FP	縄文時代	14B-06		2.00	0.70	0.20		
5	10	SK-010	土坑・FP	縄文時代	14C-12		1.80	0.70	0.15		
6	10	SK-011	土坑・FP	縄文時代	14C-12		2.20	0.75	0.23		
7	10	SK-012	土坑・FP	縄文時代	14C-12		1.20	0.55	0.30		
8	10	SK-013	土坑・FP	縄文時代	14C-12		1.00	0.70	0.23		
9	10	SK-015	土坑	縄文時代?	14D-61	土器は縄文土器破片のみ	3.15	1.55	0.15		
10	11	SX-001	掘出土土坑	縄文時代	4 M-77	溝	0.85	0.75	0.24		
11	12	SH-001	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.22	0.16	0.60		
12	12	SH-002	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.50	0.35+	0.10		
13	12	SH-003	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.50	0.40	0.50		
14	12	SH-004	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.65	0.50	0.28		
15	12	SH-005	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.51	0.40	0.33		
16	12	SH-006	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.48	0.40	0.15		
17	12	SH-007	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.50	0.45	0.35		
18	12	SH-008	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.30	0.28	0.40		
19	12	SH-009	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.50	0.45	0.40		
20	12	SH-010	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.70	0.40	0.13		
21	12	SH-011	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.78	0.70	0.42		
22	12	SH-012	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.46	0.42	0.53		
23	12	SH-013	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.34	0.26	0.44		
24	12	SH-014	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.46	0.22	0.50		
25	12	SH-015	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.52	0.40	0.22		
26	12	SH-016	ピット群	縄文時代	3 P-05	遺物なし	0.70	0.38	0.15		
27	34	SM-001	古墳	古墳時代	14C-62		13.30	13.30			
28	35	SM-002	古墳	古墳時代	14C-94		18.30	17.70			
29	36	SM-003	古墳	古墳時代	14B-48		19.40	18.20			
30	37	SM-004	古墳	古墳時代	13P-97		14.20	13.40			
31	40	SI-001	竪穴住居跡	古墳時代	4 K-49	中央に炉跡?、火葬跡?	3.37	2.95	0.50	-	-
32	41	SI-002	竪穴住居跡	古墳時代	12C-52		4.07	4.33	0.45	4	1
33	42	SI-003	竪穴住居跡	古墳時代	11F-66	短軸の壁幅に2本、炉の反対側に2本	4.75	5.38	0.50	6	1
34	43	SI-004	竪穴住居跡	古墳時代	12P-87	SK005と重祿炉2ヶ所	4.50	4.45	0.50	多数	0
35	44	SI-005	竪穴住居跡	古墳時代	13P-00		4.90	5.40	0.43	多数	1
36	46	SI-006	竪穴住居跡	古墳時代	13B-35		3.42	3.68	0.34	5	1
37	47	SK-001	土坑	土師器	4 K-22		3.00	2.35	0.38		
38	47	SK-002	土坑	土師器	4 K-35	遺物は少量	3.60	2.85	0.40		
39	47	SK-003	土坑	土師器	3 L-80	遺物なし、形はSK1・2に類似	2.90	2.35	0.27		
40	47	SK-004	土坑	土師器	4 K-06	焼土ブランクあり	1.80	1.05	0.85	3	
41	43	SK-005	土坑	奈良・平安時代	12F-87	SI004を切る	1.00	0.65+	0.18		
42	49	SK-014	土坑	奈良・平安時代	15D-09	土師器出土	2.70	1.90	0.34		
43	49	SH-017	ピット	奈良・平安時代	15D-09	土師器伴出土	0.55	0.45	0.10		

第2章 旧石器時代

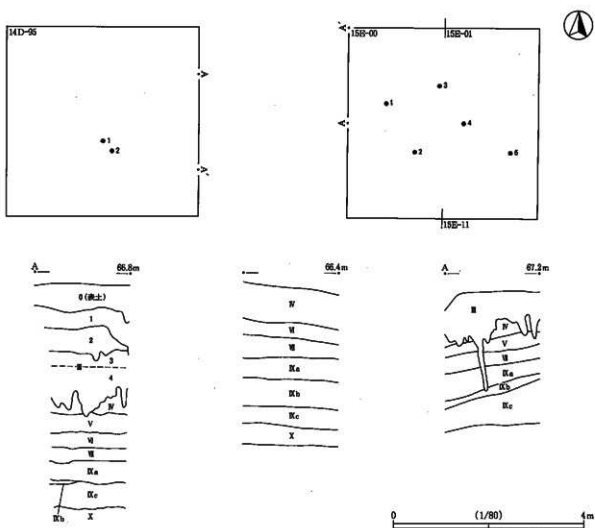
1 調査の概要と方法 (第5・8図)

下層の確認調査は、調査対象地内に2m×2mの小グリッドを177か所設定し、X層上部が確認される深さまで掘削を実施した。その結果、14D-95グリッドと15E-00・01グリッドから遺物が出土した。詳細は以下の通りである。

2 検出された遺物 (第8・9図, 図版3・14)

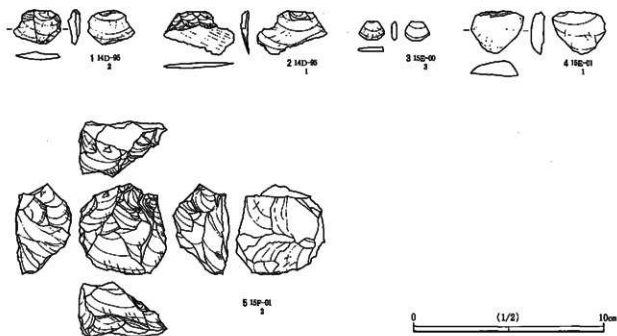
下層の確認調査及び周囲のグリッドの拡張によって、総数9点の遺物が出土したが図化できたのは5点で、その他は小破片で図化できる遺物はなかった。

1は14D-95グリッドのほぼ中央、Ⅹ層上面付近から出土した。小剥片で、石材は玄武岩である。2は14D-95グリッドのほぼ中央、Ⅷ層下端付近から出土した。剥片で石材は緑泥片岩である。磨製石斧を再生したときの剥片の可能性もある。2点ともグリッドの中央部からの出土であり、他に遺物の出土はなかつ



第8図 標準土層図・下層遺物出土状況図

たので、グリッドの拡張はしなかった。よってこの地点からの旧石器時代の遺物は2点のみの出土であった。3は15E-00グリッドから出土した碎片で、IX層から出土した。石質は珩質頁岩である。4は15E-01から出土した礫片で、IXc層から出土した。石質はチャートである。5は15E-01から出土した石核である。石質は珩質頁岩で、嶺岡山系からの供給と思われる。裏面はほとんどが節理面剥離で、原礫面を打撃面として、比較的小さな剥片を上から下へ剥離し、残された石核と思われる。



第9図 旧石器時代石器

第3章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 炉穴・土坑・ピット群（第6～12・25図、図版4・5）

1 調査の概要

炉穴・土坑は総数9基が調査された。調査範囲の西南端に集中する傾向にあり、西方向へ伸びる細尾根上及び南に傾斜する斜面に位置する。周辺にはSM-001、SM-002が所在する。

2 検出された遺構・遺物

SK-006

14C-23から検出された。東西方向に主軸をもち、長軸2.26m、短軸1.05mをはかる。西側に炉床をもち、火床部は1か所のみ確認された。

SK-007

14B-07から検出された。SK-007・SK-008・SK-009と重複している。ほぼ南北方向に主軸を持ち、主軸2.25m、短軸0.7mを計る。炉床は1か所が確認された。

SK-008

SK-007・009と重複する。西北から東南に主軸をとる。主軸2.35m、短軸0.9mを計る。炉床は南東部から1か所確認された。

SK-009

SK-007・008と重複する。東北から西南に主軸をとると推定される。主軸1.47m、短軸1.0mを計る。火床は東北部から1か所確認された。

SK-010

4C-21周辺から検出された。SK-010・011・012・013の4基が重複している。SK-010は北東から西南に主軸を持つ。長さ1.8m、短軸0.65mを計る。火床は西南部にみられる。

SK-011

SK-010と重複する。ほぼ東西に長軸を持つ。主軸2.08m、短軸0.68mを計る。火床は西側に1か所みられる。

SK-012

SK-010と重複する。ほぼ北南に主軸をもつ。主軸1.0m、短軸0.6mを計る。火床は北側に1か所みられる。

SK-013

SK-010と重複する。主軸0.9m、短軸0.65mを計る。火床は北側に1か所確認された。

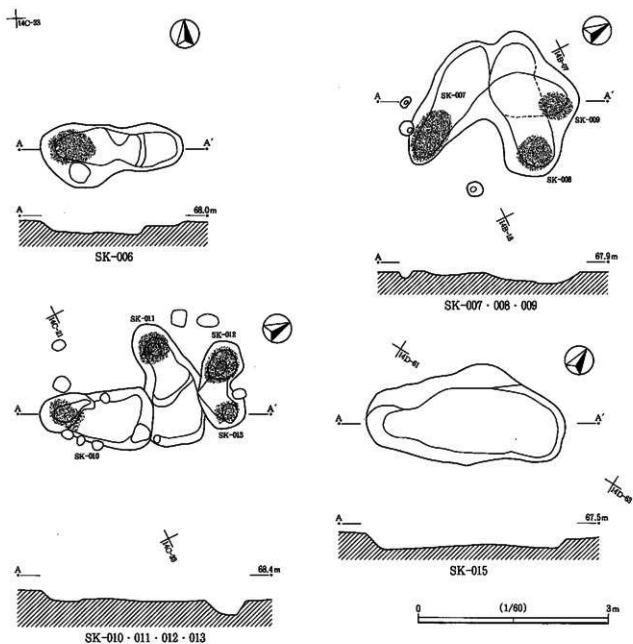
SK-015

4D-61から検出された。覆土からは礫や縄文時代早期の土器片が出土している。東北から西南に軸を持ち、主軸3.17m、短軸1.55m、深さ0.2mを計る。

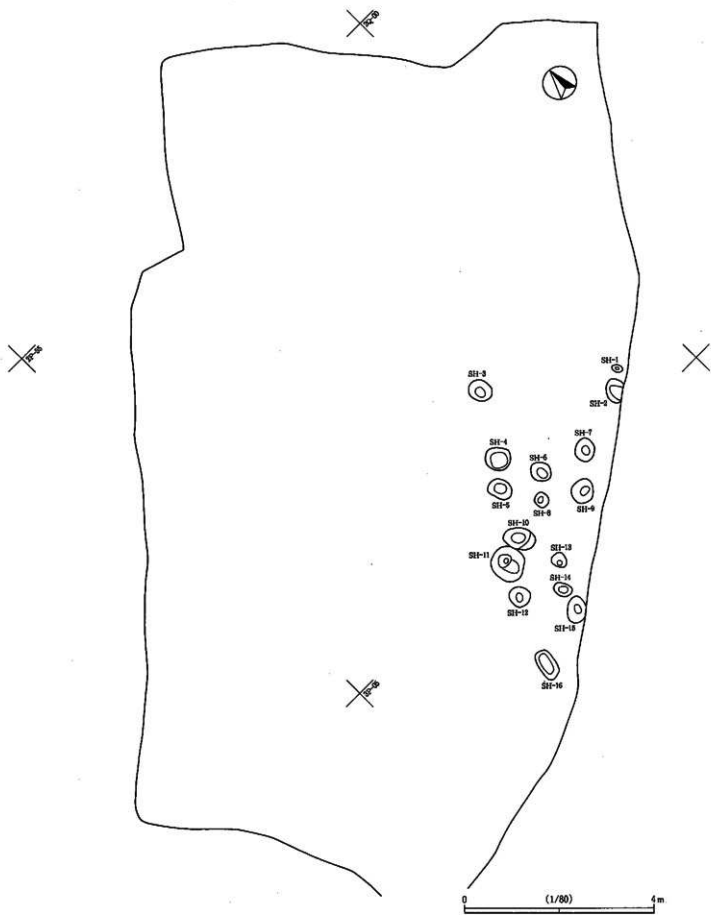
SH-001～016

もっとも北側に位置する調査区である2Pと3P区から検出されたピット群である。ピット群は調査区外にも続いているが事業地外のため、調査はできなかった。小範囲に16本のピットが確認されたが、配列

に企画性は認められなかった。ピットの覆土からの遺物はない。もっとも大型のピットは主軸0.7m×短軸0.4m、深さ0.13mで、最小は主軸0.22m×短軸0.16m、深さ0.6mである。性格は不明である。



第10図 SK-006~013・SK-015

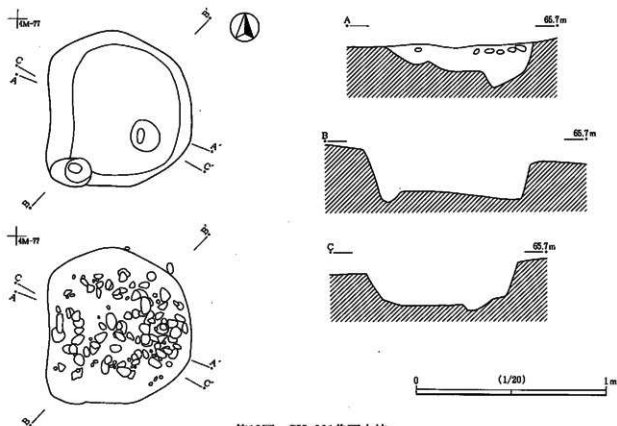


第11圖 SH-001~016

第2節 集石土坑 (第6・12図, 図版5)

SX-001

4 M-77グリッドから検出された集石土坑である。形状はほぼ円形である。長軸0.85 m × 短軸0.75 m、深さ0.24 mである。検出された礫は土坑を覆うように配置され、土坑の覆土上位のみに礫はみられ、下位にはみられない。土坑底面は平坦でなく一方が若干深くなっている。覆土は1層のみで、分層はできなかった。色調は暗褐色土層で、ローム粒をやや多めに含み、しまりがある。覆土は人為的に埋め戻した可能性もある。出土礫は第4表のとおりで、石材はチャートが多く53.2%を占め、次に流紋岩が29%を占める。つづいて砂岩が12.7%を占めており、安山岩およびホルンフェルスはみられない。また、泥岩はその他に含めたが数は少ない。確認できた礫の総数は244個で、完形礫が83個、重量11,077 g、破損礫は161個で、11,606.1 gであった。赤化礫は182個確認され、全体の赤化率は74%で、完形礫の赤化率は66.7%、破損礫の赤化率は77.8%であった。



第12図 SX-001集石土坑

第3節 遺構外出土遺物

1 調査の概要

本遺跡では、早期初頭から早期後半期にかけての土器片が検出され、少量ではあるが中期中葉の土器片も出土している。縄文時代の土器片は、遺跡全体から出土しておりまた時期が複数期にわたっている。弥生時代末の土器片が1片出土している。遺構は検出されていないので本章で併せて報告する。

2 土器（第13～18図，図版16～21）

文様などから以下のような「群」を設定した。

第Ⅰ群 燃糸文系土器（1～46）

第Ⅱ群 条痕文系土器（47～55）

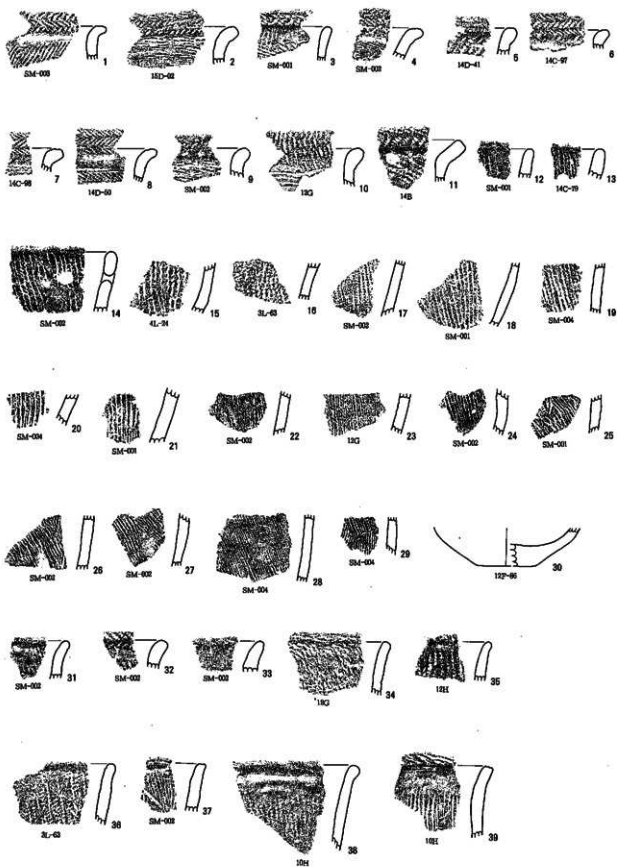
第Ⅲ群 竹管文系土器（56～84）

第Ⅳ群 中期の土器（85～119）

第Ⅴ群 弥生時代末の土器（120）

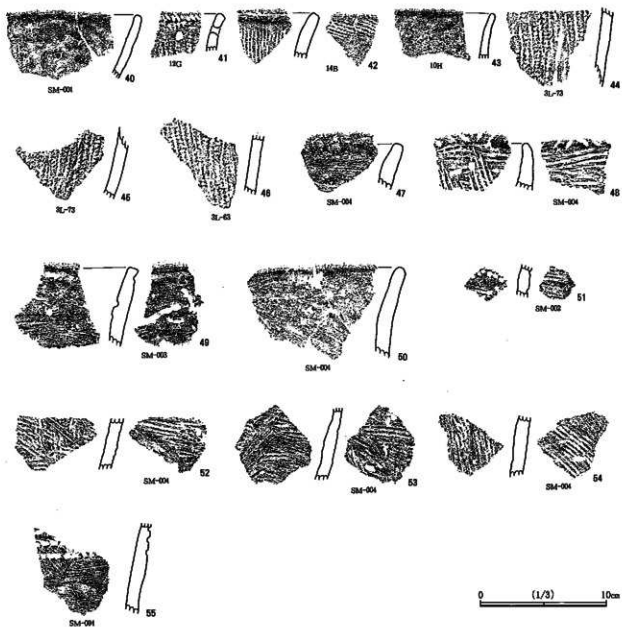
第Ⅰ群土器（第13・14図1～46，図版17・18）

1～11は口縁部の破片で、強く外反しているもの。口唇部内面には羽状の縄文を施文し、外面には縄文の押印が見られる。1は口縁部外面に縄文を押印している。胴部外面にも縄文が施されている。2は口唇部が肥厚している。口縁部外面には縄文が横押印され、胴部外面にも横位の縄文が押印される。3は口唇部に縄文が施文されている。口唇部の上面には縄文が施文されている。外面にも縄文が押印される。4は口唇部の内面に2段の縄文が施される。口唇部の上面にも縄文が押印されている。外面には横位の縄文が、下位には燃糸が施される。5は口唇部の上位に細い縄文が押印され、外面にも縄文が施される。6は口唇部の内面に羽状縄文が施され、口唇部上面にも縄文が、外面にも縄文が押印されている。7は口唇部の内面に縄文が、口唇部の上部と外面にも縄文が施される。8は口唇部の内面に2段の縄文が、外面にも縄文が施される。9・10は口唇部が肥厚し、口唇部の内面には羽状縄文が施される。9の口縁部外面には縄文が横位に押印される。10は胴部の外面に横位の沈線が施される。11は口唇部の上面に縄文が押印され、外面には燃糸が施される。12～14は口縁部の破片で、口唇部が丸形を呈する。14には焼成後の穿孔がある。15～22は胴部の破片で、22は粗い燃糸が施される。23～29は胴部の破片で、細かい燃糸が施される。30は底部の破片で、小さい平底である。31～43は口縁部の破片である。31は外面は燃糸文が施文されるが、口唇部には文様がない。32・33は外面には燃糸文が施文され、口唇部には縄文の押印が見られる。口縁部の外面には縄文が押印される。34は口唇部の上面には燃糸が押印され、外面には燃糸が施される。35は口唇部に文様はなく、外面には燃糸が施される。36は燃糸文が施文されている。口唇部の内側には沈線が、口唇部の上面には貝殻による押印が見られる。外面の胴部には燃糸が施される。37～38は燃糸文が施文されるが、口唇部に文様はない。38は上面に細い沈線が、胴部の外面には燃糸が施される。38は胴部に燃糸が施文され、口唇部は肥厚し外反している。39は燃糸文が、口唇部の上面には貝殻による押印が、外面の胴部には燃糸が施される。40は無文で、口唇部は丸形である。41は燃糸文が、口唇部に文様はないが、口唇部の上面には縄文が押印される。胴部は燃糸が施文される。焼成後の穿孔がある。42は外面に燃糸文が、口唇部の内面には貝殻による押印がみられる。口唇部の上面には縄文が押印される。43は無文で口唇部は丸



第13図 遺構外出土の縄文土器(1)

0 (1/3) 10cm

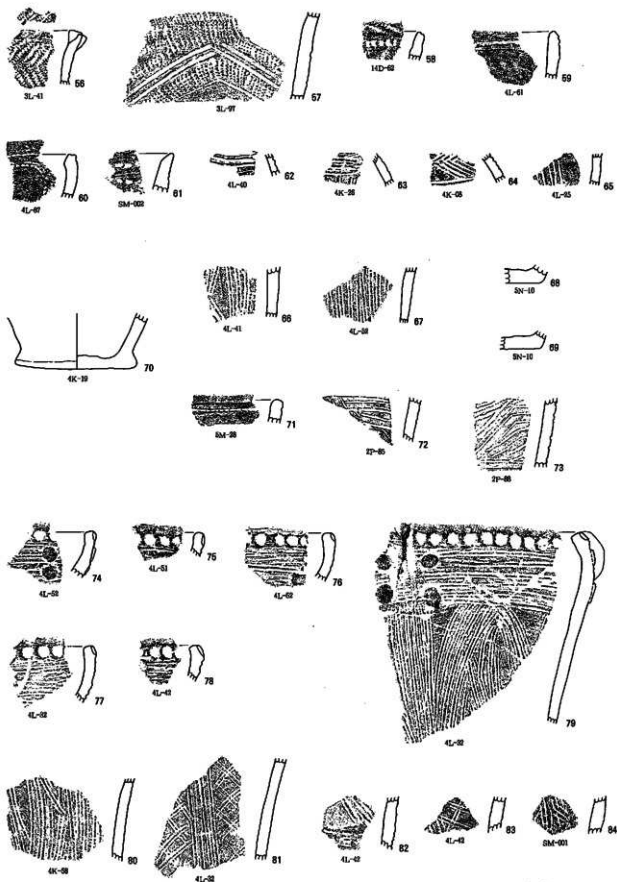


第14図 遺構外出土の縄文土器 (2)

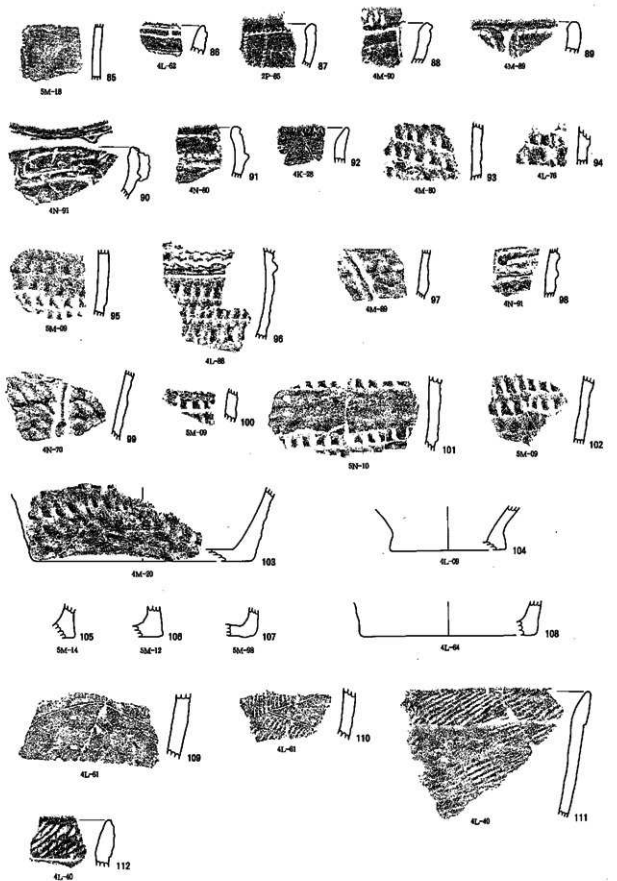
形である。44~46は胴部の破片で、摺糸文が施文される。

第Ⅱ群 (第14図47~55, 図版18)

47~80は口縁部の破片である。47は無文で繊維を含む、内面はナデが施される。48は繊維を含み、条痕文が施される。内面は横位の擦痕が見られる。49は無文で、口唇部は面取りされる。繊維を含み内面はナデが施される。50は条痕文が施され、繊維を含む。外面は刺突文が、内面には横位の擦痕が見られる。51~55は胴部の破片である。51は条痕文が施され、繊維を含む。外面には刺突文が、内面には横位の擦痕が見られる。52~54胴部の破片で、条痕文が施される。繊維を含み、内面は横位の擦痕が見られる。55は底部の破片で刺突文が施される。



第15図 遺構外出土の縄文土器 (3)



第16図 遺構外出土の縄文土器 (4)

第Ⅲ群 (第15図56~84, 図版18・19)

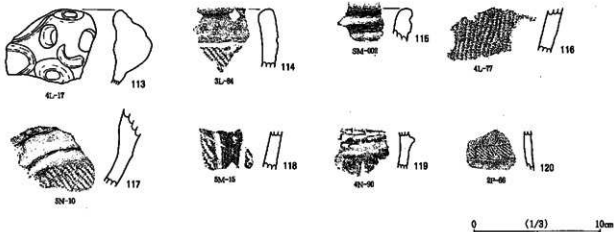
56・57は口縁部の破片で、56は口唇部は面取りしたのち縄文が押圧される。57は貝殻腹縁文と沈線による文様が施される。62~64は胴部の破片で、沈線文が見られる。SK-003出土遺物に類似する。65~67は胴部の破片で、条痕文が施される。68・69は底部の破片で、同一個体である。70は底部の破片である。71は口縁部の破片で、口縁下に横位の沈線文(押し引き)が施される。口唇部は丸形である。72・73は胴部の破片で、沈線文が施される。74は口縁部の破片で、条痕文が施される。75~79の胴部で、円形浮文が施される。75~79は口縁部の破片で、条痕文が施され、円形浮文が施される。80・81は胴部の破片で、条痕文が施され、75~79の胴部である。82~84は胴部の破片で、条痕文が施される。

第Ⅳ群 (第16・17図85~119, 図版19~21)

85は胴部の破片で、縦位の竹管による刺突文が施される。86・87は60に類似する。口唇部下は半裁竹管による施文が、外面には縦位の半裁竹管による押し引き文が見られる。口唇部は上方に尖る。88は口唇部に刺突文が、口縁部外面にも刺突文が施される。89・91は口縁部の破片で、隆起線による横位区画が見られる。92は口縁部の破片で、外面に山形文が、口唇部上にはキザミが施される。93~96は胴部の破片である。97~99は胴部の破片で、89~92の胴部である。97は隆帯の周りを刺突で囲む。100~102は胴部の破片である。103~108は底部の破片で、104は底部の破片で、縄文が施される。109・110は胴部の破片で、57に類似する。111・112は口縁部の破片で、口縁は折り返し、縄文LR施文が施される。113は口縁部の破片で、隆帯が施される。114は口縁部の破片で、口縁部に無文帯があり、下位には縄文が施される。115は口縁部の破片で、口縁下に太い沈線が施される。116・117は胴部の破片で、縄文が施される。118は胴部の破片で、縄文が施文され、縦懸垂文が見られる。119は胴部の破片で、隆帯の周りを刺突で囲む。

第Ⅴ群 (第17図120, 図版21)

120は壺型土器の肩部の破片で縄文帯が施される。



第17図 遺構外出土の縄文土器(5)

3 土坑出土の土器 (第18図1~15, 図版16)

SK-003 出土土器

1・2は胴部の破片で沈線文が施される。

SK-007~009 出土土器 (3~9)

3は口縁部の破片で、口唇部は丸形で、口唇部端部にキザミが施される。4は口縁部の破片で、内面に横位の縄文が施される。端部を欠損する。5は胴部の破片で、拓本18に類似している。6は胴部の破片で熱糸文が施される。7・8は胴部の破片で、7は細かい熱糸文が施される。8は粗い熱糸文が施される。9は口縁部の破片で、内面に擦痕がみられる。口唇部にはキザミが施される。繊維を含む。

SK-010~013 出土土器 (10・11)

10は胴部の破片で細かい熱糸文が施される。11は胴部の破片で熱糸文が施される。

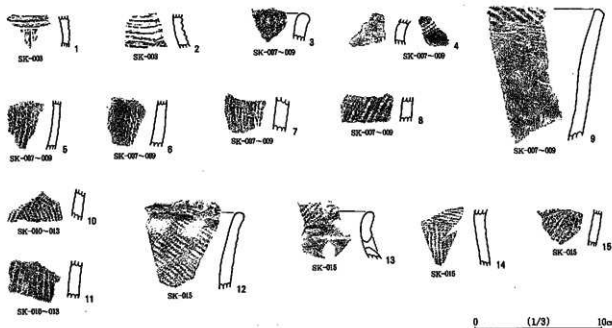
SK-015 出土土器 (12~15)

12は口縁部の破片で、外面に粗い縄文が施される。口唇部には縄文の押圧が施される。13は口縁部の破片で、口唇部と内面に縄文が施される。焼成後の穿孔が有る。14は胴部の破片で、口縁部の上面に横位の条痕が施される。下位にも縄文が施される。15は胴部の破片で、熱糸文が施される。

4 石器 (第19~24図, 図版14~16)

縄文時代の遺構から出土した石器はなかったが、礫群内や、古墳の盛土内および周溝覆土内、後世の遺構内などから44点の石器が出土した。

1~3は石斧である。1はほぼ完形で、長さ5cm、幅3.15cmで、重さは30.96gである。石材はホルンフェルスである。2は打製石斧で、一部に磨痕が見られる。楕円礫の一部を調整して刃部としている。石材は砂岩で、重さは10.1gである。3は磨製石斧片と思われる。石材は頁岩で、重さは40.2gである。4



第18図 遺構内出土の縄文土器

は、石錘と思われる。自然礫を加工したままのものである。石材は安山岩である。5～11は石鏃である。5～8は完成品で、9～11は未製品である。石材は5はチャート、6・8・9～11は黒曜石、7は珪質頁岩である。12～24は叩き石である。20・24は焼成を受けている。12・17～19・22は安山岩、13・16・20・21は砂岩、14・24は花崗岩、15は頁岩である。25～28は磨石である。27は焼成を受けている。25は砂岩、26は流紋岩、27・28は安山岩である。29はスクレイパーで石材は珪質頁岩である。30・31はリタッチ・ド・フレイク（加工痕のある剥片）で、30は全体に風化がみられる。31は細かな剝離が認められる。石材は黒曜石である。32～34は石核である。32は石鏃用の小さな剥片を剥いだと思われる。33は原礫を半割したもので、裏側は節理痕と思われる。35～41は剥片である。35は微細剝離痕がみられる。38以外は黒曜石製である。42・43は両極石器である。石材は42がチャート、43は珪質頁岩である。42は石鏃の素材と思われる。43は上下の両端に打点が認められる44は安山岩製の砥石で、一部に打撃痕が認められる。

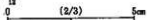
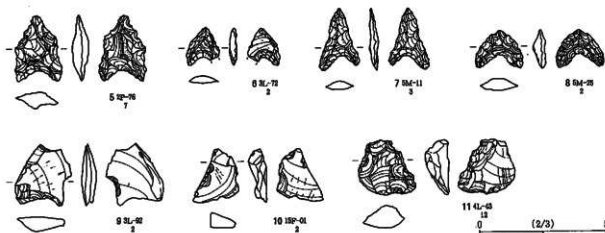
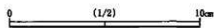
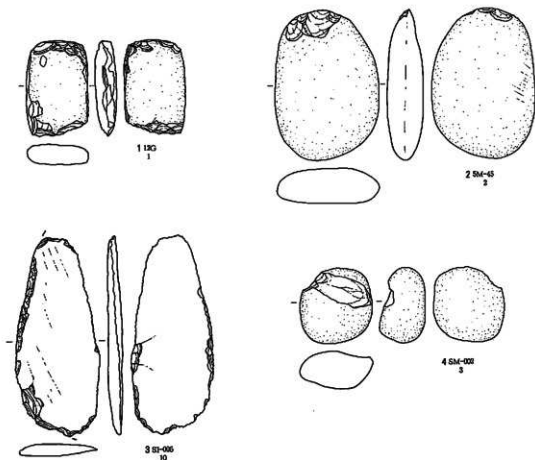
第4節 礫群（第25～32図、表4・5、図版3・4）

大門口遺跡で検出された礫は総数で8,502個、総重量351.91kgであった。古墳の周溝から出土した礫は数量に加えたが、堅穴住居跡や土坑などから出土したものは除外した。データ資料は第4・5表の通りである。また、出土した礫の石質は砂岩が2,318個で27.26%、チャートが4,457個で52.42%、流紋岩が1,251個で14.71%、安山岩が12個で0.14%、ホルンフェルスが69個で0.81%、その他（黒曜石等）が395個で4.65%である。

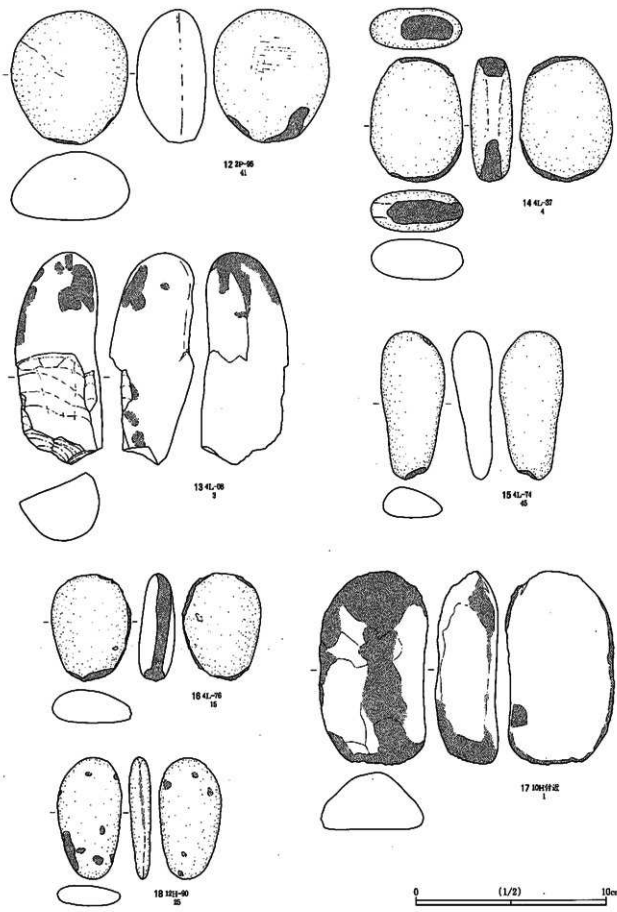
また、半数以上がチャートで、全体の1/4が砂岩である。一方、SX-001は集石土坑であるが、ここからは砂岩が31個で12.7%、チャートが130個で53.2%、流紋岩が71個で29%、安山岩とホルンフェルスはなし、その他が12個で4.9%である。これは、先に上げた全体の数量と比較して砂岩と流紋岩に差が見られるが、基本的にはほぼ同様な比率を示している。これら礫群内から出土した石器は第3表の通りで、石鏃の未製品が3点あることが注目される。大門口遺跡出土の礫群は001～006の6か所から集中して出土している（第19図）。調査区北側では台地上の平坦な範囲から、また調査区南側でも台地上の平坦な範囲から出土している。詳細にみると006の分布以外は若干斜面に重なる位置から検出されている。

第3表 石製品類表

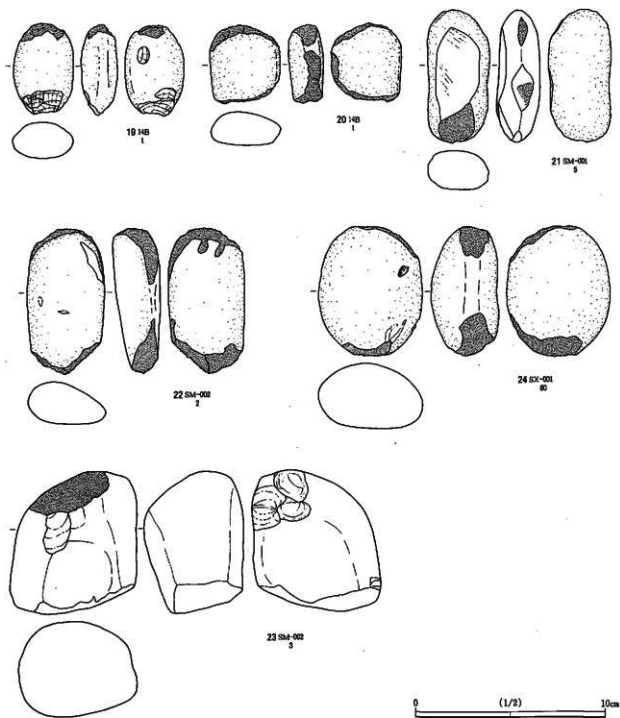
種別	番号	実測番号	遺構番号	遺物番号	製品名	石材	#	長さ	幅	厚さ	完・破	備考		
9	1	44	14D-95	2	小銅片	文武岩		2.50	1.80	0.60		瓦葺上面		
9	2	45	14D-95	1	銅片	緑泥片岩		3.70	2.30	0.40		瓦葺、磨製石斧の再生したときの銅片か?		
9	3	42	15E-00	3	砂片	珪質頁岩		1.00	1.30	0.20		瓦の層		
9	4	41	15E-01	1	銅片	チャート		2.75	2.20	0.60		瓦の層		
9	5	46	15F-01	3	石核	珪質頁岩		4.40	4.80	2.90		瓦の層、微凹痕か?		
27	1	29	12G-	1	石斧	ホルンフェルス	30.96	5.00	3.15	1.15		完形		
27	2	28	5M-45	2	石斧(打製石斧?)	砂岩	10.10	8.00	5.50	1.90		完形	袖口の一部を調整して刃部としている	
27	3	37	SI-005	10	石斧(磨製石斧)	頁岩	40.20	10.50	4.20	6.50		破損		
27	4	26	SM-002	3	石鏢	安山岩	47.24	4.00	3.80	2.90		完形	墳丘盛土内	
27	5	11	2P-76	7	石鏢	チャート	1.97	26.10	18.80	6.60		完形		
27	6	8	3L-72	2	石鏢	黒曜石	0.41	14.80	12.80	3.00		破損		
27	7	5	3M-11	3	石鏢	珪質頁岩	0.78	24.00	15.20	3.60			ほぼ完形	
27	8	18	5M-25	2	石鏢	黒曜石	0.82	14.90	16.60	4.80			完形	
27	9	6	3L-82	2	石鏢未製品	黒曜石	2.68	2.40	2.20	0.60			未製品	
27	10	19	4L-38	2	石鏢未製品	黒曜石	1.40	20.80	16.00	6.90			未製品	石鏢未製品か?
27	11	4	4L-43	12	石鏢未製品	黒曜石	3.42	22.00	22.20	9.10			未製品	
28	12	30	2P-95	41	叩き石	安山岩	217.00	7.00	3.60	6.10			完形	
28	13	23	4L-08	3	叩き石	砂岩	279.00	11.20	4.50	3.60			破損	
28	14	40	4L-37	4	叩き石	花崗岩	112.20	5.60	4.90	2.20			完形	
28	15	32	4L-74	45	叩き石	頁岩	62.80	7.75	3.10	2.00			完形	
28	16	47	4L-76	15	叩き石	砂岩	60.40	5.80	4.10	1.70			完形	
28	17	27	10H-付近	1	叩き石	安山岩	272.17	10.20	5.40	3.00			完形	
28	18	36	12H-90	25	叩き石	安山岩	32.70	6.40	3.20	1.15			完形	扁平な楕円盤を使用して製作
29	19	20	14B-	1	叩き石	安山岩	38.28	4.70	3.20	2.90			完形	
29	20	48	14B-	1	叩き石	砂岩	42.60	4.00	3.70	1.80			完形	二次焼成を受けている
29	21	34	SM-001	5	叩き石	砂岩	79.14	6.90	3.20	2.10			完形	墳丘盛土内
29	22	31	SM-002	2	叩き石	安山岩	100.36	7.70	4.10	2.23			完形	殿内
29	23	49	SM-002	3	叩き石	凝灰岩	348.15	7.90	6.70	5.00			破損	墳丘盛土内
29	24	38	SX-001	60	叩き石	花崗岩	181.20	6.80	5.50	3.50			完形	二次焼成を受けている
30	25	22	5L-06	2	磨石	砂岩	281.90	7.40	4.80	4.70			破損	
30	26	21	5M-99	8	磨石	凝灰岩	347.00	10.70	5.80	3.70			一部破損	
30	27	24	13D-31	2	磨石	安山岩	9.10	9.20	6.90	3.70			完形	二次焼成を受けている
30	28	25	SM-002	6	磨石片	安山岩	135.63	6.40	4.00	3.30			破損	殿内
31	29	43	3P-14	1	スクレイパー	珪質頁岩	12.10	2.80	2.80	1.10			破損	
31	30	15	5M-10	3	リタッチドフレイク	黒曜石	7.82	25.40	25.40	11.00				加工痕のある銅片、全体に風化面がみられる
31	31	14	SM-002	4	リタッチドフレイク	黒曜石	15.76	4.00	3.80	1.30				周縁内
31	32	16	3L-95	4	石核	黒曜石	7.20	27.20	22.20	16.10				石鏢用の小さな銅片を削いだと思われる
31	33	33	12H-90	40	石核	安山岩	71.00	4.00	5.00	2.60			破損	原形を半割したもの、表は磨理面か?
31	34	50	4L-32	9	石核or磨石	ホルンフェルス	407.80	9.80	5.40	5.50			破損	
32	35	12	2P-77	5	銅片	黒曜石	4.25	39.40	24.70	11.50				微細な磨理のある銅片
32	36	13	2P-85	1	銅片	黒曜石	4.28	3.49	3.20	0.70				
32	37	1	4L-49	4	銅片	黒曜石	4.02	2.25	2.00	0.70				
32	38	17	2P-85	7	銅片	珪質頁岩	1.58	2.14	2.01	0.39				
32	39	2	4L-52	10	銅片	黒曜石	2.54	1.80	2.50	0.90				
32	40	3	4L-78	2	銅片	黒曜石	3.78	2.00	3.00	1.00				
32	41	7	SI-001	3	銅片	黒曜石	1.45	22.10	16.40	6.00				
32	42	10	4L-23	3	銅片(両面石鏢)	チャート	3.21	19.90	28.40	5.80				石鏢の素材か?
32	43	9	SI-001	12	銅片(両面石鏢)	珪質頁岩	0.55	18.90	10.00	4.60				上下両面に打点のある銅片
32	44	51	14B-	1	凝石	安山岩	444.85	12.20	8.00	3.20				一部打撃痕がある
33	1	38	SI-002	1	凝石	凝灰岩		2.90	2.20	0.80				
33	2	35	SI-006	1	凝石	凝灰岩		7.40	3.50	3.40				



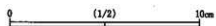
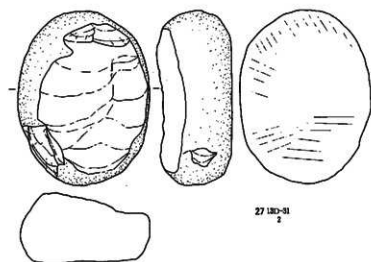
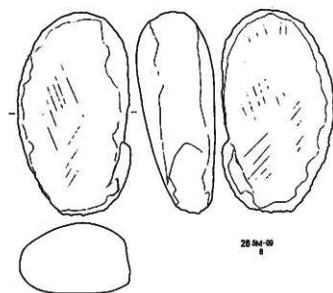
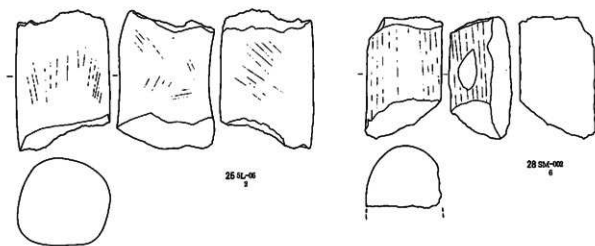
第19图 出土石器实测图(1)



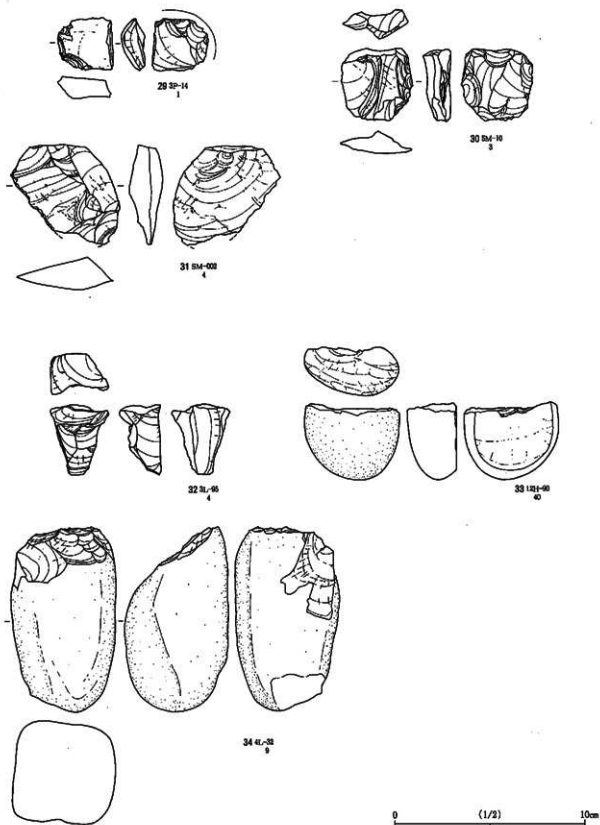
第20图 出土石器实测图(2)



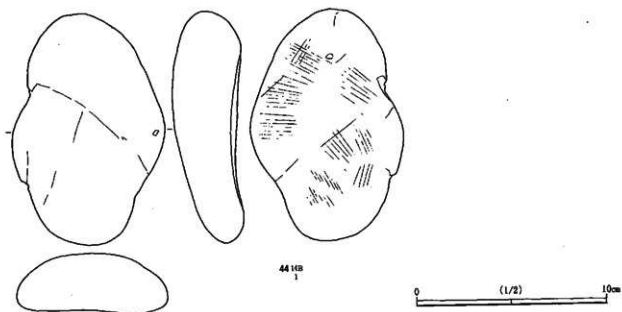
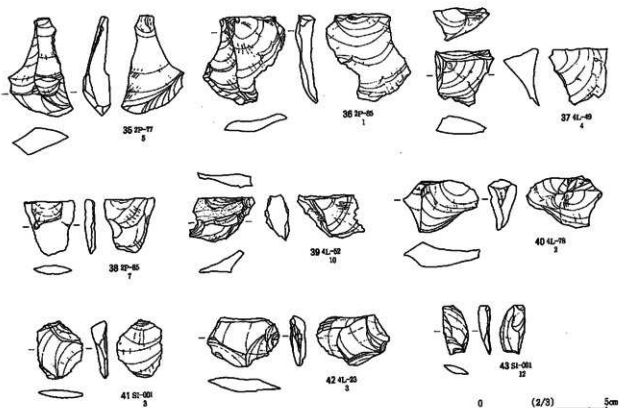
第21图 出土石器实测图(3)



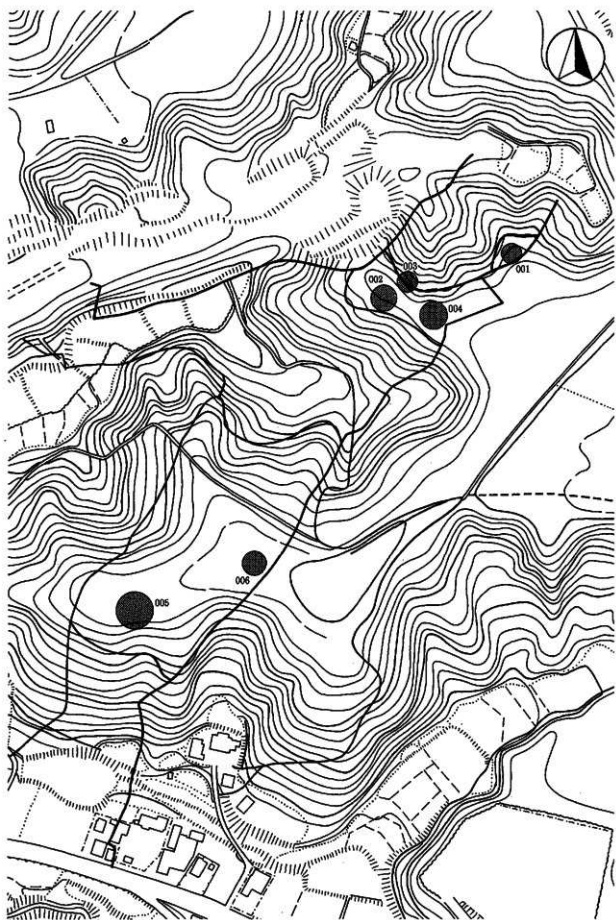
第22图 出土石器实测图(4)



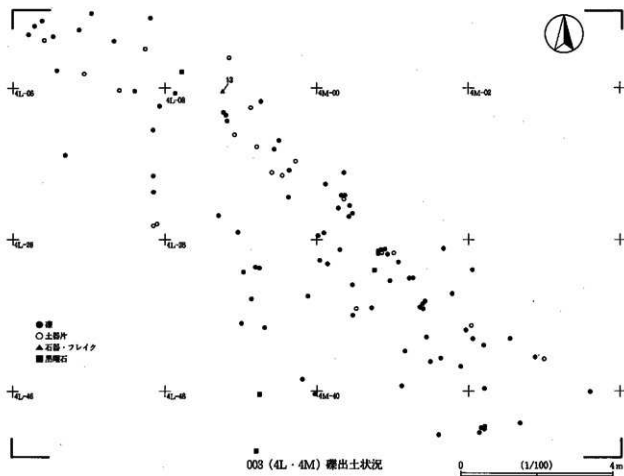
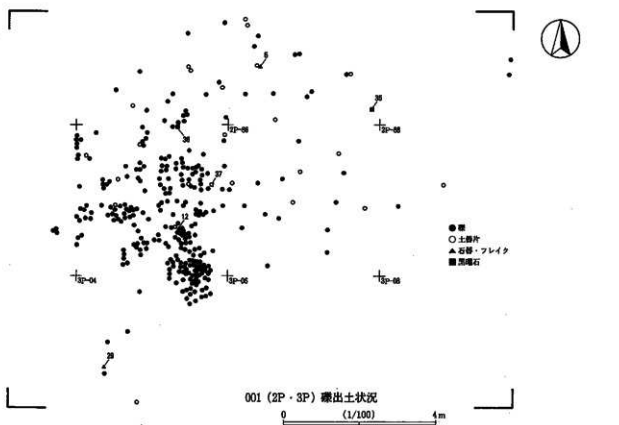
第23图 出土石器实测图(5)



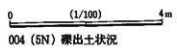
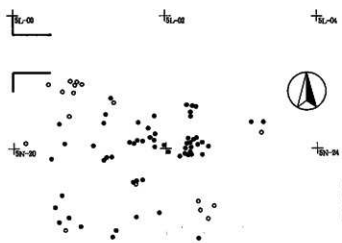
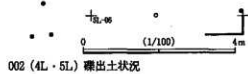
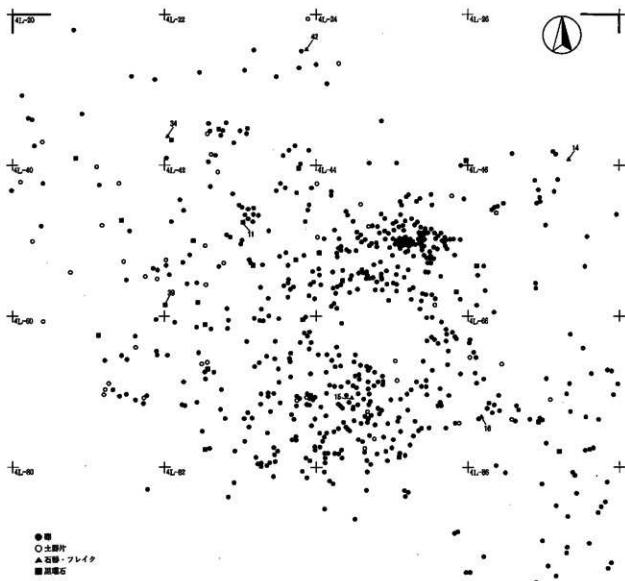
第24图 出土石器实测图 (6)



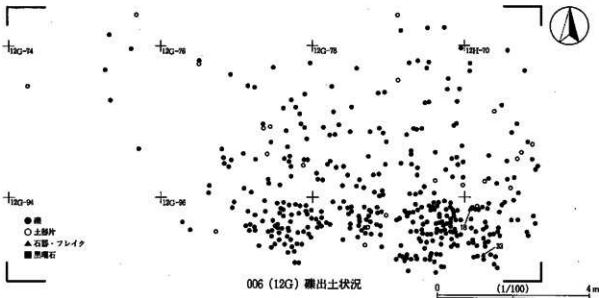
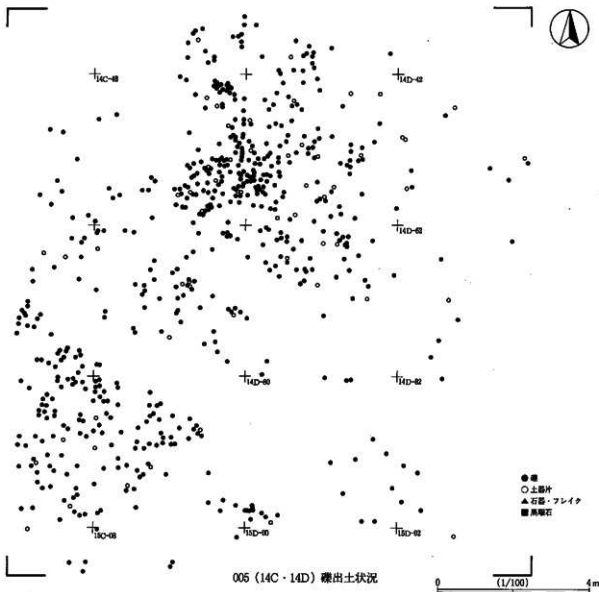
第25圖 裸群位置圖



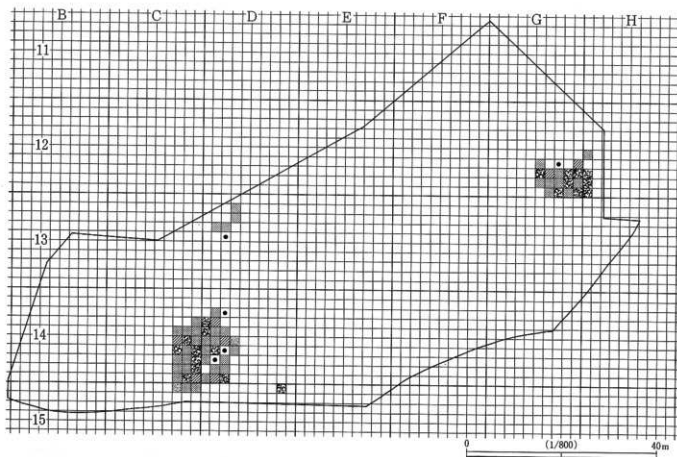
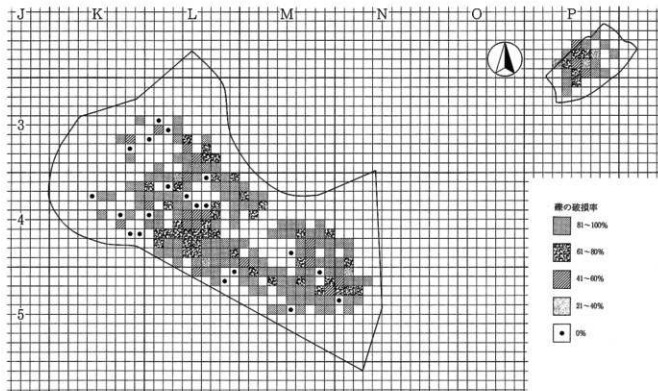
第26図 001 (2P・3P), 003 (4L・4M) 発出土状況



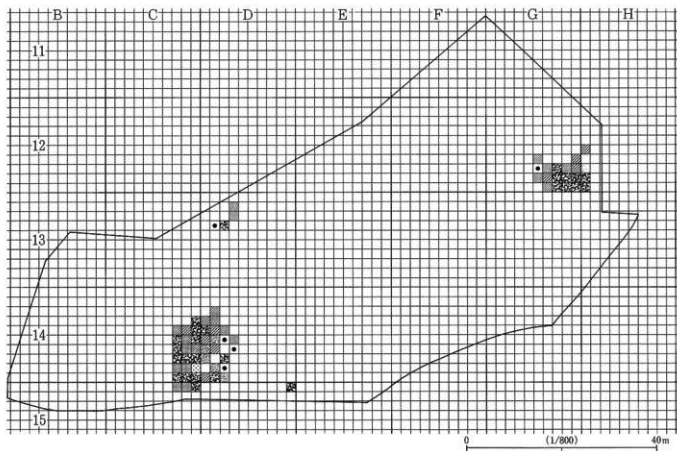
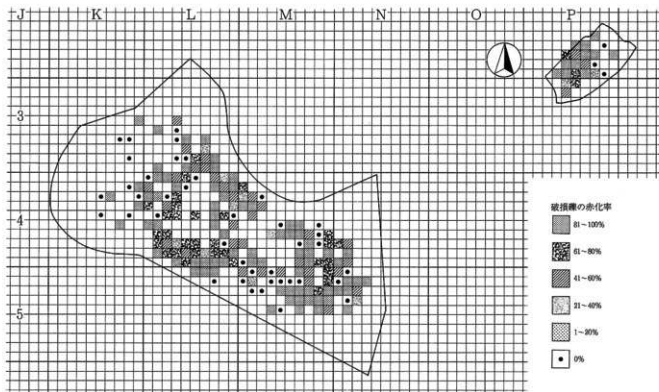
第27図 002 (4L・5L), 004 (5N) 曝出土状況



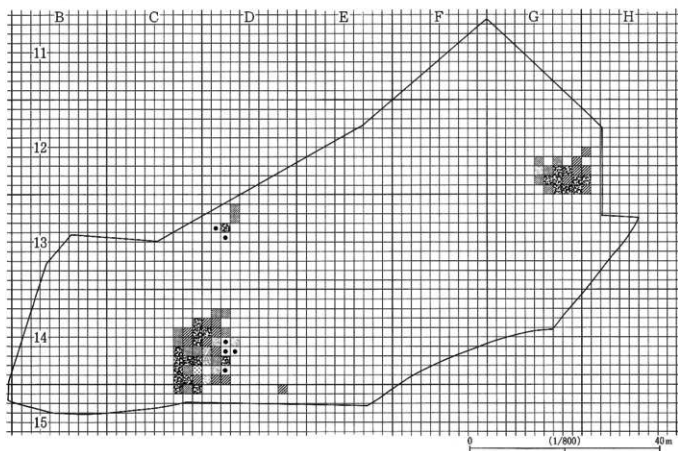
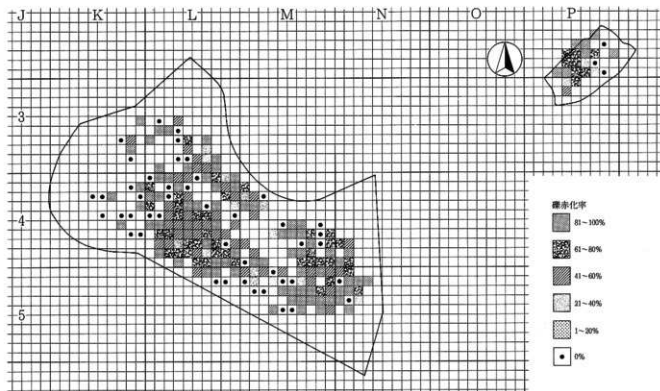
第28図 005 (14C・14D), 006 (12G) 発出土状況



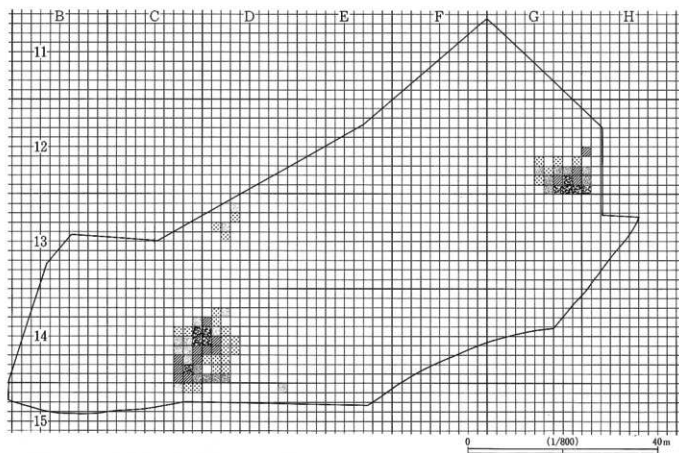
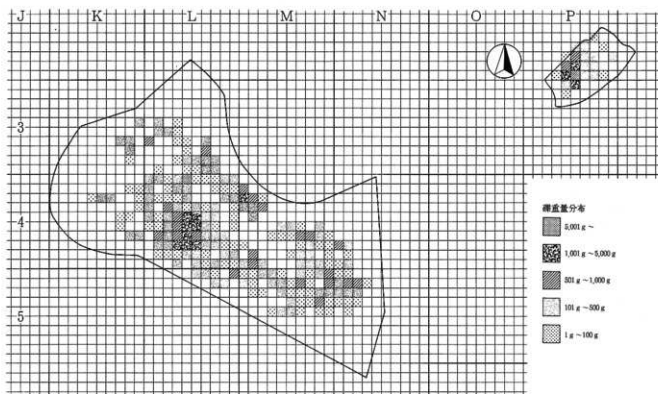
第29図 遺構外出土破片集計(1) 破損率



第30図 遺構外出土集計(2) 破損率赤化率



第31図 遺構外出土礫集計 (3) 礫赤化率



第32図 遺構外出土礫集計(4) 礫重量分布

第4表 出土曜組成表

グリッド	砂岩				チャート				流紋岩				安山岩				ホルンフェルス				その他				計
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
2 P 57										1															1
2 P 65						1															1				2
2 P 66		1																			1				2
2 P 68				1																					1
2 P 74			1			1		1																	3
2 P 75	1	2		1		2		2			2									1	1	1			13
2 P 76		2									2									1					5
2 P 77										1	1											1			3
2 P 79						1				1															2
2 P 84		1	1	1	2	13	1	1	1	4	1									1	1		1	29	
2 P 85		4	2	1	6	16	6	1	1	2	1	1								1	1			43	
2 P 86	1						1	1			1										1			5	
2 P 87				1																					1
2 P 93						1				2															3
2 P 94		12			2	16				3	12	1									1	1		48	
2 P 95	2	3		6	5	20	3	15	4	20	4	2								1	5			1 91	
2 P 96						3				1	1													5	
2 P 97				1		1					1											1			3
2 P 98				1																					1
3 K 49		2																							2
3 K 67				1																					1
3 K 68										1														1	2
3 K 78						1																			1
3 K 88																								1	1
3 L 41											1														1
3 L 43		1																				1			2
3 L 51		1									1														2
3 L 52					1			1														1			3
3 L 53				1																					1
3 L 60										1															1
3 L 63																						1			1
3 L 64			1								1											1			3
3 L 65																						1			1
3 L 74						1		1																	2
3 L 76	1	1				3	3	4	1																14
3 L 83																									2
3 L 84												1													1
3 L 85						2	1			1												1			5
3 L 86			1	1		2	1																	1	6
3 L 87		1				1																1			3
3 L 91		1																							1
3 L 94		1																							1
3 L 95						1																		1	2
3 L 96		1				2	1	1													1				6
3 L 97						1		2																	3
3 P 4					2	1																			1 4
3 P 5	1	2		4	3	9		2	1	4	1										1	1			29
3 P 14						1		1																	2
4 K 18										1															1
4 K 19		1				1				1															2
4 K 24							1																		1
4 K 25				1																					1
4 K 26		1																				1			2
4 K 29				1																					1
4 K 39																						1			1
4 K 45				1																					1
4 K 47							1																		1
4 K 48								1																	1
4 K 57	1																					1			2
4 K 68											1														1
4 K 69																							1		1
4 L 0																							1		1
4 L 1		1																							1
4 L 2		1				2																			3
4 L 3				1		1	1	1		1												1	1		6

グリッド	砂岩				チャート				流紋岩				安山岩				ホルンフェルス				その他				計	
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
4 L 4		2				3	2	1	1														1	10		
4 L 5				1																				1		
4 L 6									1															1		
4 L 7		1		1					1															3		
4 L 8				1				1	1	1	1											1	5			
4 L 9		1																						3		
4 L 10	1	1																					1	3		
4 L 12							1																	1		
4 L 13						3			1															4		
4 L 14				1																			1	2		
4 L 17										1												1		2		
4 L 18																						1	1	2		
4 L 19										1												1		2		
4 L 20		1																						1		
4 L 21		1								1														2		
4 L 22																							1	1		
4 L 23						1	1	2											1	1				6		
4 L 24			1																			1		2		
4 L 28		3	1			2			1	1														8		
4 L 29								1	1													2	1	5		
4 L 30	1					1		1	1										1					5		
4 L 32		1	1			1	2	1	3													1		10		
4 L 33		1				2		2	2													1		8		
4 L 34		1				3																		4		
4 L 35				1																				1		
4 L 36										1														1		
4 L 37	1					2																		3		
4 L 39				1		1																	1	3		
4 L 40							2																1	3		
4 L 41						2																		2		
4 L 42	1	1				1	2	1	1	1														8		
4 L 43	1					4	4	2	2	1												1	3	1	18	
4 L 44	1	2		2	1			4	2	1												2	3	2	22	
4 L 45	4	7	2	3	5	9	5	2	1	2	2	1										4	5	1	53	
4 L 46	1	2				1	2		1	1													1		9	
4 L 47		2				1	1	1																	5	
4 L 49																								1	1	
4 L 50										1															1	
4 L 51		2								1															3	
4 L 52	1	1	1			2	1	1	2																9	
4 L 53	1	2				4	2	4		1												2	3	2	23	
4 L 54	1	6	1	2	6	3	7	5	4	3	1	4							1	1	1	1	2	3	52	
4 L 55	4	7	3	3	4	5	4	8	7	5	4	1										1	1	1	59	
4 L 56	1	1				1	1	2																	7	
4 L 57										1															1	
4 L 59						1		1																	2	
4 L 61		2		2	1	1			1	1															8	
4 L 62	1	1				1	1	1	2		3												1	1	12	
4 L 63	1	2	1			4		6	4														1		20	
4 L 64	3	3	2	6	6	11	6	13	2	6	2	2										1	2	1	1	66
4 L 65	1	3		3		2	2	2	2	2												1	1	3	2	24
4 L 66		1				1	2			3															7	
4 L 67				1		3	1	1			1												1		6	
4 L 68						1				1															2	
4 L 71						1		1		1	1												1		5	
4 L 72	1	1				2		3																	8	
4 L 73	2	1	4	1	8	3	13	1	4		1											1	2	3	44	
4 L 74	5	2	1	11	1	11	2	12	6	7	1											3	7	2	71	
4 L 75	4		1		5	3	1	2	1	1	1											1	2	1	23	
4 L 76						10		1	2	1													1		15	
4 L 77						5		2		2															9	
4 L 78								2																	2	
4 L 79						1		1																	2	
4 L 81						1																			1	
4 L 82						2		1																	3	
4 L 83						1		1															1		3	
4 L 84	1				1	1	1	2		1													1		8	

グリッド	砂岩				チャート				流紋岩				安山岩				ホルンフェルス				その他				計
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
4 L 85							1	1			2					1									6
4 L 86				1		1		1																	3
4 L 87					1		4		1		2									1			1		10
4 L 88		1		2			4		1		1												1		10
4 L 89		1	1				6				1														9
4 L 93											2														2
4 L 95							2		1																3
4 L 96								1		1											1				3
4 L 97							2		1	1	2										1				7
4 L 98							1	2																	3
4 L 99					1						2														3
4 M 10		1					4			2	3														10
4 M 20		2	1	2	1	1	2	3																	12
4 M 21							2		2	1	1	1	2										2		11
4 M 22															1										1
4 M 30																									1
4 M 31						1				2		1										1			7
4 M 32		1					1					1										1			4
4 M 41							1																		1
4 M 54				1																					1
4 M 55		1					1																		2
4 M 56							2																		2
4 M 58				1																					1
4 M 63									2													1			3
4 M 64										1															1
4 M 65										1															1
4 M 66		1				1	1	1		1												2			7
4 M 67		1				1		1	1	2	2														8
4 M 68									1		1														2
4 M 69						1			1	2															4
4 M 70										1		1													2
4 M 76																					1				1
4 M 77							1			1															2
4 M 78							1																		1
4 M 79		1					1			1											1				4
4 M 81		1								2											3				6
4 M 85										1															1
4 M 86							1			1															2
4 M 87		1					1	1		1	1														5
4 M 89							1																		1
4 M 90			1				1														1				3
4 M 91							1			1															2
4 M 92			2							1															2
4 M 96		1								1		1													3
4 M 97		2					1	1		1															5
4 M 98							3		2	1										1		1			8
4 M 99							1		1	1															3
4 N 70		1					4		1	2	2											1			11
4 N 71		1							1																2
4 N 81								1																	1
4 N 90			2				2			1															5
4 N 91		1					1					1													3
5 L 5							1	1																	2
5 L 6			2				1																		3
5 L 7							1																		1
5 L 9		1					1																		2
5 L 17				1																					1
5 L 18								1																	1
5 M 0																					1		1		2
5 M 1								1			1											1			3
5 M 2										1										1					2
5 M 3								1			1														2
5 M 4				1						1															2
5 M 6							1			1												1			3
5 M 7			2						2																4
5 M 8		1																							1
5 M 9					1		2	1	1	2		1										1			9

グループ	砂岩				チャート				凝灰岩				安山岩				ホルンフェルス				その他				計	
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D		
5 M 10				1				1				1													3	
5 M 11		1						1				1													3	
5 M 13	1											1							1						3	
5 M 14		1									1														2	
5 M 15						1																1			2	
5 M 16						1		2																1	4	
5 M 17						1		1																	2	
5 M 19		1	1		1						1														4	
5 M 21				1																					1	
5 M 22		1																							1	
5 M 24		1																							1	
5 M 25																						1			1	
5 M 26						2					1														3	
5 M 27		1				1																1			3	
5 M 28		2						1	1																4	
5 M 29						1	1																		2	
5 M 35						2																1			3	
5 M 36						1																			1	
5 M 37						1		1																	1	
5 M 38		4		1		1																			6	
5 M 39						2																			2	
5 M 43											1														1	
5 M 44					1																				1	
5 M 45			1																						1	
5 M 46						1					1														2	
5 M 48						1		1			1														2	
5 M 49						1																			2	
5 N 0						1		1																	2	
5 N 1	1		1		1																				3	
5 N 10						1																			2	
5 N 11							6		2		3										1	2			16	
5 N 12		2				1	6		2	1	3														15	
5 N 13						1					1														2	
5 N 20			1			2			1	1															5	
5 N 21	1					4			1	1		1										1			8	
5 N 22						3		1		1		1								1	1	1			8	
5 N 30	1										1														1	
5 N 31		1				1																			2	
5 N 32						1															1			1	3	
5 N 41						1																			1	
10 H 表採	2	2		1		2	1	1	1	2											1				13	
12 G 65											1														1	
12 G 67						1																			1	
12 G 69		1	1	1																		1			4	
12 G 75										1											1			1	3	
12 G 76									1	1															2	
12 G 77																							1		1	
12 G 78						9	2			1												1			6	
12 G 79	2							4	1	2													1		10	
12 G 85						1				1															2	
12 G 86		1				2		1	2		1														7	
12 G 87	1	2				2	1	2	2	5															24	
12 G 88		1	1	1		7	2	4	1	2										1		1	5	1	2	30
12 G 89	2	1		1		10	1	6	1	1											1	2			26	
12 G 96		3								1																4
12 G 97	2	9		3	2	6		1	6	9		7							1	2	1	5	1	3	58	
12 G 98	1	7	1		1	9	1	6		5	1	2													42	
12 G 99	4	9	3	6	5	19	5	14	5	11	1								1		1	4	7	5	100	
12 G 表採																						1	3		1	6
12 H 50								1	1	1															2	
12 H 70						2	1			1															2	
12 H 80		1				1	5	1	2	2		1													14	
12 H 90	2	4	3	3	2	7	3	4	3	6	2	2								2		5			48	
13 D 13		2																							2	
13 D 23		1																							1	
13 D 31												1													1	
13 D 32				2		1				1															4	

グリッド	砂岩				チャート				流紋岩				安山岩				ホルンフェルス				その他				計			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
13 D	42						1																		1			
14 B		4	15	3	10	11	56	21	41	8	27	7	4						2	2	2	4	4	2	226			
14 C	30		2				6	1	5					1		1									16			
14 C	47						1																1		2			
14 C	48						1		1															1	2			
14 C	49	4	4		1	12	1	2		11		1									1	1		3	42			
14 C	57	1	1			1			1														2		7			
14 C	58					2	2	1	3											1					9			
14 C	59	2	10	1	5	2	18	2	11	1	6		3		1								4	5	2	73		
14 C	67	1				4		2												1				1	9			
14 C	68		3			5		2	1		3														14			
14 C	69		1			4	6	1	1		4													1	1	19		
14 C	77	1	3		1	1	11	1	2		1	1											1	2	3	28		
14 C	78		1			3	1	1																1	1	8		
14 C	79		4			1	1	3		1	2												1			13		
14 C	87		2	1		1	10		2	1	4	1	2						1	1			2	1	1	34		
14 C	88	1	6		1	18	1	1	1	3									1				3	1	1	38		
14 C	89	1			2		2	3		1	1	1														11		
14 C	97		3		1	7		4	2	1														5		23		
14 C	98		1			5	1	1	2	1													1	1		14		
14 C	99					2		1		1		1														5		
14 D	21		1																							1		
14 D	22					1																				1		
14 D	30		2			1	2	1	2												1	1	2		2	14		
14 D	31		1								1															2		
14 D	40	1	1		2	10	1	6	2	1	1								1		1	1	2			30		
14 D	41					1		2		1	1	1													1	6		
14 D	42					1																				1		
14 D	80		3	1	7	13		14	4	7	2												2		2	55		
14 D	81				1	1	2	1	8	1	2															1	17	
14 D	82							1	1																		2	
14 D	83		1	1				1																			3	
14 D	86		2	1	4	1	5	2	6		1		2										1		2	28		
14 D	61	1		1	1	5	1	4		1	1	1												1		17		
14 D	62			1																							1	
14 D	63							1																			1	
14 D	70					1		1															1			3		
14 D	71	1																									1	
14 D	72					1		1	1																		3	
14 D	81					2		2				1															5	
14 D	82							2																			1	
14 D	90		2		1			1	3			1	1											1			10	
14 D	91			1	1		1	2		1	1																7	
14 D	92					1		1		1	1																4	
15 C	7					1		1		1																	3	
15 C	8					1		1																			1	
15 C	9					2		1																			3	
15 D	8									1													1	1	1		4	
SM 001		66	199	85	318	89	295	185	550	29	93	30	77	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	6	4	8	3	2023
SM 002		110	459	119	336	144	685	238	807	66	173	27	97	0	0	0	4	2	1	6	5	2	2	8	12		3303	
SM 003		3	12	2	9	6	17	14	12	3	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87
SM 004		6	19	5	7	13	20	25	9	4	9	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	121	
SX 001		5	14	3	9	16	86	12	16	32	21	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	3	2	214
		267	966	260	828	347	1727	637	1756	263	612	117	299	0	1	1	10	4	6	12	47	65	186	45	96		9502	

第5表 出土集計表

	定形		破損		定形		破損		合計		破損率		定形率		破損率		
	数量(個)	重量(g)	数量(個)	重量(g)	数量(個)	重量(g)	数量(個)	重量(g)	数量(個)	重量(g)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
全グリッド	384	386	38,927.7	18,845.9	1,350	790	64,549.9	25,899.8	679	47,377.6	2,694	90,546.7	2,778	138,120.3	73.4%	1,436	63.7%
SX001	35	28	7,543.7	3,733.3	126	36	5,913.6	2,629.5	83	11,027.8	161	11,656.1	244	22,683.7	66.6%	189	73.8%
SM001	189	309	3,278.8	13,638.7	991	965	38,891.7	25,517.3	477	22,414.7	1,596	46,129.2	2,023	88,523.3	76.4%	739	27.5%
SM002	234	368	17,975.1	18,851.0	1,326	1,261	44,478.4	31,746.7	792	26,085.1	2,581	78,273.1	3,300	112,251.2	78.1%	1,644	49.9%
SM003	12	20	838.4	1,463.6	33	22	1,618.1	389.3	33	2,280.0	35	1,918.3	87	4,511.8	63.2%	45	31.7%
SM004	33	20	1,591.4	592.3	48	18	1,719.6	883.1	35	2,363.7	86	2,969.7	121	6,123.4	61.9%	71	58.7%
合計	966	1,071	67,048.3	34,897.8	3,469	2,994	141,963.3	87,913.8	2,028	121,336.1	6,483	229,971.1	8,508	381,913.3	68.9%	4,136	55.9%

第4章 古墳時代の遺構と遺物

第1節 古墳

大門口古墳群は、大門口遺跡に所在している古墳を呼称している。そのため、古墳の盛土内から出土した遺物は大門口遺跡に所在する遺構の遺物であり、特に多量に出土した際も大門口遺跡出土の遺物として考えてさしつかえない。

古墳は4基が確認された。うち3基は円墳で、1基は方形墳であった。4基とも台地の小尾根上の若干平場になっている範囲に連なって所在していた。SM-001からSM-003の3基は古墳時代に築造されたもので、SM-004は奈良・平安時代に築造されたものと推定され、埋葬施設には石櫃が使用されていたことが確認された。

1 SM-001 (第7・33図, 図版6)

(1) 調査の概要と方法

調査区西側の台地先端部に所在する。3基の古墳のうちでもっとも小さい。南北13.3m×東西13.2m、周溝の深さ0.4mをはかる。盛土の高さは墳丘の中央部では旧表土から約60cmが残存していた。周溝の内側の立ち上がりラインと盛土範囲の間には約1mの幅で盛土のみられない範囲が巡っており、テラス状になっている。

(2) 検出された遺構・遺物

テラス状になっている内側からは旧表土が確認された。埋葬施設は検出されなかった。古墳の周溝内および盛土内からは図化できる遺物は出土しなかった。

2 SM-002 (第7・34・38, 図版6・7・22)

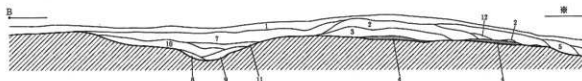
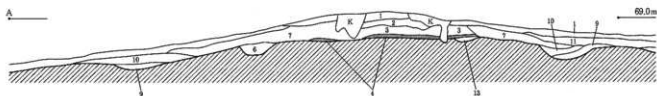
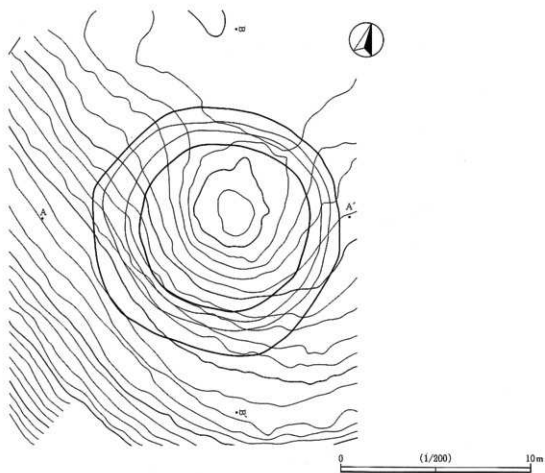
(1) 調査の概要と方法

SM-001とSM-002の間に接する様に位置している。南北18.3m×東西17.7m、周溝の深さ0.5~0.6mをはかる。盛土の高さは墳丘の中央部では旧表土から約1mが残存していた。SM-001と同様に、周溝の内側立ち上がりと盛土の間にテラス状の平坦な部分がみられる。盛土は整然とした盛り方ではなく、どちらかといえば雑然と盛っている状況が観察される。

(2) 検出された遺物

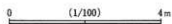
周溝と盛土内から遺物が出土しているが、古墳に伴う遺物は確認されなかった。

1は杯形土器で1/4が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で11.2cm、底径は復元で7cm、器高は4cmである。整形・調整は外面はヨコヘラケズリ、口縁部はヨコナデを施している。内面はミガキである。胎土は緻密で、赤茶粒を含む。焼成は良好である。2は杯形土器で底部を欠損する。色調は内外面とも明赤褐色である。口径13.8cmで、器高は5cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデ調整を施し、内面はナデ調整を施している。赤彩が施される。胎土は緻密で、焼成は良好である。3は壺形土器ではは完形である。色調は内外面とも明赤褐色である。口径9.8cm、底径4.8cm、器高は10.9cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施す。赤彩が施されている。胎土は緻密で、焼成も良好である。4は杯形土器で口縁部の1/3が遺存する。色調は内外面ともに明赤褐色である。口径は復元で15.8cm、器

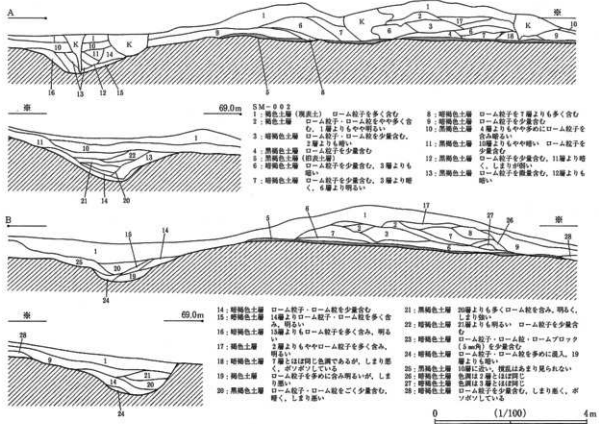
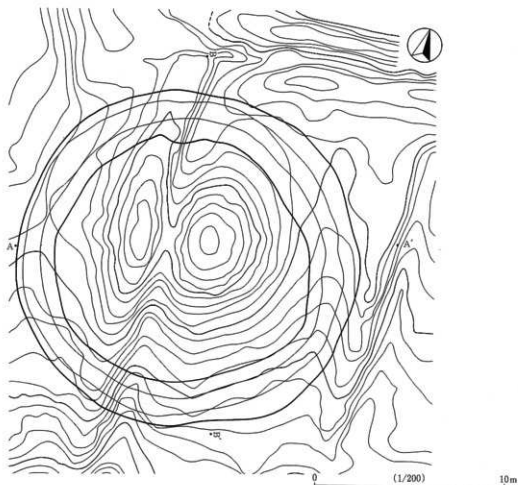


SM-001

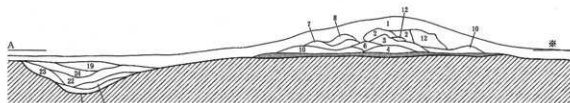
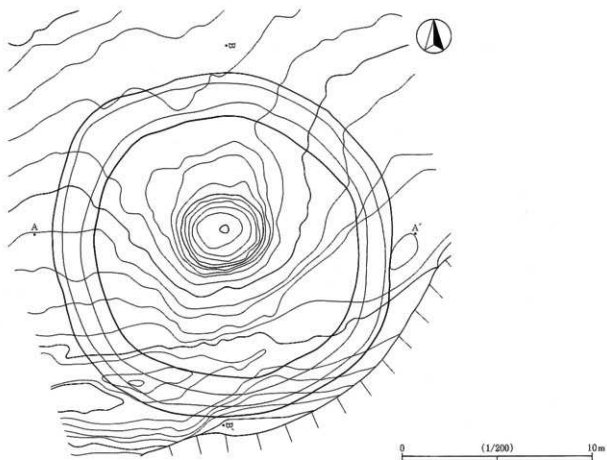
- 1: 褐色土層 (腐敗土層) ローム粒子を多く含む、明るい
- 2: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む
- 3: 暗褐色土層 2層よりもローム粒子を多く、ローム粒を少量含む
- 4: 黒褐色土層 (腐敗土) ローム粒を少量含む
- 5: 暗褐色土層 2層よりも多くローム粒を含む
- 6: 暗褐色土層 2層よりもローム粒を多く含む
- 7: 褐色土層 1層より少ないローム粒子を中程度の含む
- 8: 暗褐色土層 ローム粒子を少量、2層より多く、明るい
- 9: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む
- 10: 暗褐色土層 2層よりもローム粒子の混入が少なく、暗い
- 11: 黒褐色土層 2層よりもローム粒子の混入が少なく、L層を多く含む(中)程度
- 12: 明褐色土層 ローム粒子を主成分とした層
- 13: 暗赤褐色土層 粘土粒・微土粒子を含む 炭化物混入 (腐敗土層の下部?)



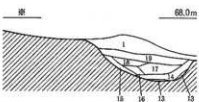
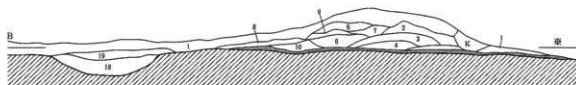
第33図 SM-001測量図・墳丘断面図



第34図 SM-002測量図・墳丘断面図



- SM-003
- | | |
|--|---|
| 1: 暗褐色土層 (黒表土) 竹の根の残乱が散しく、バヤ
バヤと強い土層 | 7: 黒褐色土層 ローム粒子を少量含む |
| 2: 褐色土層 ローム粒子・ローム殻を多めに含む、明
るい。しまり直し | 8: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む |
| 3: 暗褐色土層 ローム粒子・ローム殻をやや多めに含む | 9: 黒褐色土層 ローム粒子を少量含む、しまり強い |
| 4: 黒褐色土層 3層よりも少なくローム粒・ローム殻
を含む、暗い。しまり直し | 10: 暗黒褐色土層 3層よりもローム粒子の混入少なく、
暗く、しまり直し |
| 5: 黒褐色土層 (団粒土層) | 11: 暗褐色土層 3層よりやや多くローム粒子・ローム
殻、ロームアブリク (1mm大) を含む |
| 6: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む、3層より暗く、
4層より明るい | 12: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む |
| | 13: 黒褐色土層 ローム粒子を少量含む、しまり直し |



- | | |
|-------------------------------------|--|
| 14: 暗褐色土層 ローム粒子・ローム殻を少量含む、しま
り強い | 20: 黒褐色土層 ローム粒子の混入少なく、17層より暗い
ローム粒を少量含む |
| 15: 暗褐色土層 14層よりローム粒子を含む、明るい | 21: 黒褐色土層 ローム粒子・ローム殻少量、20層より明
るいが、17層より暗い |
| 16: 暗褐色土層 ローム粒子の混入少なく、暗い | 22: 暗褐色土層 ローム粒を少量含む、しまり直し |
| 17: 暗褐色土層 16層よりローム殻の混入多し、ローム
粒少量 | 23: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む、しまり強い |
| 18: 暗褐色土層 16層よりローム殻の混入多し、ローム
粒少量 | 24: 暗褐色土層 18層よりローム粒子の混入多し、明るい
が、23層より暗い |
| 19: 黒褐色土層 17層よりローム粒子の混入やや多く、
明るい | |

0 (1/100) 4m

第35図 SM-003測量図・墳丘断面図

高は4.1cmである。整形・調整は外面はヘラミガキ、内面はミガキを施す。赤彩が施される。胎土は緻密で、焼成も良好である。5は壺形土器で底部の1/4が遺存する。色調は外面は橙色で、内面はにぶい橙色である。底径は復元で10.4cm、器高は2.8cmである。整形・調整は外面はタテハケ、内面はナデを施す。胎土は長石粒と微量の赤茶色粒を含む。焼成は良好である。

3 SM-003 (第7・35・38図, 図版7・8・22)

(1) 調査の概要と方法

調査前の地形測量の段階では、方墳と推定していたが、調査によって円墳であることがわかった。SM-002とSM-004の間に接する様に位置している。南北19.4m×東西18.2m、周溝の深さ0.8mをはかる。盛土の高さは墳丘の中央部では旧表土から約1.1m残存していた。SM-001・002と同様に、周溝の内側立ち上がりと盛土の間に、幅1m～2mの、テラス状の平坦な部分が見られる。SM-002と同様に盛土は整然とした盛り方ではなく、どちらかといえば雑然と盛っている状況が観察される。旧表土が残存していた。

(2) 検出された遺構・遺物

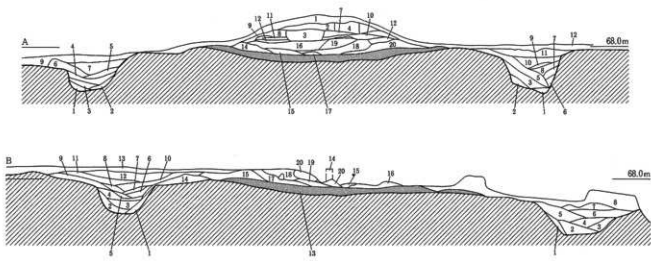
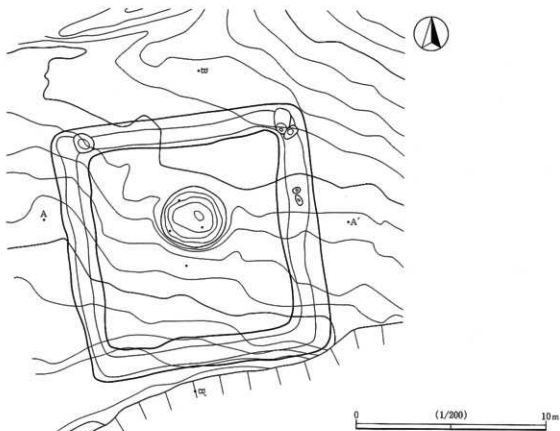
埋葬施設は検出されなかったが、周溝および盛土内から土器器が出土している。

1は椀形土器で1/4が遺存する。色調は内外面とも明赤褐色である。口径は13.1cm、器高は4.6cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はハケ後ナデ調整を施す。胎土は砂粒を含むが良好で、焼成は良好である。2は小型壺で完形である。色調は内外面とも橙色である。口径は7.9cm、底径は2.9cm、器高は8.6cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキ、内面はミガキを施す。胎土は緻密で、焼成は良好である。3は高杯で杯部の1/4が遺存する。色調は内外面とも赤褐色である。口径は復元で17.3cmで、器高は4.9cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキ、内面はミガキを施す。赤彩が施されている。胎土は緻密で、焼成は良好である。4は高杯で体部の2/3を欠損する。色調は外面は明赤褐色で、内面はにぶい褐色である。口径は復元で18.5cm、底径は13.8cm、器高は15.0cmである。整形・調整は外面はハケ後ミガキ、内面はミガキを施す。赤彩が施されている。胎土は砂質であるが緻密で、焼成も良好である。5は高杯の脚部片である。色調は外面は明赤褐色で、内面はにぶい褐色である。残存器高は7.9cmである。整形・調整は外面はミガキ、内面はナデを施す。赤彩が施されている。胎土は緻密で、焼成も良好である。6は高杯で杯部と脚接合部が遺存する。色調は内外面とも赤褐色である。残存器高は8.4cmである。整形・調整は内外面ともナデを施す。胎土は砂質で、焼成は良好である。

4 SM-004 (第7・36～38図, 図版8・9・22)

(1) 調査の概要と方法

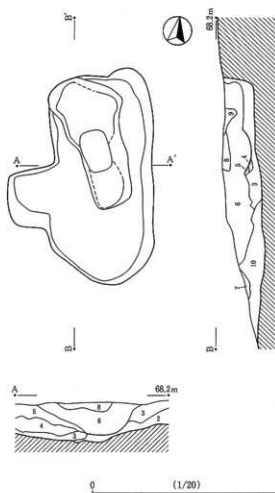
調査された4基のうちでもっとも東側に位置している方墳である。調査前の観察からは円墳と推定していたが、方形墳であった。中央部で埋葬施設が検出された。埋葬施設はすでに破壊されており、旧状をとどめないが、掘り形の一部分が検出された。埋葬施設は石櫃を使用したと考えられ、石櫃の石材が散乱していた。また、石櫃を収納していたと推定される土坑の下端が確認された。副葬品等の出土遺物はなかった。南北14.2m×東西13.4m、周溝の深さ0.8mをはかる。盛土の高さは墳丘の中央部では旧表土から約1.1mが残存していた。SM-001・002と同様に、周溝の内側立ち上がりと盛り土の間に、幅1m～2mのテラ



- SM-004 A-A'
- 1: 暗褐色土層 (暗赤土)
 - 2: 暗褐色土層 暗褐色土中に黒褐色土を少量含む
 - 3: 暗褐色土層 1層よりやや多めにローム粒子を含む、黄色い
 - 4: 暗褐色土層 ローム粒子を多めに含む
 - 5: 暗褐色土層 4層よりローム粒子の混入多く、明るい
 - 6: 暗褐色土層 7層よりローム粒子を多めに含む、明るい
 - 7: 暗褐色土層 3~20mmの茶 黒色粒子が盛かに見られる
 - 8: 暗褐色土層 石粒の盛った物に見られる数量の碎屑
 - 9: 暗褐色土層 ローム粒子を含まずしりぞき、わずかに黒色土粒子を含む
 - 10: 暗褐色土層 石粒の一部を含まずとも思われる、遺物状態は悪く、脆い
 - 11: 軟黄砂層 わずかにローム粒子を含む、しりぞき、脆性ともに強い
 - 12: 黒褐色土層 (暗赤土)
 - 13: 暗褐色土層
 - 14: 暗褐色土層 ローム粒子小量で、かなり黒褐色に近い色調
 - 15: 暗褐色土層 SM004 (A-A')の9層に類似
 - 16: 暗褐色土層 16層よりローム粒子の混入多く、明るい
 - 17: 暗褐色土層 SM004 (B-B')の9層に類似
 - 18: 暗褐色土層 SM004 (B-B')の11層に類似
 - 19: 暗褐色土層 SM004 (B-B')の15層に類似
 - 20: 暗褐色土層 ローム粒子を多く含む、明るい

- B-B'
- 1: 暗褐色土層 ローム粒子・ローム粒少量 ロームブロック (1~2cm) を少量含む
 - 2: 暗褐色土層 1層より少なめにローム粒子・ローム粒を含む
 - 3: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む、2層より暗くしりぞき
 - 4: 暗褐色土層 2層に類似、ローム粒子を含む
 - 5: 暗褐色土層 4層より多めにローム粒子を含む
 - 6: 暗褐色土層 8層に類似、ローム粒子を含む
 - 7: 暗褐色土層 6層より多くローム粒子・ローム粒を含む、明るい
 - 8: 暗褐色土層 7層に類似、しりぞき、脆性有り
 - 9: 暗褐色土層 8層に類似、しりぞき
 - 10: 暗褐色土層 8層よりロームの混入多く、暗色に近い
 - 11: 暗褐色土層 6層に類似、しりぞき
 - 12: 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む、しりぞき
 - 13: 暗褐色土層 (暗赤土)
 - 14: 暗褐色土層 暗赤土に類似、しりぞき
 - 15: 暗褐色土層 暗赤土層に近い
 - 16: 暗褐色土層 (暗赤土)
 - 17: 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック (1~5cm) をやや多く含む、明るい
 - 18: 暗褐色土層 ローム粒子・ローム粒を少量含む
 - 19: 暗褐色土層 ローム粒子を含む
 - 20: 暗褐色土層 17層とはほぼ同程度ローム粒子を含む

第36図 SM-004測量図・墳丘断面図



- 埋葬施設
- 1: 黄褐色土層 (即興土層)
 - 2: 褐色土層 ローム粒子を主とする
 - 3: 暗褐色土層 ローム粒子・ローム殻をやや多く含む
 - 4: 暗褐色土層 ローム粒子を3層よりも少なめに含む、硬くしまり強い
 - 5: 暗褐色土層 ローム粒子を3層よりもやや多く含む、硬い
 - 6: 灰白色土層 砂質アロックス (1~10mm)・砂礫・砂質粒子を含む
 - 7: 灰白色土層 砂質粒子を多く含む、腐解・崩れた主体部の残り
 - 8: 灰白色土層 砂質アロックス (1~5mm)・砂礫・砂質粒子を多く含む
 - 9: 暗褐色土層 ローム粒子少量、砂質粒子・砂質殻を少量含む
 - 10: 暗褐色土層 3層よりもローム粒子を多く含む、2層より硬い

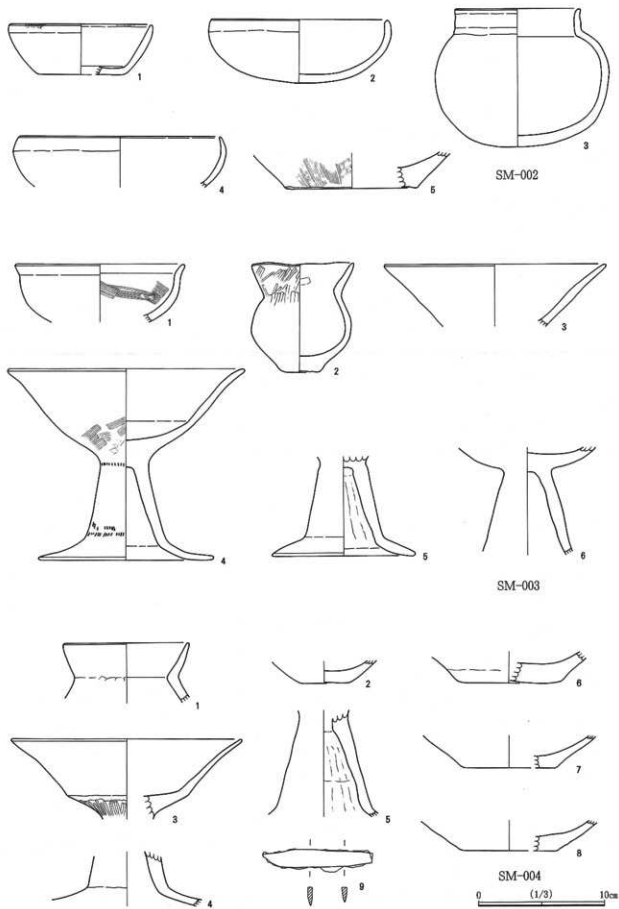
第37図 SM-004埋葬施設

ス状の平坦な部分が見られる。盛り土は整然とした盛り方をしていない。

(2) 検出された遺構・遺物

埋葬施設と推定される石櫃を確認した。石櫃を収納した土坑は下底部は第38図6層の下底部と推定される。

1は小型壺形土器で口縁の1/4が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で9.8cm、器高は4.7cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキ、内面はミガキを施す。胎土は緻密で、焼成は良好である。2は増形土器で底部片である。色調は内外面とも明赤褐色である。底径は3.8cm、器高は1.7cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施す。赤彩が施されている。胎土は緻密で、焼成は良好である。3は高杯で杯部の1/5が遺存する。色調は内外面ともいっい黄褐色である。口径は復元で18cm、器高は6.3cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施す。胎土は緻密で、焼成は良好である。4は高杯で脚部が遺存する。色調は内外面ともいっい黄褐色である。残存器高は4.3cmである。整形・調整は外面はミガキ、内面はナアを施す。胎土は普通で、焼成は普通である。5は高杯で脚部が遺存する。色調は内外面ともいっい褐色である。残存器高は8.3cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施す。胎土は緻密で赤茶粒を含む。焼成は良好である。6は壺形土器で底部の1/5が遺存する。色調は外面はにいっい赤褐色で、内面



第38图 SM-002~004出土遺物

にはぶい黄褐色である。底径は復元で8cm, 器高は2.5cmである。整形・調整は外面はナデ, 内面はナデを施す。胎土は砂質で, 焼成は普通である。7は壺形土器で底部の1/2が遺存する。色調は外面にはぶい褐色で, 内面は黒色である。底径は復元で7.6cm, 器高は2.7cmである。整形・調整は内外面ともナデを施す。胎土は砂質で, 焼成は普通である。8は壺形土器で底部が遺存する。色調は内外面ともにぶい赤褐色である。底径は復元で7.4cm, 器高は2.4cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施す。胎土は緻密で赤茶粒を含み, 焼成は良好である。9は刀子で基部を欠損する。残存長9cm, 幅1.6cmである。

第2節 竪穴住居跡

1 SI-001 (第6・39図, 図版9・23)

4K-49から検出された。平面の形はややくずれた楕円形を呈する。長軸3.37m, 短軸2.95m, 深さ0.5mを計る。住居跡のほぼ中央で炉跡と推定される焼土を検出した。炉跡の覆土はロームブロックで, 形状は楕円形である。住居跡の床面から焼土塊が検出されている。土層断面図, 遺構断面図から観察すると, 床面は水平でなく, 住居跡としては不自然であるがここでは住居跡として報告する。覆土には焼土はみられないが, 最下層に若干焼土がみられる。遺物は遺構全体から出土している。出土遺物は須恵器のタタキ目を持つ甕形土器がみられ, 奈良・平安時代と推定される。同一台地上に所在する方形墳との関係を考える必要があると思われる。

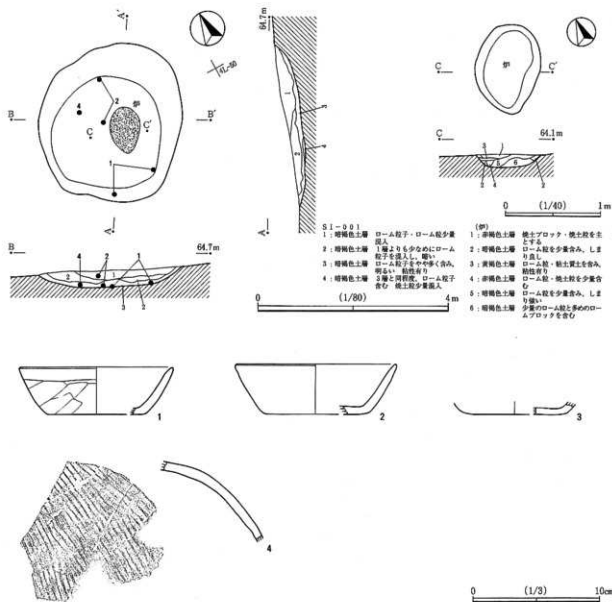
1は杯形土器で1/5が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で12cm, 底径は復元で7.7cm, 器高は3.7cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ, 口縁部はヨコナデを施し, 内面はナデを施す。胎土は緻密で, 焼成は良好である。2は杯形土器で1/3が遺存する。色調は明赤褐色で, 内面は赤褐色である。口径は復元で12.4cm, 底径は復元で8.2cm, 器高は3.9cmである。整形・調整は外面は横ヘラケズリ後ナデを, 底部はヘラケズリ後ナデを施す。内面もナデを施している。胎土は緻密で, 焼成は良好である。3は杯形土器で底部片である。色調は内外面とも橙色である。底径は復元で8cm, 器高は1cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ, 内面はナデを施す。胎土は緻密で, 焼成は良好である。4は須恵器で甕形土器の胴部片である。色調は外面は黒褐色で, 内面は明褐色である。整形・調整は外面はタタキ目が見られる。胎土は砂質で, 焼成は普通である。内面に剥離痕がみられる。

2 SI-002 (第7・40・45図, 図版10・23)

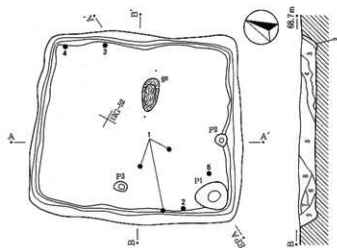
12G-52から検出された。平面の形は方形を呈すが, やや横長の形状をしている。長軸4.07m, 短軸4.33m, 深さ0.45mを計る。炉跡は北側に1か所ある。貯蔵穴が南東角に1か所ある。柱穴は炉跡の反対側に1本, ほかに一方の壁際に1本が見られる。出土した遺物は土師器と砥石である。

1は埴形土器で1/2が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で11.4cm, 底径は3.8cm, 器高は13.8cmである。整形・調整は外面はハケ後ミガキ, 口縁部ヨコナデを施し, 内面は横ハケ後ナデを施している。胎土は緻密で, 焼成は良好である。輪痕が見られる。2は埴形土器でほぼ完形である。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で8.5cm, 底径は3.1cm, 器高は9.7cmである。整形・調整は外面ケズリ後ミガキ, 内面はナデを施している。胎土は緻密で, 焼成は良好である。内部底部に赤色顔料の付着が認められる。3は高杯で脚部片である。色調は外面にはぶい黄褐色で, 内面は橙色である。底径は12.5cm, 器高は7.7cmである。整形・調整は外面はハケ後ミガキ, 内面の脚部はヘラケズリを施している。胎土は

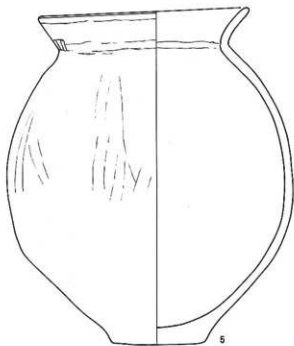
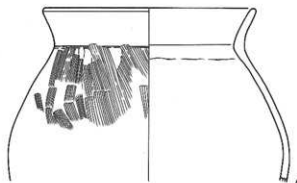
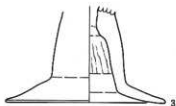
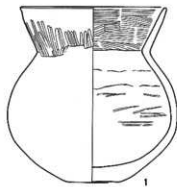
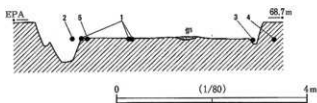
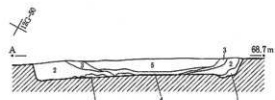
緻密で、焼成は良好である。4は壺形土器で胴部以下を欠損する。色調は外面にはぶい黄褐色で、内面は黄褐色である。口径で16.4cm、器高は13.6cmである。整形・調整は外面はタテハケメ、口縁部はヨコナデを施し、内面はナデ調整を施している。胎土は緻密で、焼成も良好である。5は壺形土器でほぼ完形である。色調は内外面とも橙色である。口径16.4cmで、底径は7.2cm、器高は26.4cmである。整形・調整は外面はタテハラケズリ後ナデを施し、内面はナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。第45図1はSI-001から出土した砥石で、石材は凝灰岩である。



第39図 SI-001実測図・出土遺物



- SI-002
- 1: 暗褐色土層 ローム状を多く含み、しまりあり
 2: 暗褐色土層 3層より少量のローム状を含む、やや粗い
 3: 暗褐色土層 2層より少量のローム状を含む、2層より粗い
 4: 黄褐色土層 ローム状を少量含む、しまり中程度
 5: 黄褐色土層 ローム状を少量含む
 6: 赤褐色土層 ローム状を少量含む、4層よりしまりあり
 7: 暗褐色土層 6層より中歩量のローム状を含む、粗い
 8: 黄褐色土層 ローム状を少量含む、5層より粗い



0 (1/3) 10cm

第40図 SI-002実測図・出土遺物

3 SI-003 (第7・41図, 図版10・23)

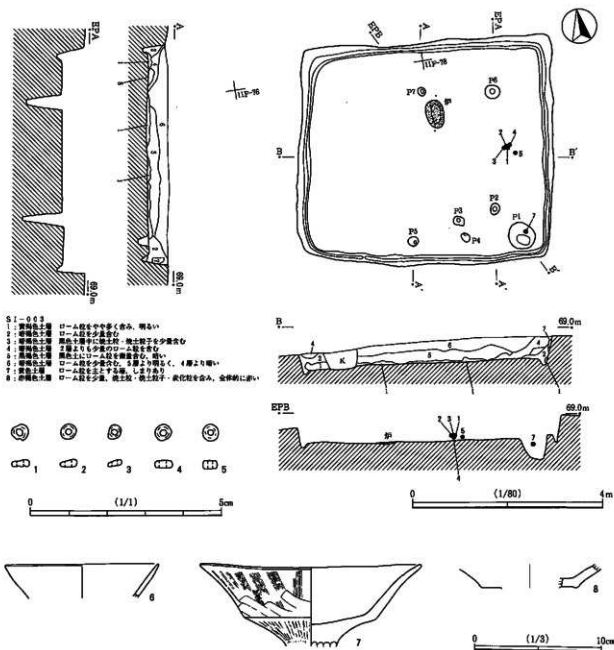
11F-66から検出された。平面の形はやや横長の方形を呈している。長軸4.75m, 短軸5.38m, 深さ0.5mを計る。炉跡が北側に1か所見られる。南東角に貯蔵穴が1か所ある。柱穴は全部で6本が調査された。土層断面B-B'のBに近い箇所を観察によると, 1層を2層が覆う状態が見られ, 焼土塊が投げ込まれて埋められた様子がうかがわれる。

1は白玉で完形である。色調は外面は灰黒色である。長軸0.46cmで, 短軸は0.41cm, 厚さは0.14cmである。石材は滑石である。2は白玉で完形である。色調は外面は灰黒色である。長軸0.4cmで, 短軸は0.39cm, 厚さは0.19cmである。石材は滑石である。3は白玉で完形である。色調は外面は灰黒色である。長軸0.41cmで, 短軸は0.38cm, 厚さは0.15cmである。石材は滑石である。4は白玉で完形である。色調は外面は灰黒色である。長軸0.45cmで, 短軸は0.42cm, 厚さは0.18cmである。石材は滑石である。5は白玉で完形である。色調は外面は灰黒色である。長軸0.42cmで, 短軸は0.41cm, 厚さは0.21cmである。石材は滑石である。6は増型土器と思われ, 口縁部の1/5が遺存する。色調は外面はにぶい赤褐色で, 内面はにぶい赤褐色である。口径は復元で12cmで, 器高は2.6cmである。整形・調整は内外面ともナデを施している。外面に赤彩が施される。胎土は緻密で, 焼成は良好である。7は高杯で杯部の4/5残が遺存する。色調は内外面とも明赤褐色である。口径は17.2cmで, 器高は6.4cmである。整形・調整は外面はタテハラミガキ, 内面はヨコハラミガキを施している。胎土は緻密で, 焼成は良好である。8は高杯で杯部の1/5が遺存する。色調は内外面とも赤褐色である。底径は復元7.8cm, 器高は1.8cmである。整形・調整は外面はミガキの後に赤彩が施されている。内面はナデ調整を施している。胎土は緻密で, 焼成は良好である。

4 SI-004 (第7・42図, 図版11・23)

12F-87から検出された。ほぼ正方形に近い形状をしている。長軸4.5m, 短軸4.45m, 深さ0.5mを計る。床面の焼けた跡が2か所確認された。北側は炉跡(A)と思われる。南側にある焼土面(B)は炉としては位置が不自然である。また, 覆土中に焼土塊がみられ, SI-003と同様に焼土塊が投げ込まれた様子が見られる。床面および壁に近い床面にピットが多数ある。すべてが柱穴としては考えられない。SK-005と重複しており, 住居跡の方が古い。

1は壺形土器で口縁部の一部を欠いている。色調は内外面とも橙色である。底径は3.3cm, 器高は9cmである。整形・調整は外面はハラケズリ後ミガキ, 内面はナデを施している。胎土は緻密であるが, 赤茶色粒を含む。焼成は良好である。2は高杯で脚部が遺存する。色調は内外面ともににぶい橙色である。残存器高は5.2cmである。整形・調整は外面はハラケズリ後ミガキを施している。赤彩が施されている。胎土は緻密で, 焼成は普通である。2次焼成を受けている。3は高杯で脚の一部が遺存する。色調は外面は赤褐色で, 内面は橙色である。残存器高は7.3cmである。整形・調整は外面はミガキを施す。胎土は緻密で, 赤彩が施される。焼成は良好である。4は壺形土器で完形である。色調は内外面とも橙色である。口径16.5cmで, 底径は6cm, 器高は25.2cmである。整形・調整は外面はタテハラケズリ後ミガキ, 口縁部外面はヨコナデを施し, 内面はナデを施している。胎土は緻密で, 焼成は良好である。



第41図 SI-003実測図・出土遺物

5 SI-005 (第7・43・44図, 図版11・23・24)

13F-00から検出調査された。やや横長の形状を呈している。長軸4.9m、短軸5.4m、深さ0.43mを計る。北側に炉跡が1か所ある。南東角には貯蔵穴が1か所ある。床面に柱穴と思われるピットが17本あるが、これも位置からすべてが柱穴とは思われない。

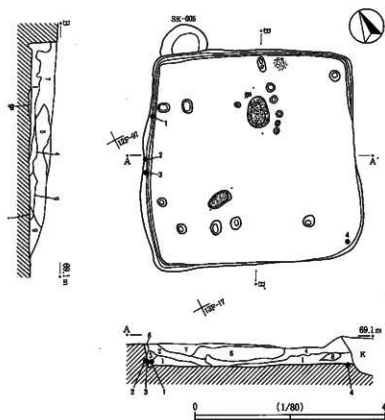
1は埴型土器で口縁部の1/5が遺存する。色調は外面にはぶい赤褐色で、内面にはぶい褐色である。口径は復元で10.6cmで、器高は4.2cmである。整形・調整は内外面ともヨコナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。2は埴型土器で口縁部の1/5が遺存する。色調は外面は褐色で、内面にはぶい褐色である。口径は復元で11cmで、器高は5cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施している。胎土

は緻密で、焼成は良好である。3は埴型土器と思われ口縁部の1/3が遺存する。色調は外面は赤褐色で、内面は赤褐色である。口径は復元で17.8cm、器高は4.3cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。4は鉢形土器で1/5が欠損する。色調は内外面ともにぶい赤褐色である。口径は復元で13.6cm、底径は6cm、器高は7.6cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデを施し、内面はナデを施したのちミガキを施している。胎土は普通で、焼成は普通である。2次焼成を受けている。5は杯形土器で一部欠損する。色調は外面は橙色で、内面は橙色である。口径は復元で10.3cm、底径は3.8cm、器高は6.5cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデを施し、内面はナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。内面と底部に剝離痕がある。6は鉢形土器で体部の1/4が遺存する。色調は外面は明赤褐色で、内面は明赤褐色である。口径は復元で13cmで、底径は7.2cm、器高は7.3cmである。整形・調整は内外面ともハケメが見られる。胎土は緻密で、焼成は良好である。7は高杯では完形である。色調は外面は明赤褐色で、内面は明赤褐色である。口径は15.9cmで、底径は12.3cm、器高は13.8cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施している。赤彩が施されている。胎土は緻密で、焼成は良好である。8は高杯で脚部が遺存する。色調は外面はぶい赤褐色で、内面はぶい赤褐色である。残存器高は3.3cmである。整形・調整は外面はミガキを施している。胎土は緻密で赤茶粒を含む。焼成は良好である。9は高杯で杯部の1/4が遺存する。色調は外面は明赤褐色で、内面は明赤褐色である。口径は17.6cm、残存器高は6.8cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施している。胎土は緻密であるが赤茶粒を含む。焼成は良好である。10は高杯で脚のみ遺存する。色調は外面は赤褐色で、内面は橙色である。底径は11cm、残存器高は7cmである。整形・調整はタテヘラケズリ後ミガキを施している。外面は赤彩を施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。11は壺形土器で1/5が遺存する。色調は内外面とも黒褐色である。口径は復元で15cmで、器高は10cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ、口縁部ヨコナデを施し、内面はナデを施している。胎土は緻密であるが赤茶粒を含む。焼成は良好である。

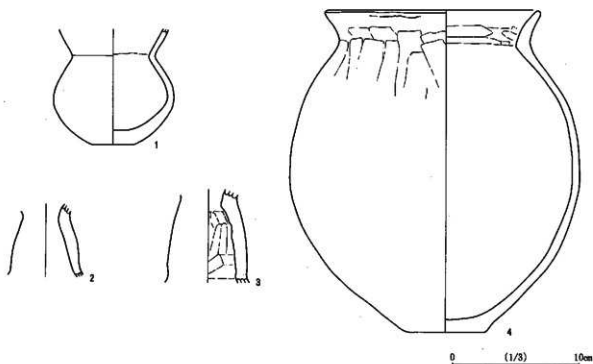
6 S I - 0 0 6 (第7・51図、図版12・24)

13E-35から検出された。平面の形はやや横長の方形を呈する竪穴住居である。確認調査の時に所在が確認されていた。長軸3.42m、短軸3.68m、深さ0.34mを計る。炉跡が北側に1か所確認された。南東隅に貯蔵穴が1か所ある。床面には全部で5本のピットが検出された。遺物は土師器と砥石が出土している。

1は小型埴形土器で口縁部のみが遺存する。色調は内外面とも赤褐色である。口径は9.6cmで、器高は3.9cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ミガキ、内面もミガキを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。2は小形壺で完形である。色調は内外面ともにぶい褐色である。口径は7.4cmで、底径は3.2cm、器高は8.5cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデを施し、内面はヘラケズリ後ナデを施している。胎土は赤茶粒を含む。焼成は普通である。器面が完れて剝離痕が見られる。3は杯形土器で3/4が遺存する。色調は内外面とも赤褐色である。口径は復元で15.2cmで、器高は5.3cmである。整形・調整は内外面ともミガキを施している。胎土は赤茶粒を微量含む。焼成は普通である。器面に剝離による凹凸が見られる。4は高杯で杯部の1/4が欠損する。色調は外面は赤褐色で、内面は暗赤褐色である。口径は復元で14.8cmで、底径は11.5cm、器高は12.7cmである。整形・調整は外面はナデ、内面はミガキを施している。赤彩を施している。胎土は赤茶粒と長石粒を含む。焼成は良好である。器面に剝離痕が見られる。5は壺形土器で底部片が遺存する。色調は外面はぶい黄褐色で、内面は黒色である。底径は4.8cm、器

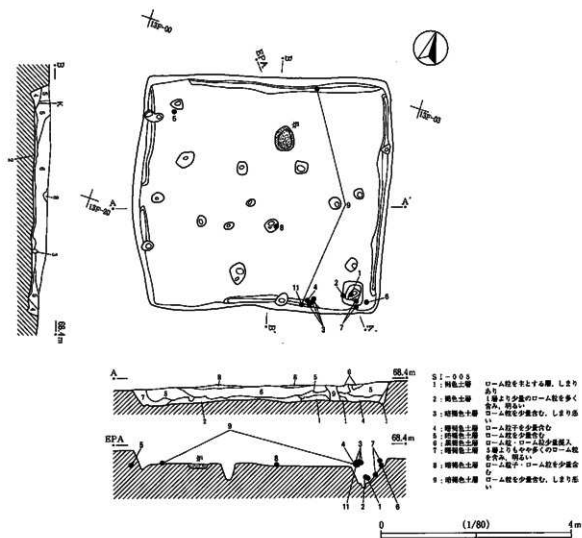


- SI-004
 1: 暗褐色土層 ローム層を中や少量に含み、硬い
 2: 暗褐色土層 ローム層を1層よりもやや少なめに含む、1層より硬い
 3: 暗褐色土層 1層よりもローム層を中や少なめに含む、硬い
 4: 灰褐色土層 ローム層・ロームブロックを少量含む、硬化度も少ない
 5: 暗褐色土層 ローム層を少量含む
 6: 暗褐色土層 ローム層をほとんど含む、しまりあり
 7: 暗褐色土層 1層よりもローム層が少ない、硬いが、しまりあり
 8: 暗褐色土層 ローム層・塊土層を少量含む
 9: 暗褐色土層 1層よりもローム層が少なく、硬い

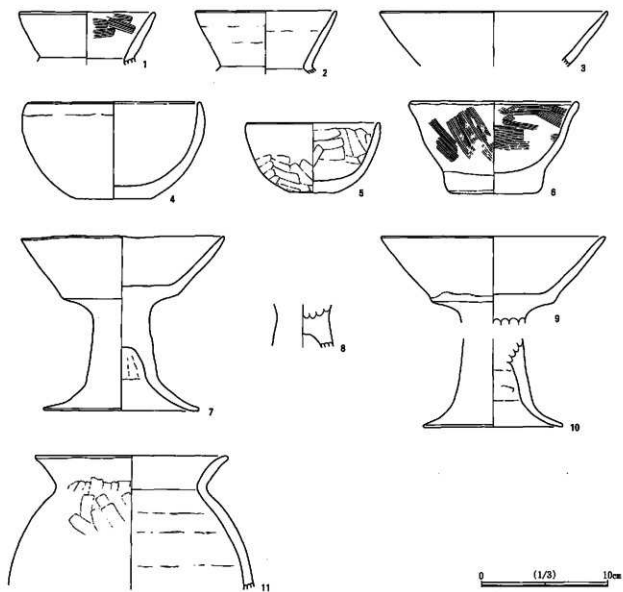


第42図 SI-004・SK-005実測図・出土遺物

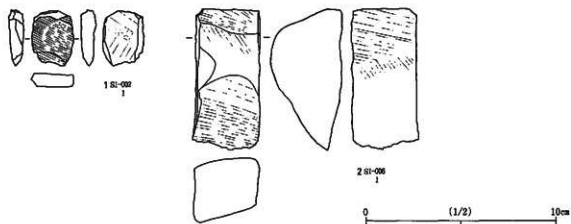
高は5.3cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデを施し、内面はナデを施している。胎土は赤茶粒含む。焼成は普通である。6は変形土器で胴部以下が遺存する。色調は内外面とも橙色である。底径は6.4cm、残存器高は8.6cmである。整形・調整は内外面ともナデを施している。胎土は砂質で赤茶粒を含む。焼成は普通である。第45図2はSI-006から出土した砥石で、石材は凝灰岩である。



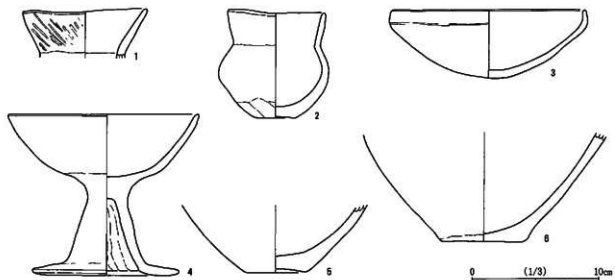
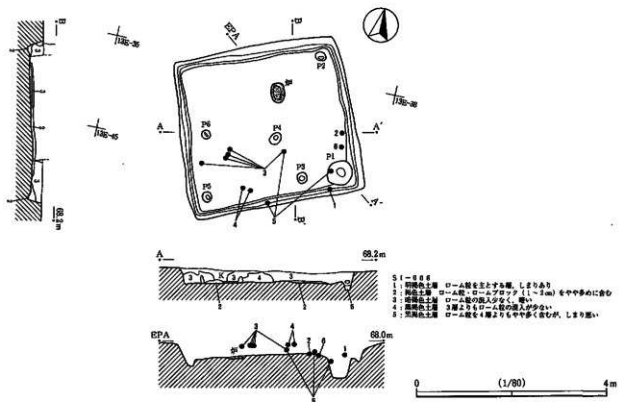
第43図 SI-005実測図



第44图 SI-005出土遺物



第45图 出土石製品実測図



第46図 SI-006実測図・出土遺物

第3節 その他の遺構と遺物

その他の遺構として土坑が3L・4Kに集中して検出された。各遺構とも遺物の出土が見られる。形状はやや長い小判形をしている。また、各遺構とも底面は傾斜しており、SI-001に形状は類似するが、SI-001

にみられたような炉跡は検出されておらず、住居跡とは考えられない。以下各遺構について概観したい。

1 遺構

SK-001 (第6・47・48図, 図版12・24)

4K-44から検出された。長軸3m×短軸2.35m, 深さ0.6mを計る。壁の立ち上がりは緩やかで、底面は斜めで凹凸がある。遺物が出土している。倒木痕の可能性もある。

SK-002 (第6・48・52・53図, 図版12・24)

SK-001と同じく4K-44近くから検出された。形状はSK-001と類似している。長軸3.65m, 短軸2.85mで、深さは0.4mを計る。底面は凹凸があり、水平ではない。壁の立ち上がりは緩やかである。遺物は2点が図化できた。

SK-003 (第6・47・48図, 図版12・24)

3L-81から検出された。形状は楕円形である。長軸3m×短軸21.35m, 深さは0.3mを計る。底面はすり鉢状を呈する。倒木痕の可能性もある。

SK-004 (第6・47・48図, 図版12)

4K-07から検出された。複数のピットが重複している。覆土には焼土ブロック、焼土粒を含む。

SK-005 (第7・42図, 図版13)

SF-004と重複しており、SK-005が住居跡よりも新しい。遺物の出土はみられない。性格不明である。

SK-014 (第7・49図, 図版13・25)

5D-08から検出された。角の丸い方形を呈し、遺物の出土は多い。長軸2.65m, 短軸1.95m, 深さは0.35mを計る。床面はほぼ水平であるが、覆土の堆積は水平の層が見られる。覆土に多くの焼土を含むが、性格は不明である。

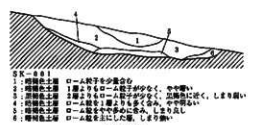
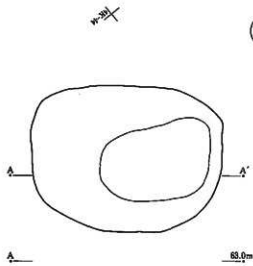
SH-017 (第7・49図, 図版25)

SD-08から検出調査された。SK-014に隣接している。SK-014と同様に遺物の出土が見られる。

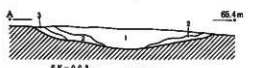
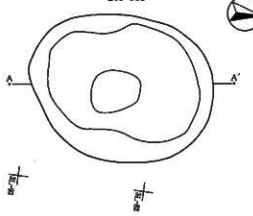
2 遺物

SK-001-003 出土遺物 (第48図, 図版24・25)

1はSK-001から出土した壺形土器で1/4が遺存する。色調は内外面とも明赤褐色である。口径は復元で20.3cmで、器高は10.3cmである。整形・調整は外面はタテヘラケズリ, 口縁部はヨコナデを施している。内面はナデを施す。胎土は緻密で、焼成は良好である。2はSK-001から出土した壺形土器で口縁部の1/5が遺存する。色調は内外面とも明赤褐色である。口径は復元で21.8cmで、底径は器高は13.8cmである。整形・調整は外面はヘラケズリで、内面はナデを施している。胎土は砂質で、焼成は良好である。3はSK-001から出土した壺形土器で1/5が遺存する。色調は内外面ともにふい褐色である。口径は復元で19cmで、残存器高は5.5cmである。整形・調整は外面はタテヘラケズリ, 口縁ヨコナデを施し, 内面はナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。4はSK-002から出土した壺形土器で1/5が遺存する。色調は外面はふい褐色で、内面は褐色である。口径は復元で24.8cmで、器高は6.2cmである。整形・調整は外面は口縁部ヨコナデを施し, 体部はヘラケズリ, 内面はナデを施している。胎土は砂質で、焼成は良好である。5はSK-002から出土した須恵器の壺型土器で、底部が遺存する。色調は内外面とも暗灰黄色である。底径は復元で8.8cm, 残存器高は4.1cmである。整形・調整は外面は高台は高くしっかりしている



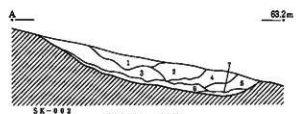
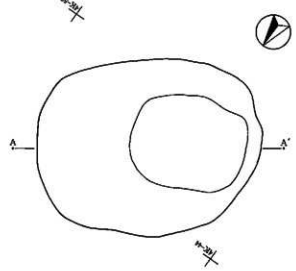
- SK-001
- 1: 暗褐色土層 ローム粒を少量含む
 - 2: 暗褐色土層 1層よりローム粒が少なく、やや粗い
 - 3: 暗褐色土層 2層よりローム粒が少なく、比較的粗く、しまり悪い
 - 4: 暗褐色土層 ローム粒を1層より多く含む、やや粗い
 - 5: 暗褐色土層 ローム粒を中程度の量に含む、しまり良好
 - 6: 暗褐色土層 ローム粒を主にした層、しまり悪い



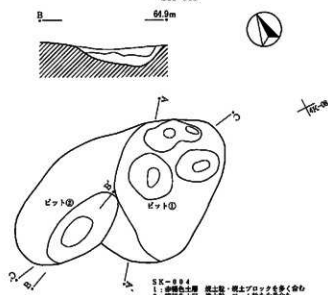
- SK-002
- 1: 暗褐色土層 ローム粒を少量含む、しまり悪い
 - 2: 暗褐色土層 ローム粒を少量含む、1層に比べしまり悪い
 - 3: 暗褐色土層 1層よりローム粒を多く含む
 - 4: 暗褐色土層 ローム粒を粗雑含む、しまり悪い
 - 5: 暗褐色土層 1層より多くローム粒を含む、粗雑く、しまり悪い
 - 6: 暗褐色土層 ローム粒を中程度の量に含む、しまり良好
 - 7: 暗褐色土層 ローム粒を主にした層



- SK-003
- 1: 暗褐色土層 ローム粒を少量含む
 - 2: 暗褐色土層 ローム粒を中程度の量に含む
 - 3: 暗褐色土層 ローム粒を多く含む、粗雑い

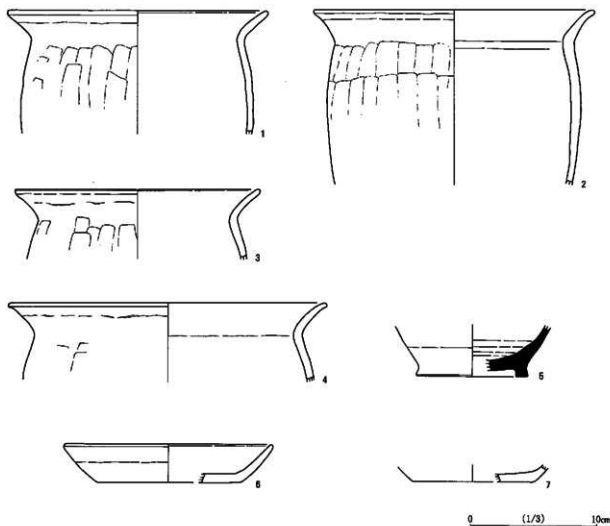


- SK-004
- 1: 暗褐色土層 ローム粒を少量含む、しまり悪い
 - 2: 暗褐色土層 ローム粒を少量含む、1層に比べしまり悪い
 - 3: 暗褐色土層 1層よりローム粒を多く含む
 - 4: 暗褐色土層 ローム粒を粗雑含む、しまり悪い
 - 5: 暗褐色土層 1層より多くローム粒を含む、粗雑く、しまり悪い
 - 6: 暗褐色土層 ローム粒を中程度の量に含む、しまり良好
 - 7: 暗褐色土層 ローム粒を主にした層



- SK-004
- 1: 暗褐色土層 粗土粒、粗土質を多く含む
 - 2: 暗褐色土層 粗土粒、ローム粒を少量含む
 - 3: 暗褐色土層 粗土粒を少量含む、粗土質を少量含む
 - 4: 暗褐色土層 粗土粒、粗土質を多く含む
 - 5: 暗褐色土層 ローム粒を多く含む、粗土質を多く含む

第47図 SK-001~004実測図

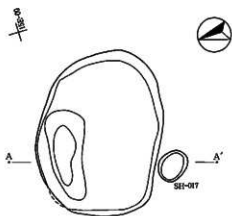


第48図 SK-001~003出土遺物

作りで、内面はナデ調整を施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。6はSK-003から出土した杯形土器で1/3が遺存する。色調は外面は橙色で、内面は橙色である。口径は復元で16.2cmで、底径は復元で11.3cm、器高は3cmである。整形・調整は外面は摩滅が大であるがナデが施されていることがわかる。内面もナデ調整を施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。7はSK-003から出土した。杯形土器で1/3が遺存する。色調は内外面とも橙色である。底径は復元で9.5cm、器高は1.3cmである。整形・調整は外面はヨコヘラケズリ、底部ヘラキリで、内面はナデ調整を施している。胎土は普通で、焼成は普通である。

SK-014・SH-017出土遺物(第7・49図, 図版25)

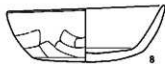
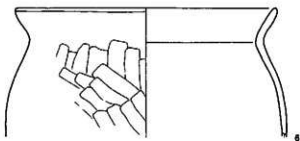
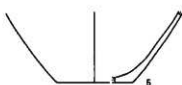
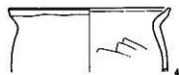
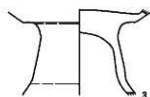
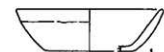
1はSK-014から出土した杯形土器で1/5が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で11.5cmで、底径は復元で7cm、器高は3.3cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ、口縁部ヨコナデを施している。胎土は赤茶色粒を含み、焼成は良好である。2はSK-014から出土した杯形土器で1/5が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で11.2cmで、底径は復元で7.8cm、器高は3.3cmである。整形・調整は外面は口縁部ヨコナデを施している。体部はヘラケズリ、底部はヘラ整形である。胎土は緻密で、



SK-014 · SH-017

0 (1/80) 3m

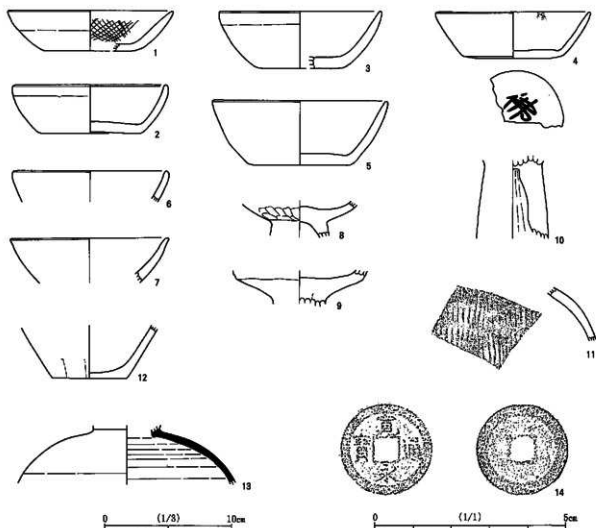
- SK-014 · SH-017
- 1: 掘削土層 □→A段を多く含む、明土
 - 2: 埋戻土層 掘削面を多く含む、山砂を含む
 - 3: 埋戻土層 □→A段、掘削面を少量含む
 - 4: 埋戻土層 掘削面を多く含む、2層より掘削面の混入は少ない
 - 5: 埋戻土層 □→A段を多く含む、明土、Lより厚い



0 (1/3) 10cm

第49図 SK-014 · SH-017実測図 · 出土遺物

焼成は良好である。3はSK-014から出土した高杯で、杯部と脚部の接合部が遺存する。色調は内外面ともにぶい黄橙色である。残存器高は6.7cmである。整形・調整は内外面はナデを施している。胎土は赤茶粒を含む。焼成は普通である。4はSK-014から出土した。甕形土器で口縁部の1/5が遺存する。色調は内外面とも褐色である。口径は復元で12.6cmで、残存器高は5cmである。整形・調整は外面はタテヘラケズリ、内面はヨコヘラケズリを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。器面は2次焼成を受けた時の剝離痕が見られる。5はSK-014から出土した。甕形土器で底部の1/5が遺存する。色調は内外面ともにぶい褐色である。底径は復元で6cm、残存器高は5.6cmである。整形・調整は外面はヨコヘラケズリ、内面はナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。6はSK-014から出土した。甕形土器で口縁部の1/5が遺存する。色調は内外面ともにぶい褐色である。口径は復元で20.3cmで、器高は10.1cmである。整形・調整は外面はヘラケズリで、内面はヨコナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。7はSK-014から出土した甕形土器で胴部片である。色調は外面は灰白色で、内面は灰黄色である。整形・調整は外面はタタキメがみられる。胎土は緻密で、焼成は良好である。8はSH-017から出土した。杯形土器でほぼ完形である。色調は内外面ともにぶい橙色である。口径は12.3cmで、底径は8.7cm、器高は4.4cm



第50図 遺構外出土の遺物

である。整形・調整は外面はヘラケズリ後ナデを施し、内面はナデを施している。胎土は緻密で赤茶粒を含み、焼成は良好である。

遺構外出土の遺物（第50図、図版25）

1は4Kから出土した杯形土器で1/5が遺存する。色調は外面はにぶい褐色で、内面はにぶい褐色である。口径は復元で11.7cmで、底径は復元で6.8cm、器高は4.5cmである。整形・調整は外面はヨコヘラケズリ、口縁部ヨコナデを施している。内面はミガキを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。杯部内面に格子状暗文がみられる。2は4Kから出土した杯形土器で1/5が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で11.9cmで、底径は復元で6.2cm、器高は3.8cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ、口縁部ヨコナデ、内面はナデを施している。胎土は緻密で、赤彩が施されている。焼成は良好である。3は4Kから出土した杯形土器で1/5が遺存する。色調は内外面ともにぶい黄褐色である。口径は復元で12.1cmで、底径は復元で7.8cm、器高は3.7cmである。整形・調整は外面はヨコヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はミガキを施している。胎土は緻密で赤茶粒を含み、焼成は良好である。4は4Kから出土した杯形土器である。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で12.1cmで、底径は復元で7.8cm、器高は3.7cmである。整形・調整は外面は底部周囲はヨコヘラケズリ、底面はヘラ整形を施す。内面は摩滅しているが丁寧にナデている。胎土は砂粒を含むが良好で、焼成も良好である。底部外面に「佛」の墨書がかかっている。5は4Mから出土した杯形土器で体部1/5を欠損する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で13.6cm、底径は8.2cm、器高は5.1cmである。整形・調整は外面は摩滅が激しいが、ナデを施していることがわかる。内面はナデを施している。胎土は緻密で、焼成は普通である。6は4Kから出土した杯形土器で口縁部1/5が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で12.4cm、器高は3.5cmである。整形・調整は外面はヨコヘラケズリ、口縁部はヨコナデ、内面はヨコナデ後ミガキを施す。胎土は緻密で、焼成は良好である。7は4Kから出土した杯形土器で1/3が遺存する。色調は内外面とも橙色である。口径は復元で12.8cmで、底径も復元で7.2cm、器高は3.2cmである。整形・調整は外面はヘラケズリ、口縁部はナデを施している。内面もナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。8は4Kから出土した高杯で1/3が遺存する。色調は内外面ともにぶい赤褐色である。残存器高は2.5cmである。整形・調整は外面はヘラケズリで、内面はミガキを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。9は12Gから出土した高杯で、杯部から脚部の部分が遺存する。色調は内外面とも赤褐色である。残存器高は2.7cmである。整形・調整は内外面ともナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。10は12Hから出土した高杯で脚部の1/2が遺存する。色調は内外面とも明赤褐色である。残存器高は6cmである。整形・調整は外面はミガキを施している。胎土は砂質で、焼成は良好である。11は4Lから出土した甕形土器で胴部片である。色調は内外面ともにぶい黄褐色である。整形・調整は外面はタクキメが見られる。胎土は緻密で、焼成は良好である。12は4Lから出土した壺形土器の底部片である。色調は内外面とも橙色である。底径は5.9cm、残存器高は4.2cmである。整形・調整は外面は底部ヘラケズリ、内面はヘラナデを施している。胎土は緻密で赤茶粒を含み、焼成は良好である。13は4Lから出土した須恵器長頸壺の肩部である。色調は外面はオリブ黄色で、内面は灰黄色である。残存器高は4.9cmである。整形・調整は外面は淡い緑の釉が見られる。内面は回転ナデを施している。胎土は緻密で、焼成は良好である。14は12Gから出土した寛永通宝でほぼ完形である。径2.45cmである。

第6表 出土遺物観察表

国名	遺跡名	遺物番号	出土層	出土位置	形状・形	色調		遺存状態	単位: cm, ()は取元数	形状・調整		胎土	構成	備考				
						外面	内面			口徑	底徑				高さ・残存高さ	外面	内面	
20	1	3	SM004	9	1	4	小釜	褐色	褐色	口縁1/4	(3.8)	-	4.7	ヘラケズリ後ミダキ	ミダキ	顕著	良好	
20	1	25	SM002	4	1	3	甕	明赤褐色	明赤褐色	1/4底縁欠損	13.1	-	4.6	ヘラケズリ、口縁部コナテ	ハケ後ナテ	顕著を含む良好	良好	
20	1		SM002	4	1	7	杯	褐色	褐色	1/4	(11.2)	(7.0)	4.8	ヨコヘラケズリ、口縁部コナテ	ミダキ	顕著、赤褐色を含む	良好	
20	2	22	SM002	5	1	11	小釜	褐色	褐色	完形	7.9	2.9	8.6	ヘラケズリ後ミダキ	ミダキ	顕著	良好	
20	2	21	SM002	1	1	8	杯	明赤褐色	明赤褐色	底縁欠損	13.8	-	5.0	ヘラケズリ後ナテ	ナテ	顕著、顕著	良好	
20	2		SM004	8	1	17	甕	明赤褐色	明赤褐色	底縁1/4	-	2.8	1.7	ミダキ	ミダキ	顕著、顕著	良好	
20	3	1	SM004	1	1	4	高坏	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	胴部1/5	(18.0)	-	5.3	ミダキ	ミダキ	顕著	良好	
20	3	20	SM002	2	1	11	甕	明赤褐色	明赤褐色	ほぼ完形	9.8	4.8	10.9	ミダキ	ミダキ	赤影、顕著	良好	
20	3		SM003	3	1	12	高坏	赤褐色	赤褐色	胴部1/4	(17.3)	-	4.9	ヘラケズリ後ミダキ	ミダキ	赤影、顕著	良好	
20	4	27	SM004	4	1	2	高坏	にぶい褐色	にぶい褐色	胴部	-	-	4.3	ミダキ	ナテ	普通	普通	
20	4	13	SM005	1	1	15	高坏	明赤褐色	にぶい褐色	胴部の2/3を欠損	(18.5)	13.8	15.0	ハケ後ミダキ	ミダキ	赤影、赤影が顕著	良好	
20	4		SM002	3	1	1	杯	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	口縁部1/2	(18.0)	-	4.1	ヘラミダキ	ミダキ	赤影、顕著	良好	
20	5	23	SM004	3	1	2	高坏	にぶい赤褐色	にぶい褐色	胴部	-	-	8.3	ミダキ	ミダキ	良好、赤褐色を含む	良好	
20	5		SM002	5	1	2	甕	褐色	にぶい褐色	底縁1/4	-	(10.4)	2.8	タテハテ	ナテ	長江底、顕著の赤褐色を含む	良好	
20	5	26	SM003	6	1	10	高坏	明赤褐色	にぶい褐色	胴部片	-	-	7.9	ミダキ	ナテ	赤影、顕著	良好	
20	6	3	SM002	7	1	2	高坏	赤褐色	赤褐色	杯・胴部合部	-	-	8.4	ナテ	ナテ	砂質	良好	
20	6		SM004	5	1	2	甕	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	底縁1/3	-	(8.0)	2.5	ナテ	ナテ	砂質	普通	
20	7		SM004	6	1	4	甕	にぶい褐色	褐色	底縁1/3	-	(7.0)	2.7	ナテ	ナテ	砂質	普通	
20	8		SM004	7	1	8	甕	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	底縁	-	(7.4)	2.4	ミダキ	ミダキ	顕著、赤褐色を含む	良好	
20	9		SM004	10	1	11	万子			底部を欠損する	中1.8	高さ9.0						
40	1		SI001	1	1	17	杯形土器	褐色	褐色	1/5	(12.0)	(7.7)	3.7	ヘラケズリ、口縁部コナテ	ナテ	顕著	良好	
40	2		SI001	2	1	1	杯形土器	明赤褐色	明赤褐色	1/3	(12.4)	(8.2)	3.9	横ヘラケズリ後ナテ、底部ヘラケズリ後調整はナテ	ナテ	顕著	良好	
40	3		SI001	3	1	1	杯	褐色	褐色	底縁片	-	(8.0)	1.0	ヘラケズリ	ナテ	顕著	良好	
40	4		SI001	4	1	44	甕	黒褐色	明褐色	胴部片	-	-	-	ナテ	ナテ	砂質	普通	内面は磨光あり
41	1	19	SI002	2	1	1	甕	褐色	褐色	1/2	(11.4)	2.8	12.8	ハケ後ミダキ、口縁部コナテ	横ヘラケズリ	顕著	良好	磨光あり
41	2	27	SI002	4	1	3	甕	褐色	褐色	ほぼ完形	(8.5)	3.1	9.7	ケズリ後ミダキ	ナテ	顕著	良好	赤色顔料が付着
41	3	14	SI002	5	1	8	高坏	にぶい黄褐色	褐色	胴部片	-	12.6	7.7	ハケ調整後ミダキ	胴部ハケケズリ	顕著	良好	
41	4	7	SI002	1	1	1	甕	にぶい黄褐色	黄褐色	胴部1/4を欠損	16.4	-	13.8	タテハテ、口縁部コナテ	ナテ	顕著	良好	
41	5	6	SI002	3	1	2	甕	褐色	褐色	ほぼ完形	16.4	7.3	26.4	タテヘラケズリ後ナテ	ナテ	顕著	良好	
41	6		SI001	1	8	白玉	灰青色	灰青色	完形	0.46	0.41	0.14			滑石			
41	7		SI001	1	7	白玉	灰青色	灰青色	完形	0.4	0.20	0.19			滑石			
41	8		SI002	1	8	白玉	灰青色	灰青色	完形	0.41	0.20	0.15			滑石			
41	9		SI002	1	9	白玉	灰青色	灰青色	完形	0.45	0.42	0.18			滑石			
41	5		SI002	1	10	白玉	灰青色	灰青色	完形	0.42	0.41	0.21			滑石			
41	6		SI003	2	1	2	埴?	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	口縁部1/5	(12.0)	-	2.6	赤影、内外面コナテ	ナテ	顕著	良好	
41	7	16	SI003	1	1	3	高坏	明赤褐色	明赤褐色	胴部1/4欠	17.2	-	6.4	青銅タテヘラミダキ	ヨコヘラミダキ	顕著	良好	
41	8		SI003	3	1	2	高坏	赤褐色	赤褐色	高坏下部1/5	-	(7.8)	1.8	赤影、ミダキ	ナテ	顕著	良好	
41	9	20	SI004	2	1	8	甕	褐色	褐色	口縁部の一部を欠く	-	2.3	9.0	ヘラケズリ後ミダキ	ナテ	顕著、赤褐色を含む	良好	
41	3	41	SI004	4	1	7	高坏	にぶい褐色	にぶい褐色	胴部	-	-	5.3	ヘラケズリ後ミダキ	赤影、顕著	普通	1次焼成を受けている	
41	3		SI004	3	1	5	高坏	赤褐色	褐色	胴の一部	-	-	7.3	ミダキ	赤影、顕著	良好		
41	4	8	SI004	1	1	3	甕	褐色	褐色	底部	16.5	6.0	25.2	タテヘラケズリ後ミダキ、口縁部コナテ	ナテ	顕著	良好	
41	5		SI005	10	1	20	埴	にぶい赤褐色	にぶい褐色	口縁部1/5	(10.0)	-	4.2	ヨコナテ	ヨコナテ	顕著	良好	
41	2	2	SI006	9	1	20	埴	褐色	褐色	口縁部1/5	(11.0)	-	5.0	ミダキ	ミダキ	顕著	良好	
41	3		SI006	8	1	21	埴?	赤褐色	赤褐色	口縁部1/3	(17.8)	-	4.2	ミダキ	ミダキ	顕著	良好	

国産品 登録番号	大 小	登録番号	高 度	幅	厚さ	登録・形状	色調		透射状態	単位: cm. ()は目安値			形状・調整		粘土	備考		
							外面	内面		口径	高さ	厚さ・ 調整	外面	内面				
45	4	18	S3005	3	1	1	緑	にぶい 赤褐色	1/3欠	(13.6)	5.0	7.6	ヘラケズリ鏡ナデ	ナデ・ミガ キ	普通	普通	2次焼成を受けている	
46	5	31	S3005	4	1	3	杯	褐色	褐色	一部欠	(10.3)	3.8	6.6	ヘラケズリ鏡ナデ	ナデ	調整	良好	内面・底面磨削あり
45	5	30	S3005	5	1	16	杯	明赤褐色	明赤褐色	全体1/5 を欠す	(11.0)	7.3	7.3	ハケ蓋形	ハケ	調整	良好	
46	7	11	S3005	1	1	15	高杯	明赤褐色	明赤褐色	ほぼ定形	15.9	12.5	13.6	ミガキ	ミガキ	調整、磨削	良好	
45	8	42	S3005	11	1	9	高杯	にぶい 赤褐色	褐色		—	—	3.3	ミガキ	調整、赤褐色紋を含む	良好		
45	9	15	S3005	2	1	5	高杯	明赤褐色	明赤褐色	杯1/4	17.6	—	6.8	ミガキ	ミガキ	調整、赤褐色紋を含む	良好	
45	10	17	S3005	6	1	1	高杯	赤褐色	褐色	跡のみ	—	11.0	7.0	赤色、ミガキ	調整	普通	良好	
45	11		S3005	7	3	24	壺	黒褐色	黒褐色	1/5	(13.0)	—	10.0	ヘラケズリ、口縁部コナデ	ナデ	調整、赤褐色紋を含む	良好	
46	1	29	S3005	6	1	5	小型壺	赤褐色	赤褐色	口縁部のみ	3.6	—	3.9	ヘラケズリ鏡ミガキ	ミガキ	調整	良好	
46	2	28	S3006	4	1	3	小型	にぶい 褐色	にぶい 褐色	定形	7.4	3.2	8.5	ヘラケズリ鏡ナデ	ヘラケズリ 鏡ナデ	普通、赤褐色紋を含む	普通	磨削が荒れている
46	3	23	S3006	2	1	7	杯	赤褐色	赤褐色	3/4	(15.2)	—	5.3	ミガキ	ミガキ	普通、赤褐色紋を含む	普通	磨削が荒れている
46	4	13	S3006	1	1	2	高杯	赤褐色	暗赤褐色	杯底1/5 欠損	(14.8)	11.5	11.7	ナデ	ミガキ	調整	良好	磨削が荒れている
45	5	24	S3006	3	1	2	壺	にぶい 黄褐色	褐色	底部片	—	4.8	5.5	ヘラケズリ鏡ナデ	ナデ	赤褐色紋を含む、砂質	普通	
45	6	10	S3006	5	1	4	壺	褐色	褐色	胴部以下	—	6.4	8.5	ナデ	砂質、赤褐色紋を含む	普通	普通	
46	1		SK001	2	1	2	壺	明赤褐色	明赤褐色	1/4	(20.3)	—	10.3	チタヘラケズリ、口縁部コナデ	ナデ	調整	良好	
46	2	4	SK001	1	1	10	壺	明赤褐色	明赤褐色	口縁部1/5	(21.0)	—	13.8	ヘラケズリ	ナデ	砂質	良好	
46	3		SK001	3	1	1	壺	にぶい 褐色	にぶい 褐色	1/5	(18.0)	—	3.5	チタヘラケズリ、口縁部コナデ	ナデ	調整	良好	
45	4		SK002	1	1	1	壺	にぶい 褐色	褐色	1/5	(24.8)	—	6.2	口縁部コナデ、赤褐色ヘラケズリ	ナデ	砂質	良好	
45	5	43	SK002	2	1	31	瓶蓋型	灰青色	灰青色	底部	—	(2.8)	4.1	高さが高く、しっくりしている	ナデ	調整	良好	
46	6	40	SK003	1	1	5	杯	褐色	褐色	1/3	(16.2)	(11.2)	3.0	磨滅大、ナデ	ナデ	調整	良好	
45	7		SK003	2	1	16	杯	褐色	褐色	1/3	—	(3.5)	1.3	ヨコヘラケズリ、底面ヘラケズリ	ナデ	普通	普通	
46	1		SK014	4	1	34	杯	褐色	褐色	1/5	(11.5)	(7.0)	3.3	ヘラケズリ、口縁部コナデ	ナデ	赤褐色紋を含む	良好	
46	2		SK014	5	1	6	杯	褐色	褐色	1/5	(11.3)	(7.8)	3.3	口縁部コナデ、赤褐色ヘラケズリ、底面ヘラケズリ	調整	普通	良好	
46	3	34	SK014	6	1	2	高杯	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	杯・胴部 全体	—	—	6.7	ナデ	ナデ	普通、赤褐色紋を含む	普通	
46	4		SK014	2	1	28	壺	褐色	褐色	口縁部1/5	(12.6)	—	5.0	チタヘラケズリ	ヨコヘラケ ズリ	調整	良好	砂質は2次焼成をうけては げれる
46	5		SK014	3	1	45	壺	にぶい 褐色	にぶい 褐色	底部1/5	—	(6.8)	3.5	ヨコヘラケズリ	ナデ	調整	良好	
46	6		SK014	1	1	10	壺	にぶい 褐色	にぶい 褐色	口縁部1/5	(20.3)	—	10.1	ヘラケズリ	ヨコナデ	調整	良好	
46	7		SK014	7	1	30	壺	灰白色	灰青色	胴部片	—	—	—	チタキ	調整	良好		
46	8	22	SH017	1	1	2	杯	にぶい 褐色	にぶい 黄褐色	ほぼ定形	12.3	8.7	4.4	ヘラケズリ鏡ナデ	ナデ	調整、赤褐色紋を含む	良好	
50	1		4K	4	1	34-1	杯	にぶい 褐色	にぶい 褐色	1/5	(12.7)	(6.8)	4.5	ヨコヘラケズリ、口縁部コナデ	ミガキ	調整	良好	杯縁内面に格子状彫文
50	2		4K	1	1	34-3	杯	褐色	褐色	1/5	(11.9)	(6.2)	3.8	ヘラケズリ、口縁部コナデ	ナデ	調整、赤褐色紋を含む	良好	
50	3		4K	3	1	48-2	杯	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1/5	(12.7)	(6.8)	4.5	ヨコヘラケズリ、口縁部コナデ	ミガキ	調整、赤褐色紋を含む	良好	底部外面磨削の傷あり
50	4		4K	2	1	34-4	杯	褐色	褐色	全体1/5 欠損	(12.1)	(7.8)	3.7	ヨコヘラケズリ	ナデ	砂質を含むが調整	普通	
50	5	28	4M	1	1	10-1	杯	褐色	褐色	全体1/5 欠損	(12.6)	8.2	5.1	磨滅大、ナデ	ナデ	調整	普通	
50	6		4K	6	1	34-1	杯	褐色	褐色	口縁部1/5	(12.4)	—	3.5	ヨコヘラケズリ、口縁部コナデ	ヨコナデ鏡 ミガキ	調整	良好	
50	7		4K	5	1	37-3	杯	褐色	褐色	1/3	(12.6)	(7.2)	3.2	ヘラケズリ、口縁部ナデ	ナデ	調整	良好	
50	8		4K	7	1	34-2	高杯?	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	1/3	(12.0)	—	2.5	ヘラケズリ	ミガキ	調整	良好	
50	9	13C	1	1	1	高杯	赤褐色	赤褐色	杯縁から 胴部残存	—	—	2.7	ナデ	ナデ	調整	良好		
50	10	12H	1	1	0	高杯	明赤褐色	明赤褐色	胴部1/2	—	—	6.0	ミガキ	調整	砂質だが調整	良好		
50	11	4L	3	1	11-4	壺	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	胴部片	—	—	—	チタキ	調整	普通	良好		
50	12	29	4L	1	1	62-9	壺	褐色	褐色	底部片	—	—	5.9	底面ヘラケズリ	ヘラケナデ	調整、赤褐色紋を含む	良好	
50	13	44	4L	2	1	64-1	壺(横置型)	灰青色	灰青色	胴部片	—	—	4.9	深い溝の跡が見られる	磨削ナデ	調整	良好	
50	14		13C	1	1	寛永通宝			定形									

第5章 ま と め

大門口遺跡・大門口古墳群の発掘成果は以下のとおりである。

旧石器時代の遺物は、下層の確認調査で2地点から遺物が出土した。そのため拡張して調査を進めたが、隣接したグリッドから遺物が数点出土したのみであったので確認調査の範囲内で終了した。出土した遺物は、Ⅱ層下位からの出土とⅢ層の上面からの出土であった。このことから、本台地での旧石器時代の人々の活動は少なかったものと考えられる。

縄文時代の遺物としては、早期の熱糸文系土器群の出土と標群の出土が確認された。熱糸文系土器群の出土と標群の出土範囲はほぼ重複している。標群の中から石鏃の未製品が3点出土している。遺構は炉穴を検出したが、住居跡などは発見されなかった。

古墳時代になると台地上に堅穴住居が作られ、生活の痕跡がみられた。しかし、調査された堅穴住居跡は6軒のみで、その内の1軒は堅穴住居跡としては形状など不明な点がある。南側台地からは5軒の堅穴住居跡が調査された。これら住居跡はほぼ等間隔に位置しており、建て替えや重複はみられない。短期間の居住で、他所へ移動していったものと考えられる。台地上には他に3基の円墳と、奈良・平安時代と思われる方形墳が1基築造されていた。円墳からは埋葬施設は発見されなかった。方形墳からは石櫃を使用したと推定される埋葬施設の痕跡が調査されたが、伴出遺物はなかった。

4Kグリッドから「佛」と墨書された土師器が出土したが、遺構は確認されなかった。県内では多くの「佛」の墨書土師器が出土しており、31例が報告されている。出土状況を概観すると、それらの多くが堅穴住居跡からの出土である。しかし、西大野第一遺跡、萩ノ原遺跡基壇、上総国分寺尼寺、下総国分寺出土の「佛」墨書土師器は住居跡以外からの出土である。西大野第一遺跡以外は古代寺院および国分寺からの出土である。本遺跡は西大野第一遺跡と同じような性格を持っていたと推定され、一般の居住空間としての場所ではなく、なんらかの修行的な性格を持った場所あるいは生活空間と考えられる。

千葉県史「千葉県の歴史 資料編 古代」

1. 大野第1遺跡

【土気緑の森工業団地内発掘調査報告書】 (財)千葉県文化財センター 1994

2. 大野第7遺跡

【土気緑の森工業団地内発掘調査報告書】 (財)千葉県文化財センター 1994

3. 萩ノ原遺跡

【千葉県萩ノ原遺跡—房総地方の古代寺院跡研究—】 日本文化財研究所 1977

4. 上総国分寺尼寺

宮本敬一「上総国分寺の成立」『東海道の国分寺』 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 1994

5. 下総国分寺

【下総国分寺跡—平成元～5年度遺跡発掘調査報告書】 市立市川考古博物館 1994

6. 井戸向遺跡

【八千代市井戸向遺跡】 (財)千葉県文化財センター 1987

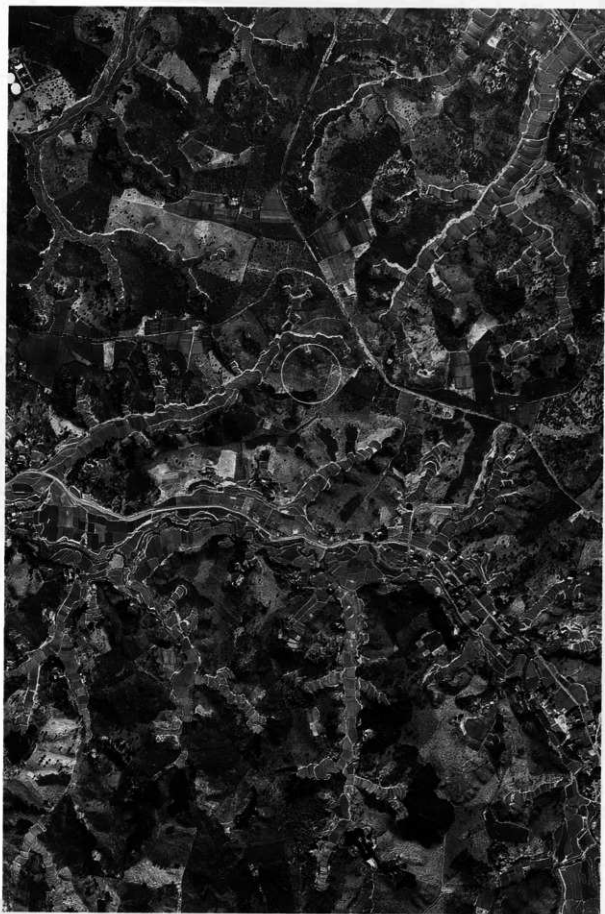
7. 白幡前遺跡

- 【八千代市白幡前遺跡】（財）千葉県文化財センター 1991
8. 江原台遺跡
 【江原台】佐倉市教育委員会 1979
 【佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅱ】（財）千葉県文化財センター 1980
9. 高岡大山遺跡
 【高岡大山遺跡】『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅱ・Ⅲ』（財）印旛郡市文化財センター 1993
10. 南広遺跡
 【佐倉市南広遺跡】（財）千葉県文化財センター 1993
11. 山口遺跡
 【山口遺跡】『公津原Ⅱ』千葉県教育委員会・（財）千葉県文化財センター 1981
12. 山谷遺跡
 【山谷遺跡発掘調査概要】『成田市の文化財第7・8輯』成田市教育委員会 1977
13. 伊籬白幡遺跡
 【酒々井町伊籬白幡遺跡】（財）千葉県文化財センター 1986
14. 尾上藤木遺跡
 【千葉県印旛郡酒々井町 下台遺跡・尾上藤木遺跡A・B地区発掘調査報告書】（財）印旛郡文化財センター 1988
 【千葉県印旛郡酒々井町 尾上藤木遺跡C地区発掘調査報告書】（財）印旛郡文化財センター 1990
15. 滝台遺跡
 高木 博彦「墨書土器より見たる房総古代仏教の一面」『MUSEUMちば 第10号』千葉県博物館協会 1979
 九子 亘「新発見の『山邊郡印』をめぐって」『古代文化 第21巻第4号』古代学協会 1969
16. 鳴神山遺跡
 郷堀 英司「鳴神山遺跡群出土の文字資料」『研究連絡誌 第40号』（財）千葉県文化財センター 1994
17. 伊地山藤之台遺跡
 【伊地山藤之台遺跡】『大栄栗源干潟線埋蔵文化財調査報告書』（財）千葉県文化財センター 1990
18. 土持台遺跡
 【多古工業団地内遺跡群発掘調査報告書】（財）千葉県文化財センター 1986
19. 砂田中台遺跡
 【千葉県大網白里町 砂田中台遺跡】（財）山武郡市文化財センター 1994
20. 西寺原遺跡
 【西寺原地区の調査】『水吉台遺跡群』（財）君津郡市文化財センター 1985

第7表 「仏」・「佛」墨書土器出土地名表 「千葉県の歴史」資料編 古代

	遺跡名	種類	器種	文字		位置	出土遺構	時代	文献
1	西大野第1遺跡	土師器	杯	佛佛	墨書	体部外面・側	遺構外		1
2	大野第7遺跡	土師器	杯	佛	墨書	底部外面	4B壜穴	8世紀後	2
3	萩ノ原	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・正	15壜穴	8世紀後	3
4	萩ノ原	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・正	15壜穴	8世紀後	3
5	萩ノ原	土師器	かめ	佛	墨書	底部外面	1基壇	9世紀中	3
6	上総国分寺尼寺	土師器	杯	佛佛	墨書	体部外面・横	尼寺		4
7	下総国分寺	土師器	杯	佛	線刻	底部内面	1区6土坑	9世紀中	5
8	井戸内II群	土師器	杯	佛	墨書	底部外面	88壜穴	9世紀中	6
9	白幡前2群A	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・横	124壜穴	8世紀後	7
10	白幡前2群A	須恵器	蓋	佛	墨書	天井部外面・横	124壜穴	8世紀後	7
11	江原台	土師器	高台皿	佛力	墨書	底部外面	102壜穴	9世紀後	8
12	江原台	土師器	杯	□佛	墨書	体部外面・横	23掘立	10世紀前	8
13	高岡大山	土師器	杯	佛	墨書	底部外面	95壜穴	9世紀後	9
14	南広	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・側	76壜穴	9世紀後	10
15	南広	土師器	杯	佛	墨書	底部外面	76壜穴	9世紀後	10
16	山口Loc20	土師器	杯・黒	佛	墨書	底部外面	30壜穴	8世紀後	11
17	幡谷・山谷	土師器	杯	佛	墨書	底部外面	4壜穴		12
18	伊藤白幡A地立	土師器	杯・黒	□(佛力?)	墨書	体部外面・正	100壜穴	9世紀後	13
19	尾上藤木	土師器	杯	佛	墨書	底部外面	29A壜穴	8世紀後	14
20	滝台	土師器	杯	佛	墨書	体部外面		9世紀	15
21	鳴神山	土師器	鉄鉢	佛	墨書	体部外面・正	北201壜穴	9世紀前	16
22	伊地山藤之台	土師器	蓋	佛	墨書	天井部外面・正	5壜穴	8世紀後	17
23	伊地山藤之台	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・正	5壜穴	8世紀後	17
24	土持台	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・正	25壜穴	9世紀中	18
25	砂田中台	土師器	杯	或□(佛力)	墨書	底部外面	24壜穴	8世紀後	19
26	砂田中台	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・横	90壜穴	9世紀中	19
27	砂田中台	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・横	100B壜穴	9世紀中	19
28	砂田中台	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・横	100B壜穴	9世紀中	19
29	砂田中台	土師器	杯	佛	墨書	体部外面・正	109壜穴	8世紀後	19
30	永吉台西寺塚	土師器	杯	佛	墨書	底部内面	110壜穴	9世紀中	20
31	永吉台西寺原	土師器	杯	佛	墨書	底部内面	110壜穴	9世紀中	20

写真図版



道跡航空写真



1 古墳群 手前から4号墳



2 古墳群 手前から1号墳



1 14D-95



2 15E-00~17



3 2P 周辺



4 4M-00 周辺



1 4L-52 付近



2 SK-006

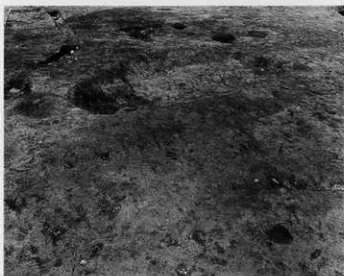


3 SK-007~009

1 SK-010~013



2 SK-015



3 SX-001 (集石出土状況)



4 SX-001 (掘り形)



1 SM-001 (調査前)



2 SM-001 (調査後)



3 SM-002 (調査前)

1 SM-002 (調査後)



2 SM-002
(周溝遺物出土状況)



3 SM-003 (調査前)





1 SM-003



2 SM-003
(遺物出土状況)



3 SM-003
(遺物出土状況)



4 SM-004 (調査前)

1 SM-004



2 SM-004
(主体部検出状況)



3 SI-001





1 SI-002



2 SI-002
(遺物出土状況)



3 SI-003

1 SI-004



2 SI-004
(遺物出土状況)



3 SI-005





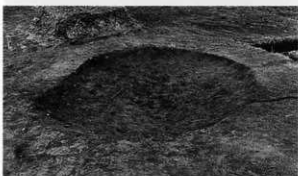
1 SI-006



2 SK-001



3 SK-002



4 SK-003



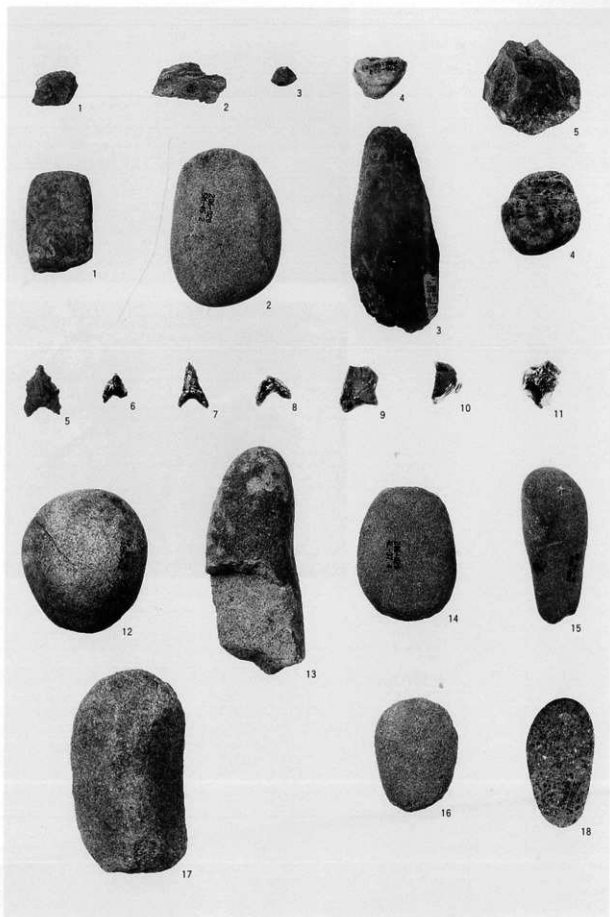
5 SK-004

1 SK-005

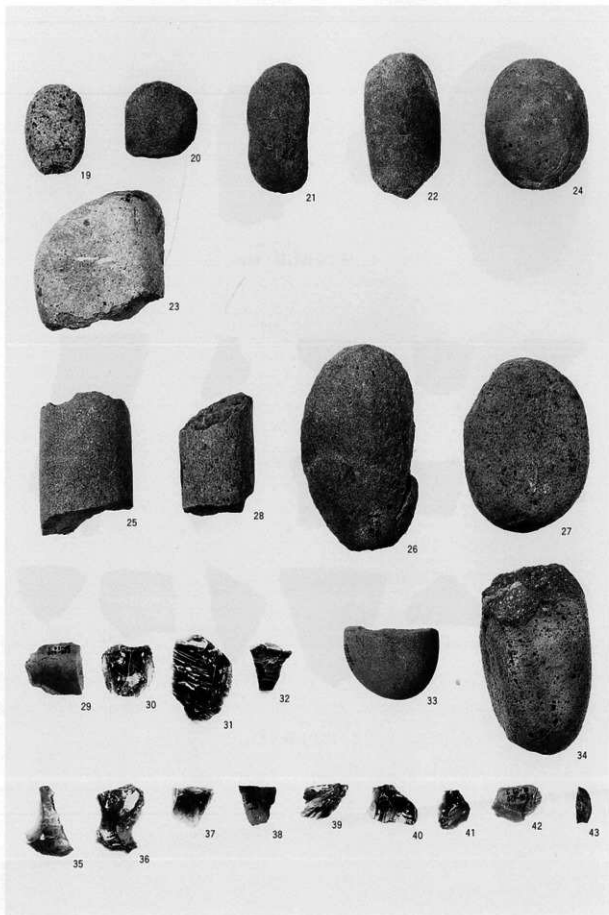


2 SK-014

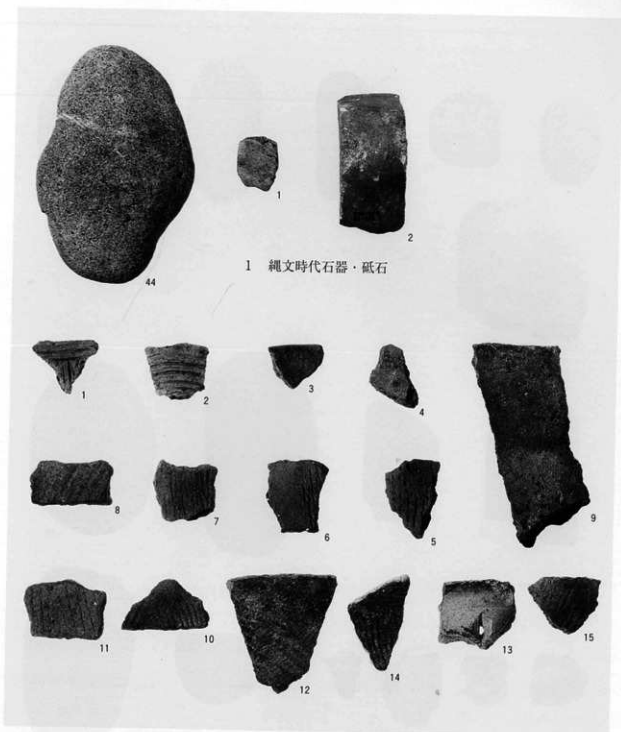




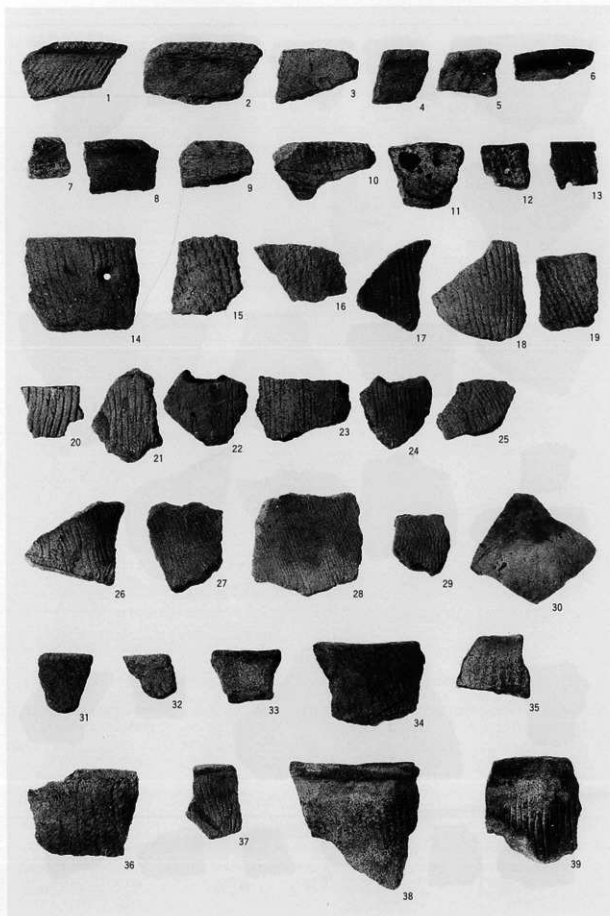
旧石器時代石器 (上段 1 ~ 5)
縄文時代石器 (下段 1 ~ 18)



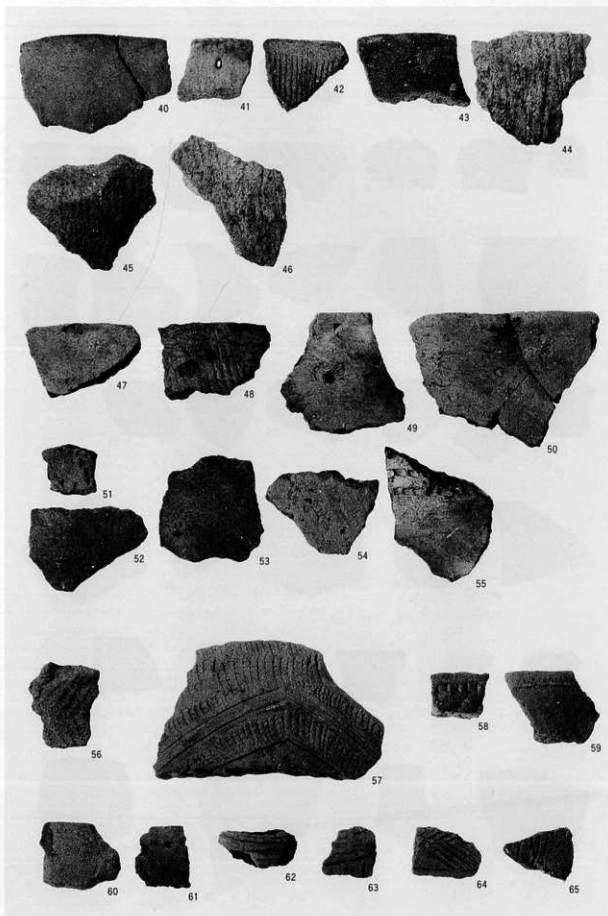
縄文時代石器



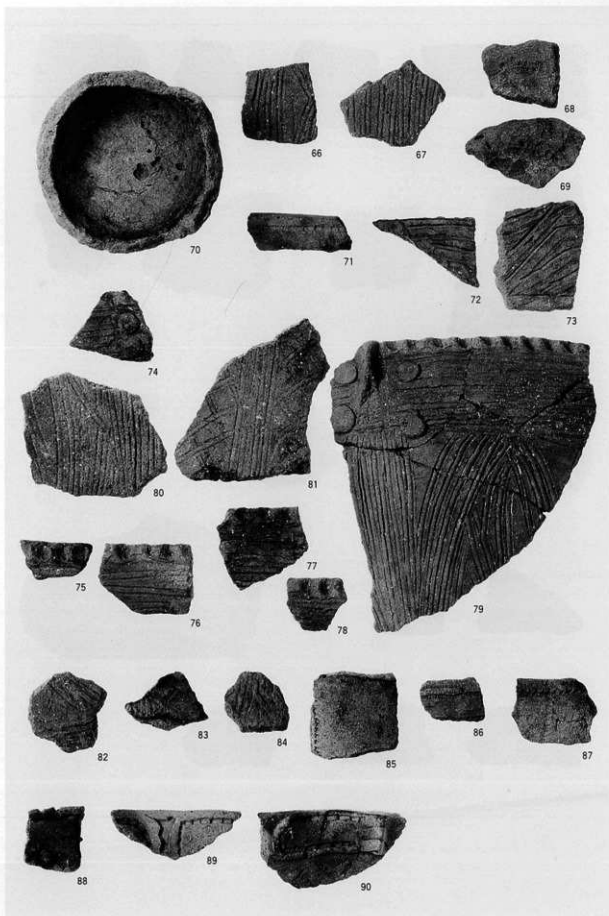
2 縄文土器 (1)



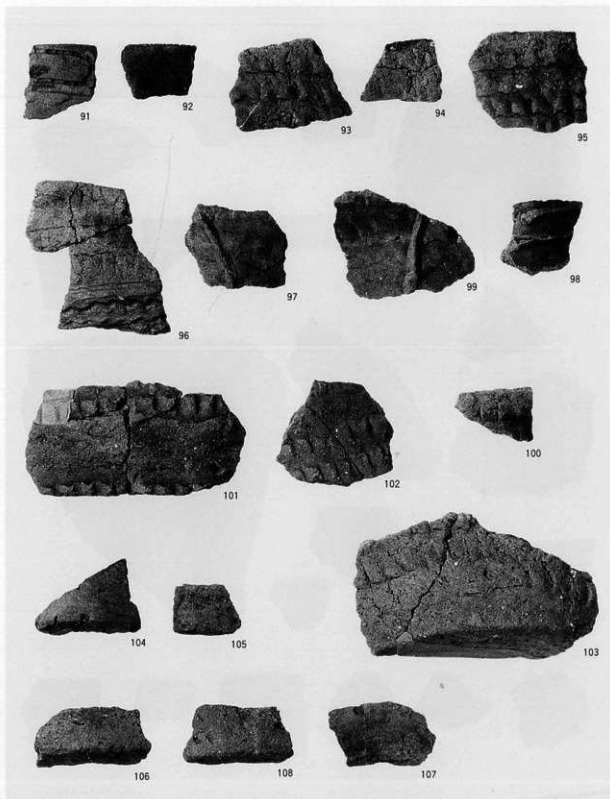
繩文土器 (2)



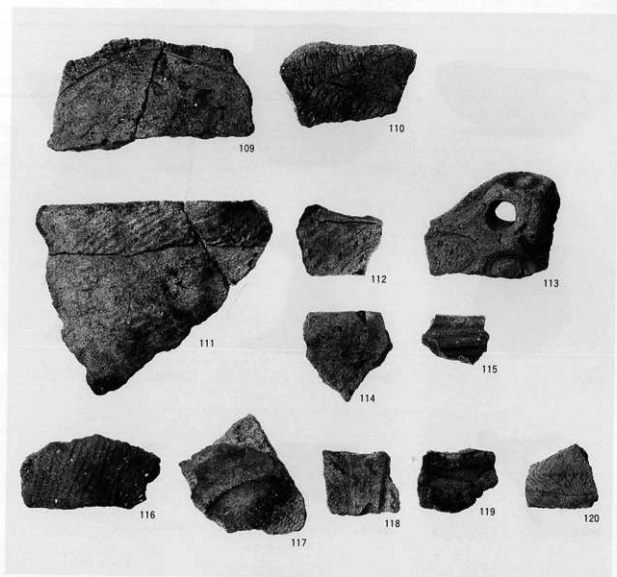
繩文土器 (3)



縄文土器 (4)

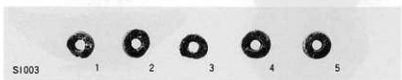


縄文土器 (5)



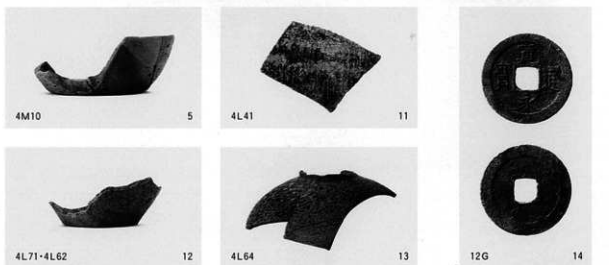
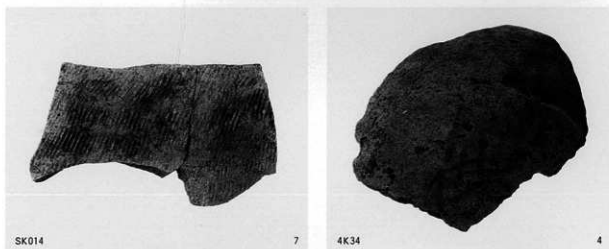
繩文土器 (6)





土師器・白土





土師器・須恵器・銭貨

報告書抄録

ふりがな	ひがしかんとうじどうしゃどう(きさらづ・ふつつせん)まいぞうぶんかざいちようさほうこくしよ							
書名	東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書							
副書名	大門口遺跡・大門口古墳群							
巻次	第519集							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号								
編著者名	相京邦彦							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2 TEL. 043(422)8811							
発行年月日	西暦2005年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大門口遺跡	千葉県木更津市 中島田字鹿道150	219	020	35° 20′ 50″	139° 57′ 00″	20000601 / 20010331	6,850	東関東自動車道 建設
大門口古墳群	千葉県木更津市 中島田字鹿道150	219	021				4基	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大門口遺跡	包蔵地	旧石器時代			石器			
	集落跡	縄文時代	炉穴	8基	縄文時代土器・礫・石器			
			土坑	2基				
			礫集中地点 ピット	6箇所 16基				
	古墳時代	住居跡	6軒	古墳時代土師器, 石製品, 石器				
	奈良・平安時代	土坑 ピット	6基 1基					
大門口古墳群	古墳	古墳時代	古墳	3基	古墳時代土師器, 鉄製品			
		奈良・平安時代	方形墳	1基	奈良・平安時代土師器			

千葉県文化財センター調査報告第519集

東関東自動車道（木更津・富津線）埋蔵文化財調査報告書3

—木更津市大門口遺跡・大門口古墳群—

平成17年3月25日発行

編 集	財団法人 千葉県文化財センター
発 行	日 本 道 路 公 団 東京都港区虎ノ門1-18-1
	財団法人 千葉県文化財センター 千葉県四街道市鹿波809-2
印 刷	大 和 美 術 印 刷 株 式 有 限 公 司 千葉県木更津市潮浜2-1-10
